

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 23 号



全日本大学ソフトボール連盟

REACH BEYOND



初の2ピース構造バット。

打球部、グリップ部が分離している2ピース構造によりしびれを軽減。
さらに斬新なデザイン&硬く弾く打感を実現。

Mizuno Pro
MAJOR QUALITY

CRBN²



ミズノ革ソフトボール

CRBN2 【3号革・ゴムボール用】

¥49,500 (本体価格¥45,000)

- カーボン+グラス
- Φ57mm
- トップバランス
- 専用バットケース付き
- 中国製

1CJFS10984	84cm	690g	ブルー × ネイビー (2714)
1CJFS10984	84cm	710g	ホワイト × レッド (0162)
1CJFS10985	85cm	720g	ダークシルバー × ブラック (0509)
1CJFS10986	86cm	730g	レッド × ブラック (6209)



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
中 野 元

学連機関誌「ウインドミル」第23号の発刊に当たりまして、ごあいさつを申し上げます。

2019年度の諸行事は、皆さまのご協力とご支援のおかげをもちまして滞りなく無事終えることができました。特に、全日本インカレは、男子が富山市で、女子が愛知県安城市で、それぞれ5年間拠点開催されます。第1年目の第54回大会は快晴にも恵まれ、大学スポーツ競技として新しい歴史の第一歩をふみだせました。これからますます魅力ある大会へ大きく飛躍していくことを、心より期待しています。

大学のチーム、選手もそれぞれ活躍しました。特に国際大会では、男子TOP日本代表選手として、あるいは東アジアカップ(女子)チームなどで、男女とも大いに活躍しその成果を残しました。こうした代表選手としての貴重な活躍・経験が、これからの大学ソフトボール競技全体のレベルアップに、さらに今年の東京オリンピックの盛り上がりにつながることを念願しています。

本連盟は、大学ソフトボール競技団体として、一般社団法人「大学スポーツ協会」(UNIVAS)に加盟しています。このUNIVASと連携して、第54回大会の試合が国内のみならず国際的にも映像配信されました。これは、本連盟の公式ホームページによる情報発信・情報交流に加えた、新たな試みとして行われました。

大学スポーツを取り巻く環境は刻々と変化しています。そのなかで、学連機関誌の役割はますます高まっています。この「ウインドミル」が新しい時代における大学ソフトボール発展のために、いっそう活用されることを願っています。「ウインドミル」にご協力いただきました皆さま、関係各位に心より感謝申し上げまして、ごあいさつといたします。

主催大会の記録●文部大臣杯第54回全日本大学男子選手権大会	-----	36
試合結果	-----	40
日本一をめざして	-----	47
日本体育大学ソフトボール部主将 京谷 優吾		
大会記録	-----	48
●文部大臣杯第54回全日本大学女子選手権大会	-----	49
試合結果	-----	51
繋ぐ 家族のようなチーム	-----	57
日本体育大学ソフトボール部主将 安川 裕美		
大会記録	-----	58
共催大会の結果●第34回東日本大学(女子)選手権大会	-----	59
試合結果	-----	60
●第34回東日本大学(男子)選手権大会	-----	62
試合結果	-----	63
●第51回西日本大学(男子)選手権大会	-----	65
試合結果	-----	66
●第51回西日本大学(女子)選手権大会	-----	70
試合結果	-----	71
後援大会の結果●第18回東海オープン女子インカレチャレンジ	-----	74
●第18回大学(男子)ソフトボール東海オープン	-----	75
●第21回千葉オープン・チャレンジカップ		
ソフトボールフェスティバル	-----	76
●第19回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	77
●第16回北信越大学オープンソフトボール大会	-----	78
●第10回HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	-----	79
●第50回関東大学(男子)ソフトボール選手権大会	-----	80
●第50回関東大学(女子)ソフトボール選手権大会	-----	81
●藤原初男杯第11回全国大学・実業団対抗		
ソフトボール選抜大会	-----	82
資料●投稿規定・執筆要項	-----	83
●広報記録部会	-----	83
●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	84
●令和元年度加盟大学一覧	-----	86

【巻頭言】 全日本大学ソフトボール連盟 次の50年に向けて

副会長 住 吉 廣 行（松本大学）

「多様な新しいスポーツが台頭 ーうかうかし
てられないー」

北京五輪では日本が悲願の金メダルを獲得し、日本スポーツ界に燦然と輝く金字塔を打ち立てました。しかしその裏では、頭脳スポーツであり最近ではA Iの進歩を測る指標ともなる「囲碁」を、新種目に加えようという動きがありました。その後、ボルダリング、スケートボード等々の新種目が次々と五輪種目に採用され、着実に若者の心を捉えています。また、旧来からの卓球、バドミントン、テニス等の個人中心の種目は盛り上がり、ラグビーは昨年のW杯で史上初のベスト8入りを果たし、にわかファンも急増しました。一方で女子のソフトボール・男子の野球は、パリ五輪には採択されませんでした。世界的広がりには欠けるという理由からでしょう。大学においても登録チーム数と選手数が減少傾向にあります。

「ソフトボールをいかに発展させるか ー競技者と観戦者のファン拡大が必要ー」

こうした状況で、今私たちが考えるべきはいかにすればソフトボールに興味を持つ人を増やすことが出来るかです。ソフトボール発展には、競技者（やる人）や観戦者（みる人）の拡大が必須です。底辺の拡大に向け①小・中・高・大や地域でのクラブ活動を活性化する、②実業団チームや世界選手権・オリンピックで勝てる強いチームの育成や高いレベルで活躍する憧れの

選手を映像で見せる等も必要です。裾野の広がりが、レベルの高度化をもたらすので、この二つはどちらが欠けても競技の振興を図ることは難しいでしょう。

「大学ソフトボール界の果たす役割とその振興のために ー今、改革を進めなくてはー」

こうした状況の中で大学ソフトボール界に求められるのは、①教員や指導者として、学校教育や地域スポーツの中でソフトボールの底辺拡大を図れる人材の育成、②全国、世界を相手に活躍できる選手の輩出でしょう。この二つを同時に実現できる、人材育成システムの確立が必要です。

大学ソフトボール連盟もUNIVASに加盟し、スポーツ界全体の改革の流れに添っています。また、インカレ開催地を男子は富山市、女子は安城市に固定し、甲子園のような聖地化とメディアの協力を得て映像化の方向にも踏み出しました。さらに古くて新しい問題であるインカレ出場校の決定方法の改革も、「地域枠を越えて挑戦可能なチーム数の増大を図る」・「真に強いチームを選出する」という二律背反的な要請の解決のため、現在の東及び西日本インカレを全日本インカレの予選に位置付けるという提案も議論されています。大学ソフトボール界においても、こうした改革は待ったなしという危機感を、今後の50年のはじめに持つべきではないでしょうか。

【事業報告】 令和元年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 久保田 豊 司（大阪国際大学）

本連盟の主催事業である文部科学大臣杯全日本大学ソフトボール選手権大会は、令和元年度の第54回大会から男子は富山県富山市、女子は愛知県安城市で5年間開催されることになりました。この拠点化は、トップを目指すチーム・競技者と運営する側が共に経験を共有しながら大会を発展させ、将来的には「ソフトボールの聖地化」につなげたいと考えています。また、新たな試みとして、情報発信の強化の一つとして男女ともに動画のLIVE配信をし、試合を観に来られない多くのソフトボールファンから好評を得ました。さらに、女子会場ではキッチンカーを常駐させ、試合を観る・支える環境を充実させる試みもしました。

男子会場の富山市は、水深1000mを超える「海の幸の宝庫」富山湾から標高3000m級の雄大な北アルプス立山連峰まで、標高差4000mの多様な地勢が広がる自然豊かな都市です。試合会場の岩瀬運動公園は、4球場が隣接しており全ての試合が観られ、A・B球場では一・三星側にベンチとスタンドも設置され観戦しやすい日本でも環境が整っている施設です。

女子会場の安城市は、「幸せつながる健幸都市・安城」を目指す都市像に揚げ、子どもから大人まで、スポーツを通じた健康づくりや仲間づくり、健康寿命を延ばすことを目的としたさ

まざまな取り組みを展開しています。また、1950年の第5回愛知国体にソフトボール競技が初めて正式種目として採用されたゆかりの地であり、ソフトボール専用球場は、2018年にリニューアルされ最新の電光スコアボードが設置されています。

試合は男女共に日本体育大学が、男子は3年連続31回目、女子は2年連続20回目の優勝を飾り、また、2年連続11回目の男女アベック優勝となりました。男子の決勝戦は昨年度と同一であり準優勝には早稲田大学、3位には環太平洋大学と福岡大学が、女子の準優勝には園田学園女子大学、3位にはIPU・環太平洋大学と金沢学院大学が入賞しました。優勝チームには、チャンピオンエンブレムをユニホームの袖に付けてプレーする権利が与えられ、優勝チームとしての名誉は基より、連盟の模範チーム、選手としての活動、さらにはソフトボール競技の普及、発展への活動等、リーダーとしての多くの期待が込められています。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、東日本男子は岩手県花巻市、女子は長野県伊那市で開催され、男子は日本体育大学が女子は山梨学院大学が優勝しました。西日本男子は広島県御調町、女子は岡山県久米南町・美咲町で開催され、男子は環太平洋大学が女子は中京

大学が頂点に立ちました。また、後援大会についても関東・北信越・東海・近畿の4つの地区で10大会が開催されました。これらは、大学ソフトボールのレベルアップや底辺拡大に役立ててもらったためのものであり、各種大会において確実にその成果はあがっています。

国際関係では、男子はU-23の第一次強化合宿として、全日本大学男子選抜チームが第4回マカッサルオープン大会（インドネシア）に出場し3位の戦績を獲得しました。昨年の第10回アジア男子ソフトボール選手権大会の際に、インドネシア協会の会長から出場の打診があり出場が決定したものです。女子は、第8回東アジアカップ女子ソフトボール大会に出場し、全勝で予選リーグを突破し、決勝トーナメントも危なげなく勝ち見事優勝を勝ち取りました。本連盟は、女子の東アジアカップが本年で打ち切りとなりましたが、これからも積極的に国際大会に参加していく予定です。

本連盟の今後の活動方針としては、大学ソフ

トボール界を今まで以上に発展させるべく、競技人口の拡大・競技力の向上・知名度の向上を目指しています。そのために、全日本大学選手権大会の開催は、令和元年度からこれまでの各地区での開催から、「大学ソフトボールのブランド構築」・「選手が憧れる舞台の創出」のために、5年間の拠点化として男子は富山県富山市、女子は愛知県安城市で開催します。さらに、男女共に普及・強化・交流（国際）をキーワードに事業を立ち上げ展開したいと考えています。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたっては（公財）日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者のご支援のおかげであります。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次年度の事業においても、本年度の反省を踏まえ大学連盟は、より一層の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご尽力をお願い申し上げます。

【特別寄稿】

夢から学んだ諦めない心

馬 渕 智 子 (北京五輪ゴールドメダリスト)

いよいよ2020年。東京オリンピック・パラリンピックの年となりました。近づくにつれ盛り上がりを見せる中、ソフトボール競技は、この東京オリンピックで3大会12年振りに復活するということもあり、多くの方から注目を集めることになると思います。

私がオリンピックに出場したのは、12年前の2008年北京大会。今でもその当時のことを鮮明に覚えています。金メダルを獲った瞬間もちろんそうですが、それ以上に、その夢を叶えるまでの長い道のりが強く記憶に残っています。

オリンピックが私の夢となったのは、2000年のシドニーオリンピックをテレビで見たことがきっかけでした。社会人チームに入ったその年に、自分のチームの先輩方がオリンピックの舞台で戦っている姿を見て、私もあの舞台に立ちたいと思ったのです。その後、なんとか代表候補選手に選ばれたものの、なかなか結果が出ずに苦しんでいました。元々不器用で一つの技術やコツを掴むのに時間がかかる私は、それに加え、大事な場面で緊張して、プレッシャーに負けてしまうメンタル面の弱さを持っており、その自分の弱点をいつまでも克服できないでいました。そして2004年のアテネオリンピックに向けての最終選考となる大会でも、その弱さが出てしまったのです。スターティングメンバーがほかの選手たちで、ほぼ固まりかけていた状況で、何とか結果を出さなければならないと追い込まれていた私は、焦っていました。「次に打てなければ、オリンピックには行けない。」そんなことをずっと考えながら、準備をしていま

した。そしてついに決勝戦の最終回にチャンスが来たのです。0対0、0アウトランナーなしの場面。監督に呼ばれ、肩を叩いて「任せたぞ。行ってこい。」と言葉をもらって打席に立ちました。「よし。打ってやるぞ」そう前向きに思えば良かったのですが、その時の私は、「打てなかったらどうしよう。打たなきゃ、打たなきゃ…」とマイナスな気持ちしかありませんでした。私のバッティングでの売りは長打力。そこを期待されているのは分かっていました。しかし、その時の私の結果はサードへの内野安打でした。辛うじてヒットではあったものの、それは自分、そしてチームから求められていた結果ではありませんでした。後日、アテネオリンピック落選の通知が届きました。もちろん、その一打席だけで決まったわけではありません。それまで取り組んできたことの結果です。しかし、あと一步のところまでいって夢を叶えられなかったことが、悔しくて悔しくて、ずっと泣いていました。ソフトボールをやめることも考えました。オリンピックを目標にもう一度頑張ろうと思えたのは、「あんなに頑張っていたのに、本当に悔しい。」と私のために涙を流してくれた家族や先輩、仲間がいたからです。この人たちに喜んでもらうために、恩返しをするために、次の北京大会では何が何でもメンバーに選ばれ、金メダルを獲ってやる！！という強い決意が生まれました。

その後も、順風満帆にいった訳ではありません。怪我をしたり、結果の残せない苦しい時期もありました。しかし、その都度乗り越えてこ

られたのは、アテネの時の悔しさと感謝の気持ち、そして周りの人の支えがあったからだと思います。メンタル面の弱さすべてを克服したわけではありませんが、苦しい時期を乗り越えたことで、自分と向き合い、弱さも含めて自分を受け入れることもできました。もしあのまま諦めていたら、得られなかったことがたくさんあります。

今みなさんは、それぞれ自分の夢や目標に向かって頑張っているところだと思います。学生生活を送りながら、ソフトボールに打ち込む忙しい日々を過ごし、その中で上手いかず失敗して悔しい思いをしたり、悩むことも多いと思

います。しかし、そういった気持ちや経験に無駄なことは一つ也没有せん。これから先の自分を作っていくために、すべて必要な経験なのです。大切なのは、そこで誰かのせいにしたり、逃げたりしないこと。すぐに上手いかわなくても、ぐっと踏ん張って頑張ることで、必ず何かを得ることができると思います。

これからのみなさんのソフトボール生活、そしてその後の人生がキラキラと輝くものとなるよう、「今」できることを大切に、努力努力努力あるのみ！！頑張ってください。応援しています。

【特別寄稿】

夢を叶えた私の誓い

馬場(旧姓：伊藤)幸子（北京五輪ゴールドメダリスト）

いよいよ「2020東京」オリンピックの年になりました。

今、オリンピックを目指す全ての選手たちが、代表選手になる為に、又はオリンピックでメダルを取る為に、必死になって練習をしています。12年前、私もその選手の一人でした。2008年のお正月を迎えた時の事を思い出します。毎年、自宅近くの熱田神宮へ走って初詣に行くことを恒例にしていたので、その年もいつも通りに走って行き、手を合わせました。「ソフトボールを通して出会ったすべての人達を笑顔にす

る」、そんな誓いをしました。その時は、まだ代表選手になれるかどうかわかりませんでした。が、誰にも負けないことが一つだけありました。それは、「自分が決めたことを毎日続ける」ことでした。

私は、2008年の更に4年前になる2004年のアテネオリンピック代表選手を目指して猛練習をしていました。しかし落選。その時に初めてソフトボールを辞めようと思いました。その時、当時のソフトボール部の監督に、「それがあなたの実力ですよ。世界に通用するバッターにな

ろう」と言われました。当時、私は28歳。精神的にも肉体的にもピークだと思っていた私にとっては、思いもよらない言葉でした。「実力は十分ある」と私自身が思い込んでいたので、この監督の言葉が私の心を動かし、ここから真剣勝負の挑戦が始まりました。気がつくのには少し時間がかかりましたが、この時の監督の言葉は、指導者になった今でも私の支えになっています。

まず見直したのは、練習への姿勢です。常に「勝利」を意識した練習に取り組んでいるか。万が一、大事な試合で私のミスで負けた時に、「あの子のミスで負けたのならしかたない」とチームメイトに言ってもらえるのか。また、グラウンドでの態度も、グラウンド以外での生活態度も全てを見直しました。その時に課題になったのが「自分が決めたことを毎日続ける」ことでした。その課題は、睡眠8時間、散歩と体操、朝食1000キロカロリー、スウィング500本です。この4つの課題を、晴れの日も、雨の日も、休みの日も、毎日続けました。1年、そして次の1年、少しずつですが、ソフトボールが上手くなり、世界で通用するバッターになることができました。

2008年4月、北京オリンピック代表選手に選ばれました。2004年の落選から、苦しかった時に支えてくれたチームメイトの前で「この日を信じていました」と伝えました。その時のチームメイトの笑顔は忘れられません。

2008年8月、念願のオリンピック選手になって、北京オリンピックが始まりました。私はベンチスタート。もちろん、いつ試合に出てもい

いように、毎試合、全ての準備をして試合に望みました。しかし、なかなか試合に出るチャンスはありませんでした。予選の試合の半分が過ぎた頃、休み時間の時に、仲間に涙を流しながら、試合に出られない悔しさを吐き出しました。

その仲間は「幸さんらしく、チームの為にやったらいい」、そう言ってくれました。それを聞いて私は、何の為にここまでやってきたんだと、自分自身に腹が立ちました。代表選手になれなかった仲間、支えてくれた全ての人達、信じてくれるチームメイトの為に、私らしく実行しようと思いました。試合前は全ての準備をして、試合中は、ベンチから見える全ての情報をメンバーと伝え合い、試合後は、次の試合に向けての意思統一。選手、スタッフ全員が、お互いを尊敬し合い、やるべきことに集中したことで、試合を重ねる度に日本のチームは強くなっていきました。2008年8月21日、日本は、3-1でアメリカを倒し、悲願の金メダルを獲得しました。

2020年7月。東京オリンピックで日本代表の選手達の全力プレーを期待しています。それは、近年、日本では災害で多くの人が悲しく辛い日々を過ごしている中で、代表選手たちの全力プレーが、そんな人達の元気や勇気に繋がると信じているからです。

そして、ソフトボールが更に盛り上がっていく為には、選手の皆さんが、ソフトボールを通して人間力を磨き、夢に向かうことがとても大切だと感じています。

皆さんの夢を応援しています。

【国際大会】 第8回 東 ア ジ ア カ ッ プ

1. 選手選考会 期日：平成31年4月9日（火）～11日（木） 2泊3日
会場：静岡県伊豆市／天城ドーム
参加者：スタッフ8名、選手51名
2. 事前合宿 期日：令和元年6月7日（金）～10日（月） 3泊4日
会場：東京都国立市／東京女子体育大学
参加者：スタッフ5名、選手16名（1名怪我により辞退）
日程：7日 練習・ミーティング
8日 試合：対日本体育大学・東京女子体育大学
9日 試合：日立サンディーバ
3. 大会派遣 期日：令和元年6月10日（月）～17日（月） 7泊8日
場所：中国／広東省中山市 熊猫野球場

4. 出場選手・スタッフ

No.	守 備	氏 名	所 属 名
1	投 手	浅井 茉琳	日本体育大学
2	〃	黒木 美紀	東京富士大学
3	〃	長谷川鈴夏	日本体育大学
4	〃	三原 千空	園田学園女子大学
5	捕 手	比護奈保子	東京女子体育大学
6	〃	山田 柚葵	日本体育大学
7	野 手	石野江里佳	東京女子体育大学
8	〃	加藤 亜実	園田学園女子大学
9	〃	亀田 栞里	日本体育大学
10	〃	下村 歩実	園田学園女子大学
11	〃	下山 絵理	園田学園女子大学
12	〃	白石 望美	園田学園女子大学

13	〃	杉本 梨緒	中京大学
14	〃	須藤麻里子	日本体育大学
15	〃	高瀬 沙羅	中京大学
16	〃	舟橋 花保	中京大学
17	〃	古谷 祐花	東京女子体育大学

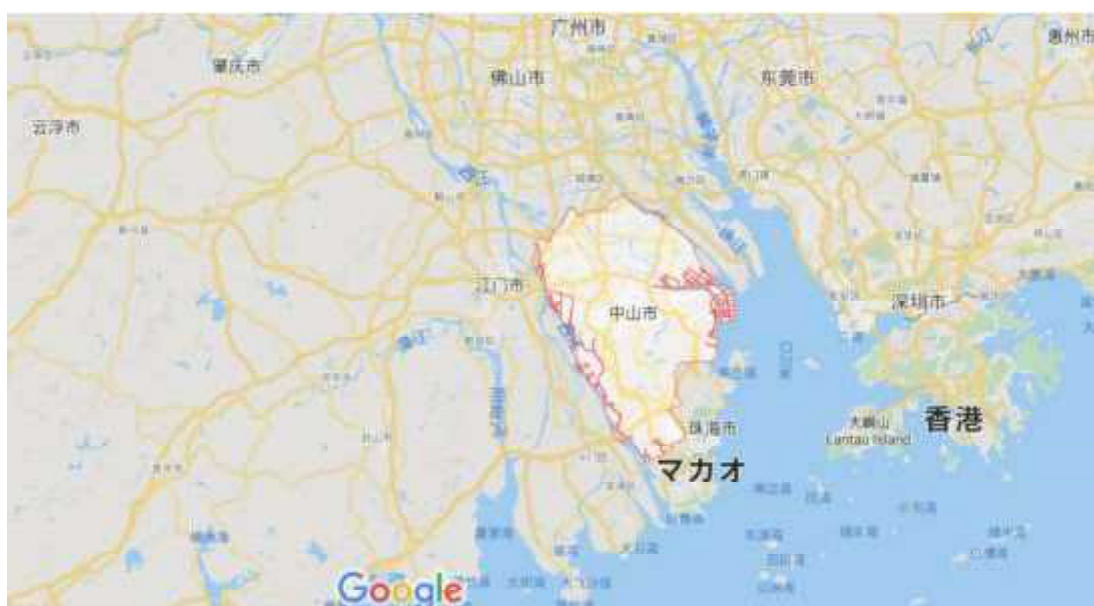
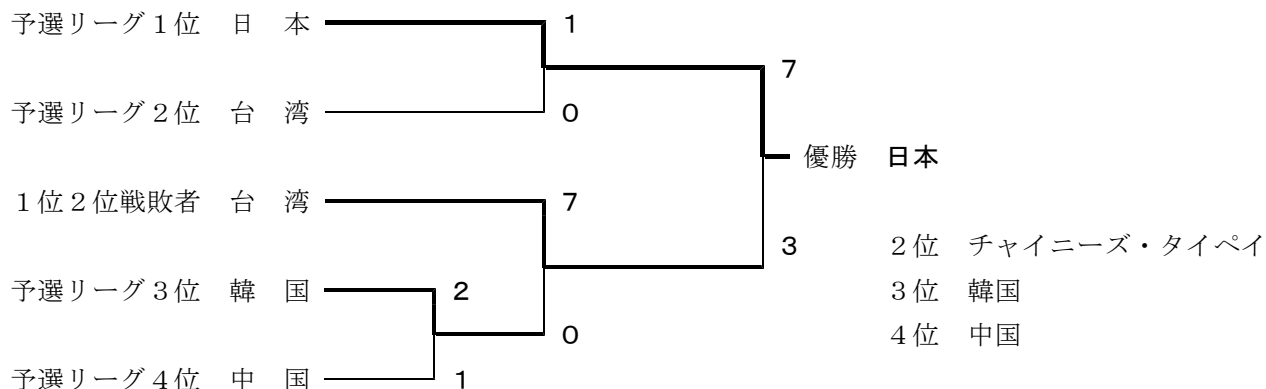
No.	役 職	氏 名	所 属
1	チームリーダー	清水 正	山梨学院大学
2	ヘッドコーチ	高橋 流星	日本体育大学
3	アシスタントコーチ	泉 健介	東北福祉大学
4	アシスタントコーチ・総務	島崎 蓮弥	園田学園女子大学
5	トレーナー	光本 雅美	SGホールディングス
6	通 訳	高 萍	（公財）日本協会
7	審 判 員	橋本 隆	栃木県協会

5. 戦績

予選リーグ戦

出場国	日 本	中 国	台 湾	韓 国	香 港	勝	敗	得点	失点	順 位
日 本		○ 7 - 0	○ 9 - 0	○ 10 - 0	○ 8 - 0	4	0	34	0	1
中 国	● 0 - 7		● 0 - 7	● 2 - 5	○ 9 - 1	1	3	11	20	4
台 湾	● 0 - 9	○ 7 - 0		○ 5 - 1	○ 19 - 0	3	1	31	10	2
韓 国	● 0 - 10	○ 5 - 2	● 1 - 5		○ 7 - 0	2	2	13	17	3
香 港	● 0 - 8	● 1 - 9	● 0 - 19	● 0 - 7		0	4	1	43	5

決勝トーナメント



8th East Asian Cup Women's Softball Championship 2019 総括

チームリーダー 清水 正（山梨学院大学）

東アジアカップが第8回目を迎え、そのうち4大会にヘッドコーチおよびチームリーダーとして関わらせて頂き、大変光栄に思っていると同時に、長きに渡って多くの勉強をさせて頂きました。そして、この第8回で東アジアカップが終了するということもあり、今までとは違う思いで事前準備から最後まで取り組ませて頂きました。

本来であればTOPチーム派遣事業のところを大学連盟に海外経験のチャンスを与えて頂いている(公財)日本協会に対しましては心より感謝申し上げます。

そして、本事業を成功させるためには全日本大学連盟のご理解とご支援があつてのことであり、選手選考から事前合宿、本大会へというスケジュール

ールにおいてのスタッフ派遣からあらゆる経費の捻出、それら選手の個人負担を含めると大学連盟独自による経緯捻出は莫大なものであります。さらには、本事業に関わって頂いたスタッフの先生方においては、本来のお仕事である大学での授業、監督業、チーム運営、諸連盟における業務等、様々な公務多忙の中でありながら、献身的なご協力に対して感謝に堪えません。ありがとうございました。

本事業は大会派遣のみ日本協会が行うということになっており、選手選考会および事前合宿については大学連盟が全てにおいて執行することとなっております。さらには大会派遣中の諸経費の大部分を大学連盟に負担して頂いております。

さて、上記のことを踏まえた上で、選手選考会から追ってご報告させていただきます。伊豆市の天城ドームにて開催された選手選考会においては、大会派遣元となる日本協会より理事として佐藤理恵女子強化委員長をお招きし、大学連盟選手強化委員会から清水委員長（山梨学院大学）・二瓶委員（中京大学）・増淵委員（淑徳大学）、そしてチームスタッフの高橋流星ヘッドコーチ（日本体育大学）、泉健介アシスタントコーチ（東北福祉大学）、島崎蓮弥アシスタントコーチ（園田学園女子大学）、また、サポートスタッフとして東京国際大学の城戸絵理沙監督、日本協会事務局の山内亜美様にご協力頂き、総勢8名にて選考会の運営にあたって頂きました。そのうち選考委員としては、佐藤女子強化委員長を最高責任者とし、大学連盟の立場から、清水・二瓶・増淵・高橋ヘッドコーチが加わり5名により選手選考をおこないました。参加選手は全国の大学監督からの推薦とし、51名の優秀選手が参加して頂き、選考方法は日本協会選考会基準に則り、厳正な選考が行われ、前記の17名の選手が選考されました。

その後、1名怪我により辞退（下村歩実・園田学園女子大学）することとなり、選手16名での大会派遣となりました。

次に、事前合宿および大会派遣の手続き上でおこった不測の事態についてご報告致します。今回、中国への派遣ということでビザの申請が必要となりましたが、派遣チームの中で数名がパスポート

に帰国時の入国スタンプの押印が無いということとで、本人確認のために東京にある中国パスポートセンターに直接出向かなくてはならないということとなり、7名の選手・スタッフに仕事や授業に支障を与えてしまい、さらには往復の旅費を大学連盟に負担して頂いたことに大変感謝致します。

さて、6月7日（金）いよいよ事前合宿となりますが、まずは今合宿の全てにおいてご協力頂いた東京女子体育大学様には心より感謝申し上げます。特に佐藤理恵先生におかれましては、日本協会の理事でありながら本事業に全面的にご支援いただき、早朝から夜遅くまでありとあらゆるご対応をして頂きました。ありがとうございました。集合初日は降雨のため、最初にチームミーティングを行い、自己紹介から始まり、チームリーダー、ヘッドコーチから指針が示され、須藤麻里子主将（日本体育大学）を中心にチーム方針を固め、この日は体育館にて軽めのウォーミングアップとキャッチボール程度で終了しました。

2日目は東京女子体育大学ソフトボール場において、午前中に日本体育大学、午後に東京女子体育大学と練習試合をさせて頂き、チームの連携等の確認がなされました。

3日目は日立サンディーバソフトボール部様のご協力のもと、神奈川県戸塚市にある日立のグラウンドに出向き練習試合を2試合させて頂き、最終調整を行い、事前合宿はほぼ計画通りにおこなうことが出来ました。

6月10日（月）出発地である羽田国際空港に7時に集合となり、ここで今回の通訳である高さん、帯同審判の橋本さんと合流し、中国へ向け出発となりました。

チームリーダーとして、東アジアでの日本協会と大学連盟としての外交を担い、チーム全体を統括し、安全に配慮し、チームスタッフと選手が取り組みやすい環境を作ることを心がけ、最後には無事に日本に戻ってくることを役割として取り組んでまいりました。今回のチームスタッフはそれぞれがしっかりと役割を担い、それを全うできたことが良い結果に結びついたものと考えています。さらには、今年のチームは選手一人ひとりの競技力が高いことはもとより、大変自立心が高く、日

本代表としての心構え、そしてその振る舞いには素晴らしいものがあり、様々なカテゴリーのなかでも日本代表の模範と言えるチームであったと感じています。

さて、今回は各国のリーダーや監督と積極的に外交し、様々な情報交換をさせて頂きました。残念だったのは、来年の2020年に東京オリンピックを控えているにも関わらず、どの国からもオリンピックについての会話がなされなかったことには驚きました。それは、興味関心がないのか、理由は全く分かりませんが、私からもオリンピックの話ができる雰囲気ではなかったことを付け加えておきます。

外交をしている中で、国ごとに多くの問題を抱えていることが分かりました。組織の問題、指導者の問題、普及の問題、強化の問題、施設の問題、認知の問題等々です。特に多くの国が抱えている問題は財政問題でした。その中で、財政面で唯一右肩上がりと感じたのは中国でした。

現在、オリンピック出場を狙っている中国はソフトボールに対する強化費として桁外れな国家予算がつぎ込まれており、強化をアメリカに委ね、トップチームを含め3チームがアメリカで長期にわたり合宿をし、その指導をアメリカ人がしているということです。ただし、そのことにより違う問題が生じていることも聞き、痛しかゆしであることが伺えます。

私が中国に対して驚いたのは、多くの国が国家予算に頼っているなか、中国は民間企業がスポンサーとなり多額の投資をしていることです。それも長期ビジョンをもって最終的にはスポーツビジネスとしてしっかり回収することを考えているのです。北京にもソフトボール協会を支えている大スポンサーが存在しているそうです。

今大会も参加国からの費用以外は、全てこの中山市の一企業によるスポンサー料で賄っており、ソフトボール協会からは一切捻出されていないということです。その金額は控えますが日本では考えられない金額となっています。今回は全試合インターネット配信もされており、これもこの企業が出資しています。そして、今回の会場となっているグラウンドは少年野球場として建設されたも

のであり、WBSC・U12の大会開催の折に建設したそうです。それも、大会開催のために建設したのではなく、この広東省中山市を野球・ソフトボールのメッカにし、将来的にスポーツ・レジャー産業の一大都市にするために行っているのだそうです。さらに驚いたのは、中山市の20弱ある小学校すべてに簡易的な少年野球場をすでに建設しており、野球・ソフトボールの普及を進めているそうです。そして、そこにはTボールの用具や野球・ソフトボールの用具も提供しており、ハード・ソフトの両面からサポートし、競技人口そしてファンを増やしているということになります。

さらに、さらに驚いたのは、鉄道駅近くに新たに建設中の野球場を見せて頂きましたが、外野人工芝の観客1万人弱収容できる本格的な野球場です。それも、見せて頂いたのはサブ球場でありこの横にメイン野球場を建設するそうです。すべてLED照明設置で、プロ野球でもオリンピックでも使用できるものだそうです。

最後に、その社長さん曰く、近い将来はスポーツ専門学校を作る準備を進めており、現在国に申請中だそうです。それは、指導者養成が目的であり、専門的コーチ・トレーナーを育成するのが目的だそうです。もともとは不動産業であり、大きなマンションをたくさん所有しています。実は、今回使った野球場も2年後にすべて取り壊し、そこにマンションを建設するそうです。それが巨額な収入源となっている訳です。

このように、一企業がたとえビジネスとはいえ、普及・育成・強化を絡めたインフラ整備、さらには大会運営までを国に頼ることなく、逆に国を牽引しているようなこのビジョンと行動力をもった現状に本当に驚きを隠せませんでした。これが、成功するのか否かはわかりませんが、ただただ凄すぎるとしか言いようがありません。

もちろん、ソフトボール競技のみを考えた時、普及・育成・強化の教育システム、特に学校教育を柱に日本はすでに確立されているおり、これは他国におよびません。そのことによって現在も競技力と実績においてはアジアの中では群を抜いて「強い」と言え、世界でもトップクラスと言えます。しかし、競技力が高いというだけで良いので

しょうか。現在、日本が抱えている諸問題を考え、将来を見据えた時、後世に何を残していけるのか、最後に勝つのはどの国なのか、本当の強さとは何なのか、2020東京五輪が終わった後、日本はどう

していけばいいのか、私には今すぐに答えは出てきませんが、強く考えさせられた大会となりました。

8th East Asian Cup Women's Softball Championship 2019 報告1

ヘッドコーチ 高橋 流星（日本体育大学）

◆報告及び感想◆

この度、大学選抜チームのヘッドコーチとして、第8回東アジアカップに出場させて頂き、大変貴重な経験や新たな学びを得ることができ、日本協会をはじめ全日本大学連盟、チームリーダー、スタッフ、選手の皆さんに心より御礼申し上げます。今回得た学びや経験は、言葉では表現できないほど素晴らしいものであり、私自身を大きく成長させて頂きました。今回の環境を作って下さった、多くの関係者には、感謝しかありません。本当にありがとうございました。

私は現在に至るまで、様々なカテゴリーで、コーチや総務を行わさせて頂きましたが、女子のヘッドコーチとして海外の大会に出場するのは初めてでした。どのようにマネジメントを実施したらよいのか、何をスタッフと選手と共有しなければならないのか、学生達に何を残し、次の世代へのレガシーとして残していかなければならないのか、非常に考えさせられました。

7日(金)からの合宿前のスタッフミーティングの際に、チームリーダーを含めて各々の役割を確認し、共通理解を深め、そして緻密な連携を取り業務を遂行する。日本を代表している自覚と責任と覚悟を高め、合宿をスタートさせました。東京女子体育大学、日立サンディーバの協力があり、非常に素晴らしい強化合宿となりました。10日(月)から現地中国に移動し、大会を迎える中で大学生の素晴らしさを改めて確認することが出来ました。学生達の行動や気付き、気配りの速さ、丁寧な言葉使い、各大学でスポーツを通じての教

育がしっかりとなされており、且つ、最も重要な凝集性を高める方法をそれぞれが持っており、チームを素早く作る方法を持ち合わせていました。試合の結果は、下記に記載しておりますので、ご参照いただければと思いますが、試合の中でも様々なことを学ぶ機会となりました。東アジアカップに勝つために来ている、日本を代表して来ていることは自覚しておりましたが、学生達には卒業後の将来があり、その将来の為になるような遠征にしなければならないと考えていました。16名の選手を均等に出場させなければならないという思いもありましたし、チームスタッフにも、もう一度、代表のコーチやスタッフをやりたいという気持ちにしなければならないと思っていました。そして、ソフトボールを通じて、大切な教養や勝つことよりも大切なことを得てほしいと思っていました。それを今回の遠征では、それらを実行できお金では買えない何かを得てくれたと思います。また、清水チームリーダーは、リーダーとして沢山の外交を行って頂きました。実際に外交を行っている姿勢を目の当たりにし感じたことは、チームリーダーとして派遣される人間は、大会ごとに変更してはならないと思いました。もちろん、いろいろな人材を残すために多くの指導者に経験させなければならないと思いますが、外交する中で、まず顔と名前を覚えて頂く必要性があり、その中で信頼を勝ち取り、いろんな情報を収集したり、今後の交渉が出来ると思いました。そのため、複数回にわたり海外に行き、多くの方々と積極的にコミュニケーションをとれる人材でなければなら

ないと実感しました。

大会の終盤には、選手達に「本当の強さとは何か？」という課題を与え、レポートをもらいました。それぞれが本当の強さの意味などを深く考えていました。その課題を与えた理由は、清水リーダーと、多くのお話をさせて頂く中で、中国の取り組みや考え方、物事の価値観や長期的なビジョンなど、大学連盟としてや一大学が取り入れるべきこと、参考にすべきことは何か、など深く考えさせられました。その中で、「日本は果たして本当に強いのか？」ということでした。今回の大会は、一民間企業がスポンサーとして巨額な投資をされ、大会運営を支えていました。中国には多くの子供たちがいますし、この大会に投資することが出来る企業があること、スポーツの価値をビジネスに変える考え方、これから更に発展する国であることを考えると、いずれ日本は負けるときに

来ると恐怖を感じました。また、中国の大会関係者や清水リーダーが外交を行っている会話の中には、2020東京五輪についての質問など、一つもありませんでした。むしろオリンピックのことなど、興味が無いとまで思えました。この国の器の大きさには、ただただ驚くことしかできないと同時に、無力さを痛感した次第です。

今後、2020五輪が終わり、ソフトボール界の動きがどのように変化していくか不明瞭なことが多いですが、大学ソフトボール界が果たす役割は、これからも益々重要になってくると実感しましたし、大学スポーツの価値を高める方法を、いくつかの分野に分け、尚且つ先を見据え、戦略的に物事を進めなければならないと思いました。今回の大会で学び得たことを、今後の後世にも伝えていきたいと思います。

8th East Asian Cup Women's Softball Championship 2019 報告2

アシスタントコーチ 泉 健介（東北福祉大学）

最初に、第8回東アジアカップに参加させていだいたことに対しまして日本協会ならびに大学連盟の皆様にご心より感謝申し上げます。

個人的な御礼になってしまいますが、清水正先生(山梨学院大学)をはじめ、高橋流星先生(日本体育大学)、島崎蓮弥先生(園田学園女子大学)、光本雅美さん(SGホールディングス)、高萍さん(日本ソフトボール協会)には大会期間中はもとより、事前合宿や大会の準備に至るまで、ソフトボールに関することだけではなく海外での生活や価値観など、さまざまなことを勉強させていただきました。選手選考会では、佐藤理恵先生(東京女子体育大学)、二瓶雄樹先生(中京大学)、増淵まり子先生(淑徳大学)、城戸絵理沙先生(東京国際大学)から選考会の運営方法や選手の見方などアドバイスをいただきました。事前合宿では、佐藤理恵先生をはじめ東京女子体育大学の皆様に会場のご提供いただき、

齋藤春香監督(日立ソフトウェア)をはじめとした日立ソフトウェアソフトボール部の皆様にも強化試合をしていただきました。また、藤井まり子様(日本ソフトボール協会)、山内亜美様(日本ソフトボール協会)には、大会を通してサポートいただきました。以上のように、今大会は、大会に参加させていただいたスタッフ5名だけではなく様々な先生方のお力添えがあって大きな事故もなく終了することができたと思っております。本当にありがとうございました。

最初に、選手選考会についてですが、私自身スタッフとして参加する最初の選考会で、何もかもがわからないことだらけでした。特に選考会の性質上すべての選手に均等にプレーの機会を提供することに苦慮しました。例えば、投手が四球を出してしまいキリが悪くなった時にもう一人投げてもらおうのか等、選手はそれほど気にしていないの

かもしれませんがすべてのことに気を使いました。また、私も大学で指導者をしていて、様々な選手のプレーを見ているつもりでしたが、選考会で見ると印象よりも上手に見えることも、逆も然りでした。選考会で実力を発揮できる選手を見ていると、精神的に成熟している印象を受けました。普段の考え方からプレーにおける考え方で指導者の先生がしっかりと指導しているのだろうと感じました。「ソフトボールだけうまくても仕方がない」とよく言いますが、そのことがソフトボールにもつながっていると感じ、とても勉強になりました。

事前合宿については、コミュニケーションを大切に合宿が行われました。その中でも清水先生と高橋先生のチームマネジメント力に感服いたしました。清水先生につきましては選手の技術的な部分に踏み込み過ぎずに考え方や見方のアドバイスのみで選手を飛躍的に成長させる点から選手を見る能力に長けていると感じさせられました。高橋先生につきましてはインング間に細かい指示を送りすぎることなく、大学選抜選手としてのプライドを刺激するような声掛けで自然と結束力を高めるような声掛けをされていると感じました。また、三日目の日立ソフトウェアとの強化試合では、勝敗はともかくとして選手にいい経験をさせたいという意思が感じられ、私にはまだ出せない深みをお持ちだと感じました。また、島崎先生と光本さんにつきましても、選手と帯同して東京女子体育大学の宿舎にお泊りいただき、空想の範囲を超えませんが、技術的な部分だけではなく、肉体的・精神的なケアをしていただいたと存じます。

大会につきましては、35℃に迫る気温と高湿によるいいとは言えない環境ながらも、大きな体調不良なく終えることができました。これも、普段大学生として生活している選手のセルフマネジメント力による部分が大きかったと思います。食事は何を食べて何は食べないほうが良いのか、空調の温度は何度くらいがちょうどよいのかなど、厳しく管理することがなくても判断することができ

ているように感じました。当たり前だと思ってしまうことではありますが、生徒でも社会人でもなく学生として自立と制約の両方が求められているからこそその良さが垣間見られる場面でした。また、選手も一切おごることなくソフトボールや生活に向き合っていたこともとても感心させられました。強いことは偉いことであると感じてしまうことも社会ではあると感じますが、そのような場面は見られずすべてのことに真摯に向き合う姿に感動しました。大学を代表する選手として技術的な部分はもちろんですが、人間的にも素晴らしい16名だったと思います。今回の経験で新たな感覚に出会ったことだと思いますので、ますますの成長を楽しみにしたいと思います。

試合につきましては、スコアだけ見れば完勝と言ってもいいのかもしれませんが、私としては不安の連続でした。特に決勝戦となったチャイニーズタイペイ戦では、序盤に6点をリードし、中盤に3点を失い詰め寄られましたが、高橋先生は動じることなく投手を信じて続投させました。勝利を目指すことはもちろんですが、選手の成長の面まで考えられていると感じました。一面的にではなく多面的にソフトボールを見るといったことは普段から大切だと思っていることではありましたが、高橋先生はまさにそれを体現されている指導者であると感じました。

この11日間を通して、私自身も様々な感情や今までに感じたことのない感覚に出会いました。大切なのはこのことを形として残し、蓄積していくことであると思います。今大会はこれで終わりますが、これからのソフトボール界に貢献していきたいと思います。今大会にかかわってくださったすべての皆様と16名の選手に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

末筆ながら、11日間職場を空けることを快諾してくださった東北福祉大学ならびにチーム作りで大切なこの時期にチームを空けることを許可くださった女子ソフトボール部舟山健一監督ならびに選手の皆様に感謝いたします。

8th East Asian Cup Women's Softball Championship 2019 報告3

アシスタントコートコーチ兼総務 島崎 蓮弥（園田学園女子大学）

今回、第8回東アジアカップにアシスタントコーチ兼総務として帯同させていただき、私自身の指導者としての経験値をあげる良い期間になりました。

6月7日から3日間、事前合宿を受け入れて下さった東京女子体育大学様には心より感謝申し上げます。早朝から、夜分遅くまで合宿が何不自由なく実施出来たのも皆様のご協力のおかげであります。本当に有難うございました。また、強化練習試合にご協力いただきました、日立サンディーバ様、日本体育大学様にも心より感謝申し上げます。

事前合宿では、全体ミーティングでヘッドコーチより話があった通り、コミュニケーションを大事にするということを徹底していた合宿になったのではないかと思います。スタッフとしても、短い準備期間ですので選手とのコミュニケーションをとることを意識しておりました。試合以外では、宿舎での過ごし方を確認することや、ビデオの確認、捕食の買い出し等行いました。

6月10日から中国へ出発しました。空港では、交換品や手土産を購入し、清水チームリーダー、ピンさんと相談の上、お金の両替を行いました。

中国では、日本よりも気温、湿度が高く大変蒸し暑い気候でした。また、中国の文化として、冷たい飲み物を飲む習慣がなく、ホテルには電気ポットは設備されていましたが、冷蔵庫がなく飲料を冷やすことが出来ませんでした。洗濯については、ホテルに完備されているものは、日本のコインランドリーにある小さいサイズのものが2台のみで、ホテル周辺には、ランドリーがありませんでした。日本のみならず、大会に参加している4国、審判員もこの2台で回すため、洗濯には最大3時間ほどかかりました。また、金庫がなく貴重品やパスポートを保管する場所はスーツケースのみでした。パスポートについては、大会期間中、私が常に持ち歩き保管していました。

大会期間中の感想として、出国後の2日程、天候に左右され、練習場所が限られていることや、時

間変更に対応が難しいことから時間に余裕が生まれ、特に大きな病気や怪我などはありませんでしたが、気の緩みが感じられました。連日続く緊張感のある日々を過ごす中で切り替えは大切ではありますが、価値のある遠征にするため一人一人がよく考える必要がありました。大会が始まってからは、「価値」とは何かそれぞれ考え直した上で、お金では買えない経験、他でもない2019年大学選抜チームしか出来ない経験、そして、最後の東アジアカップを経験出来ているからこそ今何が必要なのか、何ができるかを考え、行動・プレーすることができたと思います。他アジア国の選手のカテゴリーが1つ2つ下という中で、大学生ならではの、ソフトボールを楽しむ姿勢、普段学業と両立していますが、今大会期間はソフトボールにだけ向き合うことが出来るからこそ緻密に連携をとり真剣に取り組む姿勢を、東アジアに伝えることが出来たのではないのでしょうか。また、国際交流という面でも、ホテルの食事、洗濯様々な面において、積極的にコミュニケーションをとっている姿が見られました。スタッフとして、何処まで指導・介入すべきなのか線引きが難しいところもありましたが、良い経験となりました。

短い期間のチームでしたが、大学・学年・年齢、問わず分け隔てなく、非常によくコミュニケーションのとれた良いチームで、目標であった「声」、「準備」を徹底している姿や大学代表という自覚、責任を持ってプレーしている姿が多く見られました。これは今回のテーマである「Give a strong impact」に沿って、日本の大学ソフトボールを東アジアに伝えることを一人一人が意識して行えたからではないかと思います。

最後に、今回の派遣期間中のミーティングで問われていた「本当の強さ」について私は、「自身を知り、非を認めることができる」ものと考えます。競技者だけでなく、企業や組織にもそれはいえるのではないのでしょうか。まずは、知ること。何が長けていて、何が劣っているのか。そして、

活動していく上で、間違っていたこと、失敗したことを受け止め次に繋げることができる。そのようなものが本当の強さだと考えます。これから、東京2020に向け、日本だけでなく様々な国がソフトボール事業を繰り広げていくでしょう。その中で、より日本のソフトボールを世界へアピールするためには、「本当の強さ」を持つことだと思います。今回の第8回アジアカップでも、中国のソフ

トボールへの携わり方の規模の大きさや企業との関わりを目の当たりにして、ソフトボールをメジャーにする事業の取り組みが明らかとなっていました。まだまだ世界には日本にない事業があると思います。その事業をいかに、吸収し、発展させていくかが東京2020を終えた後の日本のソフトボールを支えていくために必要なのではないかと今大会を通して感じました。

8th East Asian Cup Women's Softball Championship 2019 トレーナー帯同報告

帯同トレーナー 光本 雅美 (SGホールディングス)

帯同期間：

6月10～17日（7～9日は東京女子体育大学にて事前合宿）

活動内容：

怪我・外傷の処置、傷害・障害の治療コンディショニング（健康管理全般）、ウォーミングアップ、クールダウンの指導など

時差、気温など：

時差は－1時間。大会前の練習期間は嵐のような強い雨風であった。気温は30度前後。湿度80%前後とかなり蒸し暑い。大会期間中は晴れの日が多く、湿度も60～70%。日差しがあり、気温も高いが、湿度が低い分過ごしやすかった。

衛生状態：

飲料、歯磨き、うがいなど、全てペットボトルの水の使用を指示。蚊が多く発生すると聞いていたので、虫よけスプレーの準備もしたが、刺された選手はいなかった。

食事関係：

朝、昼、晩はホテルのビュッフェ。主食（お粥、食パン、蒸しパン）と、おかずが7～8品。種類が多く、それほど独特の香辛料を使ったものは少なく、比較的食べやすいものであった。試合の合間にグラウンドでお昼を摂る際には、ランチボックスにしてくれた。内容はチャーハンと肉の炒めもの、スープであった。

補食：

2試合ある日や、ご飯後時間が経過している場合には補食を準備した。日本から持っていったシリアルバーや、こんにゃくゼリー、現地調達の果物やチョコレートなど。

その他、各自持参したウィダー等を適宜摂らせた。

栄養・サプリメント関係：

ドリンクは大会側が提供してくれるペットボトルの水。氷はグラウンドで準備してくれるのは板氷か、小さい製氷機の氷のみで、量としては全然足りない状況であった。

大会期間中はホテルのレストランに氷を発注してもらい、それをグラウンドでの応急処置や、ケアルームでのアイシング用で使用した。

また、試合、練習後には、希望者にザバスアクアホエイプロテイン100もしくは、アミノプロテイン（カフェオレ、レモン、パイナップル）を摂らせた。

滞在先（ホテル）の環境・設備：

ViennaClassicHotelに宿泊。掃除は行き届いており、衛生的であった。

ロビーや、レストラン、各部屋に無料Wi-Fiあり。速度も問題ない。しかし、Wi-Fiを繋ぐのに、中国の携帯番号の登録が必要なため、ピンさん、もしくはホテルのフロントの方の番号を借りて設定を行ってもらった。

競技会場/練習会場内外の設備：

宿泊場所からバスで5分ほどの場所にグラウンドがあり、大会前の練習、試合共にそこで行った。ベンチにはテントが張っており、日陰はあった。野球用のベンチの裏にロッカールームがあり、着替えや荷物置きとして利用した。クーラーも完備してあったので、休憩もできた。

外野の後ろには、屋根の付いている人工芝のバッティングゲージがあった。ティーバッティングで利用したが、雨の日が多く、日が当たらない事もあってか、基本的には下が濡れていた。

グラウンドの状態など：

中山市熊猫少年棒球場のグラウンドを使用。内野は赤土で、粒子が荒く、硬い。外野は天然芝。凹凸がある。

ウォーミングアップは外野フェンスの後ろで行ったが、芝とコンクリートの境目に排水溝があり、その蓋が劣化していて、選手の一人が上に乗った際に割れ、排水溝に足が落ち、下腿を打撲、擦過傷を負った。

トレーナールームの環境：

光本のツインの部屋を使用。ベッドの一つを寄せて、ケア用ベッドを出すのが精一杯の部屋の広さであった。ストレッチポールのスペースが確保できず、広めの部屋の選手がいたので、その部屋に置いてもらった。

また、朝の体重測定などは朝食会場の前で行った。トレーニング施設の環境：ホテルの3Fにジムはあった。トレッドミル、エアロバイク、トレーニングマシンが数台、ダンベル等、簡単な器具が置いてあった。無料で使えるようであったが、大会中は使用していない。

また、会場のすぐ近くに一般のトレーニングジムがあり、雨の日、及びグラウンド練習のアップで利用させてもらった。(通常は月額だが、一回利用30円 日本円で約480円での利用)

トレッドミル、マシン、フリースペース、ヨガスペース、ストレッチスペース、自転車エクササイズスペースがあり、十分な運動ができた。

救急体制（近隣病院との連携など）関連：

グラウンドに医務室があり、医者と看護師が待機していた。顔面のデッドボールの際には駆けつけてくれたが、骨折などの心配もなさそうだったの

で、診察はしてもらっていない。擦過傷なども多かったのも、もし、何か化膿した場合や整形外科にかかりたい場合には、グラウンドから救急車の要請をし、病院へ行く方が良いと提案された。(グラウンド近くにも病院はあるが、中国という土地柄中医的な要素が強いようであった。)

総評（気づいた点、問題点などの指摘も）

・今回は大学選抜チームの派遣であった。事前合宿で初めて集合しているので、ヘッドコーチから、早くコミュニケーションを取れるようなアップをお願いされていた。ウォーミングアップでペアの運動を多く取り入れたり、チームでのリレーや、音楽に合わせてジャンプするなど、みんなで盛り上げられるものを積極的に取り入れ、比較的早くにコミュニケーションが取れるようになったと感じた。

・中国入りしてからの練習では、雨天のためグラウンドが使えず、近くのジムを利用させてもらった。自転車20台以上並ぶエクササイズスペースがあり、音楽をかけながら、みんなでトレーニングをした。大変湿度の高い中、汗をかくといういいトレーニングができたことに加え、何より選手達が楽しそうにトレーニングしてくれたのがとても良かった。

また、お昼を挟み、午後の試合の前などは、短い時間でもラダートレーニングや、音楽に合わせてジャンプをするエクササイズを取り入れ、選手みんなで試合へのモチベーション、集中力があがるような心がけた。

・湿度が高く、気温も高いため、熱中症などの心配もあったが、体調不良者も出ず終えることができて良かった。以前のフィリピン遠征(アジア女子ジュニア)で体調不良者が続出してしまった反省を活かし、あまり冷たい飲料を摂りすぎないようにすることと、アイスバッグで身体の外から冷やす様心がけた。また、選手たちも各自しっかり水分、塩分を摂るような意識があり、とても良かった。

・グラウンドの土が固く、粒子も荒かったためスライディングやダイビングキャッチなどによる打撲、擦過傷は何件かあったが、大事には至らなかった。ただ、打撲、擦過傷後の処置を重要視していない選手もあり、洗浄、場合によっては化膿止

めを塗布、圧迫、アイシング等をしっかりとするように指導した。

・選手によって、食事への取り組み方に差が感じられた。食事はコンディショニングの基本であることを出発前のミーティングで話したが、しっかりと出された食事をバランス良く、食べられていた子は少なかった。食事が摂れるか心配な子には予め、各自、ふりかけや味噌汁や、カップスープ、ウィダー等を持参するように伝えていたので、体重減少はそれほどなかったが、栄養の偏りはあったと考えられる。

今回のホテルは衛生的にも問題なく、食事も比較的食べやすいものであったが、出発前に中国での衛生面、食事面で重々気をつけるように指導していたので、選手によっては先入観を持ち過ぎ、食

事を摂りたくないと思ってしまった子もいたかもしれない。ただ、やはりそこは代表選手という自覚を持ち、食事、栄養が身体を作り、パフォーマンスにつながるという事を考えて欲しかった。

・前回の大学代表チームもそうであったが、セルフケアの指導や、ケア中に身体の仕組みや筋肉の話をして、あまり知識がないように感じられた。身体に痛みがある、筋肉が張っている状態でプレーをするのが当たり前になり、ケガをしてからケアをする子が多い印象を受けた。セルフケアをしてケガを予防すること、身体に関する知識を持つことなどが、コンディショニングや、自分のパフォーマンスアップにもつながるという事を今回の遠征を通して伝えたので、今後、選手たちがその事を意識してくれたら良いと思う。

第8回東アジアカップを終えて（選手の感想）

須藤麻里子（日本体育大学）

東アジア大会を迎えるに当たって、チームのテーマはGive a strong impact、個人としてはより多くの学びを得る事を目標とし、合宿含め10日間の遠征を無事、終える事が出来ました。日本ソフトボール協会ははじめ、スタッフの方々のサポートがあり、選手全員安全にソフトボールに取り組めたことに感謝し心に刻まれる大会となりました。

チームとして勝つ事以前に価値を高めながら楽しんでソフトボールをすることが勝利を与えてくれるという事を感じながら一戦一戦、考え、意見を出し合いながら取り組む事が出来ました。リーダーシップが取れ、客観的に判断する事が出来る選手が多く、1プレーヤーとしてのスキルを試される場面でもあり、スキルアップする場でもありました。また、本当の強さとは何か考える機会を先生方から頂き、私達が行っているソフトボールの奥深さを感じる事が出来ました。日本での当たり前は当たり前ではなく、強い＝えらい ではない事、日本のソフトボール界から見直すべき必要が

ある事、1人の人間として更に成長しなければならないと痛感しました。

個人としては、主将としての確に声を掛ける事や臨機応変にチームを動かし、まとめる事の大切さを感じました。効率よく、かつ的確という事を今後も意識して行動する必要があります。

ホテルや練習の間もソフトボールの話で盛り上がり、各大学のいい所もとても見えました。日体大にはない考えや視点もあり、今後チームにも反映させていきたいと思います。

技術の面では変化球への対応、打席の中の修正がまだまだだと感じました。瞬時に対応出来る力、際どいボールをカットする能力を今後意識して練習していきたいです。西、東でバッティングスタイルが全く異なり、勉強になりました。またトレーナーの光本さんや清水先生からもバッティングや体の使い方等を教えて頂き、インカレ、総合に向けて修正しながらレベルアップしていきたいと思います。

この10日間、人間的にも技術的にも学びのある

充実した時間を過ごすことが出来ました。

中国の素晴らしい環境で試合が出来た事、このような環境を与えて下さった事に感謝し、今後もソフトボールの発展普及に貢献して行きたいと思っています。

浅井 茉琳（日本体育大学）

今回の大会を通して、沢山のことを学ばせて頂きました。はじめに、事前合宿では東京女子体育大学さんの場所をお借りし、宿舎から練習する場所まで沢山サポートして頂きました。なに不自由なくソフトボールができる環境を作って下さり、それも当たり前ではなく、自分たちにできることは全力でソフトボールをし、感謝を形で表すことだと思いました。

今回のテーマである、give a strong impact アジアに強い影響を与える、今大会をもって最後となる東アジアカップで圧倒的な強さを魅せるのはもちろんのこと、ソフトボールの技術だけでなく、挨拶、礼儀、マナー等人として大切な部分をもう一度見つめ直す機会となりました。その中でも目標であった全勝優勝することができたのは本当によかったです。

また、本当に強いチームとはなんなのか、ということ大会中一人一人が考え、勝ち負けだけでなく戦う上で1つのアウト、1つのプレーに対して全員がのめり込み、喜び合ったり励まし合ったりし全員総力で戦う姿や、自分たちだけでなく試合を観ている人が心動かされるようなソフトボールをすることが大切だと改めて気づきました。そして、ソフトボールは相手がいて初めて試合ができるスポーツです。相手を尊重して視野を広げて自分たちがこれからどうソフトボールと向き合っていくべきなのかについても考えました。

他の国から学ぶことは多くあり、ソフトボールが純粋に好き、楽しい、もっとこうなりたい、こうしてやる、という向上心や表情、言葉、行動が、自分自身はもちろん、観ている人の心を動かし、応援したいと思うのだと感じました。

今回、全日本大学女子選抜チームの一員として東アジアカップに参加させて頂き、色々な発見があり、色々な感情に出会いました。この経験を活

かし、今後も感謝の気持ちを忘れずにソフトボールと向き合い、人間性を高めていきたいです。

三原 千空（園田学園女子大学）

今回の第8回東アジアカップに大学の日本代表として参加させていただきました。6月7日から17日の11日間と少しの期間でしたが、その11日間で得たものは沢山ありました。大学日本代表が集まった初日、自チームとはまた違った独特な雰囲気があり、お互いがよそよそしく感じられました。

チームとしてまず、コミュニケーションをとることから始めました。チームになるためにはお互いを知ることが大切です。どんなに小さなことでもいい、とりあえず、色んな人と話すことを意識しました。日にちを重ねるごとにまとまりがみえてきて、試合の中でもコミュニケーションが取れるようになったことが1つの大きな変化のように感じられました。チームのテーマである「Give a strong impact」は自分たちのソフトボールをし、東アジアに強い影響を与えるという意味があります。大学の代表として戦う自覚と責任を持つこと、そして、投手が投げる1球、打者の1打席は個人の1球、1打席ではなく、日本代表としての1球、1打席であることを心に持って戦わないといけないうし、忘れてはいけないことだと強く思いました。そして迎えた中国・中山市での試合、今回が最後の東アジアカップということもあり、必ず優勝して、色んな意味を込めて、ソフトボールで恩返しをしたいと思いました。日本とは天候も環境も全く違い、特に怪我と体調に気をつけて、試合に向けての準備を心がけました。その準備として、いかに良好な状態を保てるかというのも自分の能力なので、そういったフィジカル面でも強くなった気がします。試合をする中で、自分の役割は何なのか、自分の結果だけでなく、今この場でチームのために何が出来るのかを考え、実行することが大切になってきます。結果は優勝することが出来ました。この優勝は自分たちだけで掴み取ったものではなく、沢山のサポートがあってこそこの優勝だと思います。この東アジアカップが開催されるにあたり、中国・中山市ではグラウンド整備の人があたり、試合のライブ中継、飲み物の提供、ス

ボンサーがつくなど、ソフトボールを盛り上げるために多くの方々にサポートをしていただきました。こんなにも良い環境でソフトボールが出来たことに感謝しています。

結果が全てではないし、強いから良いものではありません。これはソフトボールに限らず、全ての競技において言えることだと思います。大切なのは色んなことに対して感謝の気持ちを持ち、こうして、競技が出来ているのは決して当たり前ではないことを理解することだと思います。今回の東アジアカップを通じて改めて感じました。ソフトボールを楽しむこと、ソフトボールが出来ること、に感謝すること、沢山の良い経験をさせていただきました。この経験を経験だけで終わらせるのではなく、自分が経験したこと、感じたことを伝えていきながら、自分自身も成長していきたいと思っています。ありがとうございました。

古谷 祐花（東京女子体育大学）

東アジアカップは今年でラストという事で必ず優勝すること、チームのテーマである“Give a strong impact”を掲げ、合宿が始まりました。3日間合宿を行いました。東京女子体育大学のみなさんの協力によりこの素晴らしい合宿が成り立つ事に日々感謝し、また、私達ができるソフトボールが当たり前ではない事を身に染みて感じました。沢山の大学の選抜チームなので連携など合わせることが大変でしたが、アップや試合中、私生活の中でコミュニケーションをとりお互いの事を知ることでソフトボールのプレーに繋げる事が出来ました。試合では、声や準備といった目標を立てましたが、どのような場面でこういった声が必要か、状況に応じて事前に準備し、自分の持っている100%の力を発揮することができるか、一つ一つ意図を持って一人一人が考え、準備する事でそれが結果に繋がるという事を改めて実感する事が出来ました。大会では、優勝する事が出来ましたがそこに辿り着くまでにグラウンドが使えずジムなどの場所を提供して下さり沢山の方々のサポートにより私達は結果を残す事ができたと思います。大学の中でトップレベルの選手と一緒にプレーができ、とても良い刺激になり沢山の事を学ぶ事が出来ま

した。個人的にもまだまだ足りない部分が沢山あり課題も出ましたが、とても良い経験をさせて頂く事が出来、大会中色々なお話や指導をして頂く中で沢山考える事ができ素晴らしい遠征となりました。

大学に入ってソフトボールをしている私達が伝えられる事は沢山あると思います。今回学んだ事をまずは自チームに伝え、そしてソフトボールをさせて頂く中で日本のソフトボールが変わるように責任をもって行いたい。又、本当の強さとはという疑問に対して考え、出たものをこれから残りのソフトボール人生で全うしていきます。このメンバーに出会えた事、このチームでソフトボールができ優勝できたことに感謝し、これからも頑張っていきたいと思っています。

比護 奈保子（東京女子体育大学）

三日間の合宿を経て東アジアカップが始まりました。この短期間で学んだ事は沢山あります。普段戦っているチームの選手と一緒にソフトボールが出来て本当に勉強になりました。打撃ではボールまでのスイングを教えてもらったり配球では考えを共有したりとても学ぶ事が出来ました。

高橋先生から本当の強さとは、という問いを投げかけられバッテリーで考えた時に取り組む姿勢で応援されるチームになること、と考え心から納得のいく答えでした。その個人の人間性、日頃の行い、見ている人は見えています。そこでやはり応援される人間と応援されない人間で差は断然に開きます。応援されない選手が打席に入ると応援される選手が打席に入るとでは結果は変わってくると思います。自分がいかに応援される選手になるか、それがチームのため、勝ちに繋がってくると考えました。このチームのテーマである“Give a strong impact”のもと、まわりに強い影響を与えることを意識し一球一球、ひとつのアウト等、当たりのプレーだと思いがちですが、それをチーム全体が当たり前と思わず、みんなでとったひとつのアウト、一球を大切に、観ている人を惹きつけるようなソフトボールをしていくことも本当の強さだと考えました。

このチームが集まって約10日間で限られた練習、

試合をしました。集まってから数日しか経っていないのですが絆も深まりとても楽しい時間でした。自チームに帰ってからこの経験を皆に発信できるように積極的に伝えていきたいと思います。

又、この大会に参加するにあたって多くの方々の支え、応援があったからこそより良い環境でソフトボールが出来たことに感謝の気持ちを忘れず日本に帰りたいと思います。

石野 江里佳（東京女子体育大学）

今回第8回東アジアカップで沢山のことを学ばせて頂きました。私自身東アジアカップは2回目の出場となります。昨年も優勝する事ができて、今年も何とか優勝したい、しなくちゃいけないとプレッシャーもありました。いくら同世代だからといってチームを組むのも連携を取るのも初めてなので何をするにも不安がありました。それぞれの個性もチームカラーも違います。そんな人達が集まり一つのチームとして活動するのは難しかったです。けれどスタッフの方も含め、ソフトボールの楽しさを改めて感じる事が出来ました。短期結成のチームではありましたがこのチームで素晴らしい環境の中、ソフトボールが出来たという喜びをパワーに変えて結果を出すことができ、とても嬉しく思います。そして各大学のトップレベルの選手が集まり沢山の事を学ばせて頂きました。各大学でプレイスタイルや注意点、意識する場面、大学によって違いましたが、プレー面や私生活など物事を違う視点から捉えることが出来てすごく良い刺激になりました。この大学界のトップメンバーに選ばれ、そのメンバーと一緒にプレーが出来た事、本当に素晴らしい環境でソフトボールが出来た事、感謝の気持ちでいっぱいです。私も含め東アジアカップに選出された選手は誰よりも良い経験をし、お金では買えない物を学ばせて頂きました。この大学代表というチームでプレー出来た事は一生の財産になると思います。今後の自身のソフトボール人生に繋げ、学んだ事を自チームで活かし、大学ソフトボールをもっと盛り上げていけたらと思います。そしてこの度沢山の方々の支援やサポートがあり、無事に大会を終えられたこと、そして優勝という形で終われたことに、本当

に感謝致します。ありがとうございました。

山田 柚葵（日本体育大学）

私はこの10日間で素晴らしい経験をさせて頂く事が出来ました。“Give a strong impact”をチーム目標に掲げて個人としてもチームの為に何が出来るかを考えながら合宿に取り組む事が出来ました。

事前合宿では東京女子体育大学さん、日本体育大学さん、日立さんと練習試合をさせて頂きました。勝利はしましたが、【チーム力】がいかに大切であるという事を改めて実感し、東アジアで勝つ為には、個々の能力や技術よりも、少ない時間の中でチーム内の連携やコミュニケーションを高めていかなければならないと感じました。

6月13日から大会が始まり、予選リーグを全勝で1位通過する事が出来ました。ヘッドコーチから『本当の強さとは』という問いかけに対して、日本チームはどうあるべきなのか、チーム全員で見直しました。技術があり、勝てるチームが、本当に強いとは限りません。全ての事において、他国からお手本とされる、礼儀正しく、観ている人が魅了するような、周りから応援されるチームになりたいと思います。

今大会に出場させて頂き、日本のソフトボールのレベルの高さを実感しました。ですが、年々日本のソフトボール人口は減少しています、大学生の私に何が出来るのか。自分がプレーヤーとして日本のソフトボールを盛り上げるという思いは幼い頃からありますが、指導者になってソフトボールの楽しさを沢山の人の手に伝えて、日本から世界にソフトボールを広めていきたいという思いも新たに生まれました。

今、私達がこの環境でソフトボールが出来ている事は当たり前ではありません。今回の活動で沢山の方が私達の為に動いて下さりました。感謝の気持ちを持ち続け、一人一人がすべき事を考え、結果という形で恩返しをしていきたいです。

最後の開催である東アジアカップをこのチーム、このメンバーで最高の結果を残すことができ、とても嬉しく思います。この経験を自チームでも生かし、何事にも全力で取り組んでいきます。

下山 絵里（園田学園女子大学）

今回第8回東アジアカップに参加でき、沢山のことを学ぶことができました。今回で最後となる東アジアカップを優勝という形で終えることができとても良かったと思います。東アジアカップのチームの目標として、「GIVE A STRONG IMPACT」学生スポーツが東アジアに強い影響を与えるということが須藤さんから発表がありました。日本の大学生代表として、プレーできることはとても貴重なことで、とてもやりやすい環境でソフトボールができるのも決して当たり前ではないので、感謝の気持ちを持ってソフトボールをしていかないといけないと再確認できました。強化合宿では、東京女子体育大学の方や、日本体育大学の方、日立の方の支えがあり充実した日々を過ごすことができ、良いコンディションで、大会に臨むことができたと思います。

中国では、雨の日が続き大会が行われるか心配されていましたが、全試合を無事に終えることができ最高の時間を過ごすことができました。試合では、一球一球、一試合一試合がとても勉強になり、海外の選手から沢山のことを学ぶことができました。守備では、日本の緻密なプレーで、先の塁をアウトにすることや、ピンチになったときにもそれぞれが役割を果たし、少ない失点に抑えることができていたと思います。攻撃では、出塁し、確実に送る、そして、ランナーを返す攻撃というのができていて、日本のリズムで試合を進めることができて勝利することができていたと思います。

日本では、勝つことが偉いと思われているけど、そうではなく、相手がいるから試合ができていてということを忘れず、価値のあるスポーツをし、「応援される、愛されるソフトボール」になっていたらいいと思いました。

最後に、海外で試合をして感じたことは、日本では普通と思っていることがそうではないということがあり、今置かれている環境がとても幸せだと思いました。また、それと同時に色々な環境に対応していくことで強い選手になっていけると感じました。

今回優勝という形で終わることができとてもい

い経験をすることができました。この経験を生かし、これからの大学ソフトボール界を盛り上げていけるような選手になりたいと思います。また、ソフトボールの人气が上昇し、ソフトボールをする人が増えてほしいです。

長谷川 鈴夏（日本体育大学）

東アジアカップを通して、様々なご支援やご声援の元、無事に大会を終えることができた事に深く感謝の気持ちを持つと共に、新たな気づきや学び、今後に繋がる明確な課題が見つかり、とても良い経験になりました。自分自身、大学日本代表選手として東アジアカップに望むのは2回目、前回の第7回大会でも、周りのサポートの元、自身の力を十分に発揮しチームの優勝に大きく貢献する事が出来ました。しかし、今年の東アジアカップでは、第8回大会を最後に来年からは大会自体が開催されないという事もあり、3大会連続7度目の日本の優勝が大きく期待されており、去年以上のプレッシャーや責任感が大きく申し掛かりました。しかし、全員で支え合い戦い抜いた結果、優勝する事ができ、短期間でのチーム構成ではありましたが、その優勝の価値はとても大きく、自身の中でも大きな財産となりました。大学生らしさを意識し、アジアの諸国に良い印象を与える為にも様々な面からチーム自体を見直し、「Give a strong impact」という目標を掲げ、東京女子体育大学のソフトボール部の方のご支援の元、練習試合などでチームのスキルアップを計った後、中国へと旅立ちました。真の強さとは何なのか、今日本のソフトボールが世界に求められている事への追求、東アジアの諸国を見て、日本を軸と考えるのではなく幅広い視点から、ソフトボールに真摯に向き合えた期間であったと思います。実際に試合を通して、アジアの諸国は日本の様な戦術や戦略を取り入れていると感じました。小技を絡めた打線や丁寧な守備、日本のソフトボールが確実にアジアに定着しつつあると感じました。実際に国外のアジアに目を向けると、ソフトボールの発展、普及の為に日本人が諸国に旅立ち日本のソフトボールを教え、世界のソフトボールスキルを高めています。アジアを代表する日本は技術や戦略

など積極的に世界に発信し、ソフトボールをより良いものにしていくべきであると考えます。その為にも、幅広い視点から物事を捉え、吸収をしていく必要性もあります。それは技術面だけではなく、ソフトボールをするにあたり人間性や生活面も同様の事が言えると思います。この経験を通して、普段何不自由なく生活をし、当たり前の様にソフトボールが出来ている日常が、どれ程幸せで恵まれているか、改めて気づかされる面も沢山ありました。この大会で学んだ貴重な経験を大いに生かし、今後のソフトボール人生に生かしていきたいと思います。

亀田 栞里（日本体育大学）

まず初めに、最後となる第8回東アジアカップに参加でき、また無事優勝する事ができ本当に良かったです。

この大会に参加するまでに、HITACHIさんや東京女子体育大学さん、ミズノさんなど沢山の方々にお世話になりました。沢山の支援があったからこそ、大会に参加することができ、優勝できたと思います。

今大会に挑むにあたって“give a strong impact”アジアにインパクトを与えるというチームテーマを掲げました。アジアにインパクトを与える為には何が出来るのか、日本らしいプレーやプレー以外の所でもどうやってインパクトを与えるのか凄く悩みました。

しかし、1番は試合をどこのチームよりも楽しむ事です。アジアのチームは凄く感情が声や態度に出ていて楽しそうにソフトボールをしていました。自分達は、どうしても結果ばかり考えてしまう事が多いと思います。まずは、ソフトボールを楽しむ事を忘れずこれからも取り組んでいきます。また、敵チームの人と一緒にプレーをするにあたって、1番大切なのはコミュニケーションという事に気づかされました。この10日間でチームを作る為にも、自らコミュニケーションを取る事で相手の事を理解できるようになり、全員が共通理解をして行うことができました。自分と違った考えを持っている人とをコミュニケーションをとる事で知識を増やす事ができ、自分自身の成長にも繋

がりました。

日本の大学の代表選手として、普通の人では経験出来無い事を沢山させて頂きました。この経験を活かし自チームに戻った時、反映していきもっと大学ソフトボール界を盛り上げていきたいと思っています。

最後になりますが、10日間沢山のサポートありがとうございました。今後も宜しくお願い致します。

白石 望美（園田学園女子大学）

まず、東アジアカップを無事終了することができこの大会を運営して下さった方々に感謝したいです。初めての国際大会でしたが、大会を通してすごく楽しめました。約10日間の中で練習、試合を通してチーム編成をするということですが、難しかった部分があったと思いますが色々な会話や、興味を持つこと、忘れてはいけないチームの為にという一人一人の役割が果たせたことで良いチームが出来て優勝することが出来たと思います。事前合宿では、私はこのチームの為に何が出来るだろうとすごく考えました。試合で結果を残すことはもちろんですが、やっぱりチームが上手く回るように周りを見て動いたり、一人一人に声をかけたり、気づいて動くそれをする事が大事だと思いました。大会が始まると、私の役割を果たす事を心がけました。色々な感情が出ました。でも、絶対に忘れてはいけないチームの為に、そこは芯を持ち、挑みました。全国の大学生の代表であること、日本という国を背負っていることで1つの行動や、姿勢などの見られている意識というのはすごく重要だと感じましたし、これからの自チームに戻ってからも継続していきたいと思っています。

中国に来て初めて練習をした時雨上がりということもあり湿度が高く練習がすごく辛かったです。気温の変化、食の違い、言葉が通じないそういうなかで自分の実力を発揮する強い心がまだまだなく、冷静に判断して楽しくプレーをするということが出来ておらず自分の課題も沢山見つかりました。他大学のメンバーと一緒にプレーをすることができ、色々な考え方や視点があることを知り自分自身も勉強することができました。本当に自分

にとってこの経験がすごくプラスになりました。その感謝を形として表現できるようにする為には、やっぱり謙虚に、後輩達に伝えていくこと、そして勝ち負け以外の価値という部分、本当の強さを見つけれられるように色んな視点を持ちながら今後頑張りたいと思います。沢山のスタッフの方に支えられ無事この大学JAPANが終了できたことに感謝してその当たり前の上に気づき感謝できる人間になりたいです。高橋先生のもとで、ソフトボールができてすごく刺激を受けました。これからの私のソフトボール人生、またこれからの未来のソフトボールプレイヤーにも伝えていきます。10日間ありがとうございました。

舟橋 花保（中京大学）

今回の第8回東アジア大会を経験させて頂き、高いレベルの選手の中でプレーする事でとても多くの刺激を受けました。いつもは対戦相手として戦っている人と同じ練習、同じ時間を共有する事で色々なソフトボールの考えを学ぶ事ができました。

監督、コーチ陣の方々からもいつもの指導内容とは違う部分もあり新たなソフトボールを学ぶ事が出来たと思います。またチームで当たり前だと感じていた事も当たり前では無いという事も実感しました。ソフトボールの面だけでなく、今回始めて中国に遠征させて頂き生活面、ソフトボールに対しての環境なども日本で出来ている事が当たり前では無いとおもいました。道具やグラウンド、設備など日本はすごく恵まれていると感じました。この経験を生かし、今まで以上に感謝の気持ちを持ち、気持ちを行動に変えていけるようにしたいと思います。

私達がこれからすべき事は、このような経験を自分達だけのもので終わらせずに自チームに帰って共有し、日本のソフトボールの良さや、当たり前な事は無いと言うことを伝える事だと思います。日本はプレー面だけでなく、ソフトボールに取り組む姿勢や行動が今回の東アジア大会で強いインパクトを与えるという目標でもあり、日本の良さだと思うのでそういった部分も大学ソフトボール界から広めていき、これからのソフトボール

界全体も継続して良い部分を繋げていきたいと思っています。今回の大会では中国がとてもソフトボールに力を入れている事を知りました。日本も技術力がありオリンピックなどでも優勝を狙えるくらいのレベルがあるのでもっと日本でソフトボールという競技が広がり国として力を入れていけばアジアや世界にも、ソフトボールを広げられるのではないかと、思いました。

私達が今出来る事は、ソフトボールの良さを広める為にも、競技力向上やソフトボールを通じて学ぶ礼儀、人間性の向上だと思うので今回日本代表を経験させて頂いた私達から実践していきたいと思っています。

黒木 美紀（東京富士大学）

私は今回の大会に参加したことによって、貴重な経験をすることができました。大会や事前合宿を通して、特に周りの人へのありがたさ「感謝」をととても感じる事ができました。絶対に1人ではできない、色々な人の支えがあったからこそその優勝だったととても感じています。

行く前に道具を揃えたり、冊子を作ってくれたこと、交通の手配、チーム結成からの予定などから、東京女子体育大学の方々の協力など、私たちプレーヤーがやりやすいようにお手伝いをしてもらったり、ここまでやってくれるのかと驚きもあるくらい力を貸してくれました。それに対する恩返しとして、試合に勝って優勝してくることが1番の私たちからのお返しだと思います。

その中で「勝ち」よりも「価値」を高める。という話があり、それまでは考えたことがなく、勝つことを中心で考えていました。でもその話があったから考え方を変えてみると、ほんとに一瞬一瞬が大切で、その一瞬に価値が存在する。考え方、見方を変えると今まで感じてこなかったものがとても貴重な時間に感じられました。

そして、今回の大会の中で1番難しかった事が「本当の強さとは何か」を考えることです。ただ勝つことだけではだめだと言うこと。プレー以外のマナーや行動も含まれるということ。これは考えるとすぐにでてくる答えだったけど、それは当たり前の事で、もっと考えると、この遠征後に自

分が経験したこと、教わったことを帰ってから伝えることも大事だと思いました。もちろん、今回だけでなく、今後も自分だけ教わったことを吸収するのではなく、共有すること。そうすることで共通理解をすることができる。理解できればお互いを尊重することができる。そうすることができれば本当の強さというものが生まれるのだと思いました。この大会では、一瞬一瞬を楽しむことが全員できることだと思い、選手全員で共通理解をして試合に臨みました。ピッチャーは野手の事を思い、野手はピッチャーのことを思う、と言うのがあったように私は感じました。共通理解があり、お互いが尊重していたからこそ優勝という結果に繋がったと思いました。

杉本 梨緒（中京大学）

今回大学のトップレベルのチームの中でプレーすることができ、10日間を通して沢山のことを学び、感じるができ、とても中身の濃い時間を過ごすことができました。

いつもは敵チームの相手と大学日本代表という一つのチームとなり最後の東アジアカップで全勝優勝を飾ることができました。10日間という短い間でチームを形成することはとても難しい事だと思いますが、短い期間で団結力を深められたこと、全員総力で勝てたことが全勝優勝の鍵となったのではないかと思います。今回の合宿と大会のテーマである「Give a strong impact」を色々な意味で達成出来たのではないかと思います。プレーもそうですが、ソフトボールに対する姿勢や態度、チームとしての団結力で、アジアに強い影響を与えることが出来たと思います。

個人的には去年も東アジアカップを経験させて頂いたのですが、打撃の面で結果が出せなかったことが心残りです。中国に来て、思うような結果を残すことができず、悔しい思いと情けない気持ちでいっぱいでした。しかし、最終日の決勝戦で一本ホームランを打つことができ、「やっとでたな」と監督・コーチ含め、選手皆が喜んでくれて、心の底から嬉しかったです。

試合に出て活躍をすることが全てではなくベンチワークをしたり、声を出したりとチームの勝利

に色々な形で貢献することが大切だと身をもって感じました。

「価値」を見出した人が勝ってほしい！という清水先生からのお言葉が印象に残りました。清水先生のお言葉から、技術よりも、人としての人間性が大切であり、結果よりもそれに対する過程や経験が重要だということ、勝ち負け以上に大切なことがあるということなどを学びました。

今回の10日間を通して学んだことを活かし、個人のレベルアップ、チームのレベルアップに繋がっていきたいと思います。そして、さらに大学のソフトボールが盛り上がって行けたら良いと思います。

加藤 亜実（園田学園女子大学）

2019年度の大学JAPANの選考会を経て、中国で行われた第8回東アジアカップに出場出来た事は、私にとって大きな財産となり、また自分自身成長する事が出来たと感じています。

大学JAPANとして選出された時、驚きが大きかったのを覚えています。それと同時に、自分が全国の大学の代表として、また学校の代表として日の丸を掲げて試合をする事は思っていたよりも重く、大変なものでした。事前合宿を通して、日本代表としてのプレーや行動に対して多くのご指導をいただき、私自身思うようにプレーが出来なかったのはまだまだ自分自身のスキル不足や行動にただ個人の事を考えているのだと感じました。もっと、チームの一員としての役割や、やるべき事があるのではないかと事前合宿を通して多く学び、考え、大会が行われる中国へと向かいました。

現地に到着してから天候が悪く、練習場所が限られている中で、ジムなどの施設があったり、食事でも私達の食べられるものを提供していただいたりと多くの事に感謝すると共に普段何気なく生活している事は当たり前ではないと改めて感じる事が出来ました。

また、スキルの面では個人の一球ではなく代表としての一球に変わり、東アジアカップで優勝したいと強く思いました。大会を通して、今年は「強い影響を与える」という目標の元、チーム16人全員で一戦一戦に臨みました。自分の役割に徹

し、今自分ができる最善の事を考え、チームに少し貢献できたのではと思います。しかし、まだまだ個人のスキルを上げる必要があると痛感する部分も多く、この大学JAPANが終わっても自チームに帰りまだまだ成長できるように日々努力していきたいと思っています。

今大会で最後の東アジアカップで優勝という結果に終わりソフトボールが本当に楽しく、やりがいのあるものだと思えて感じる事が出来た遠征でもありました。

これからチームは、バラバラになり自チームに戻ってしまいますが、今回得た多くの経験をこれから今後の生活や人生に活かしていけたらと思います。この大学JAPANに選出され本当に幸せでした。この幸せを当たり前せずソフトボールが世界にもっと広まるようにソフトボールの楽しさなど沢山の方に知っていただけるように自分自身でできる事を精一杯やり本当の強さというものを探りながら頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

高瀬 沙羅（中京大学）

今回の東アジアカップを通して、「日本代表とは何か。」・「世界で戦うとはどういうことなのか。」を自らの肌で感じながら考えることが出来ました。10日間と短い期間でしたが、その期間で多くの貴重な経験をさせて頂き、同時に多くの学びを得させて頂きました。

大会前に日本で事前合宿を行い、その後、中国で大会を迎えたのですが、短期間でチームをつくることの難しさを感じました。通常、時間をかけて積み重ねてつくるものを2～3日でつくらなければならない。私はそこに不安を感じていました。しかし、事前合宿で丸一日チームの仲間と寝食を共に過ごす環境をつくって頂き、コミュニケーションを取る事ができ、チームの仲を深めることが出来ました。そのため、1プレーに対する互いの意思疎通を迅速に行うことができ、細かい部分ま

でプレーを詰めることが出来たと感じています。それが出来たのも日本体育大学さん、東京女子体育大学さん、日立さんに練習試合の機会を頂き、東京女子体育大学さんには全面的に合宿のサポートもして頂いたお陰だと思っています。このような環境があることは当たり前ではありません。今回、優勝という結果を出す事が出来たのもこのような多くの方々の支えがあったからです。日頃から感謝の気持ちは決して忘れてはいけなくと改めて感じさせて頂きました。また、今大会で「Give a strong impact」というテーマを掲げ、「このチームで東アジアに強い影響を与えよう！」と試合を迎えたのですが、試合に勝って影響を与えることはもちろんのこと、それ以外で礼儀、挨拶、人間性といった学生スポーツの部分でも東アジアに影響を与えられるように取り組みました。1つ1つの行動や言動が日本を代表することに繋がり、個々の自覚や責任感を持つことの大切さを実感しました。「本当の強さとは何か。」今までの世界観だと感じられなかったものが日本代表という立場を頂き、またお話も聞かせて頂き、大学生だからこそ得られるもの、強みがあり、それを今後に繋げる必要があると感じました。「本当の強さ」これは1つの言葉では表せないと考えます。しかし、その強さを得るために経験があり、失敗があるのではないのでしょうか。私は、今大会でそれを強く感じる事が出来ました。私はその経験を積むことでまた一つ成長できる糧になると感じています。伸び代がまだまだ自分にはある。だから、諦めずに、逃げずに続けること。そして仲間を、自分を信じる事。それから謙虚の気持ちを持って、相手に敬意を払うこと。以下のことを、今大会を通してもう一度見つめ直させて頂きました。

今回、このような経験をさせて頂いたスタッフ陣の方々、本当にありがとうございました。私は、このかけがえのない経験を自チームや多くの場面で生かし、今後に繋げていきたいと考えています。最後に短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

【国際大会】 2019年度第1次海外強化合宿（男子U-23） 全日本大学男子選抜チームインドネシア（マカッサルオープン）遠征報告

柳田 信也（大会ヘッドコーチ・男子強化委員）

1. 派遣期間：2019年9月12日（木）～24日（火）
2. 大会期間：2019年9月15日（日）～22日（日）
3. 開催地：インドネシア・マカッサル
4. 参加大会：Makassar Open 2019
5. 派遣チーム：全日本大学男子選抜チーム
6. 参加チーム：全日本大学男子選抜（U-23日本代表）、LAKIDENDE、PICCADILLY、PIRATES（インドネシアのクラブチーム）、VARSITY（マレーシア）、CHIANG MAI（タイ）、シンガポール代表
合計7チーム

7. 出場選手・スタッフ

No.	守 備	氏 名	所 属 名
1	投 手	海 邊 和也	福岡大学
2	〃	奥 田 拓海	神戸学院大学
3	〃	佐 藤 夏己	立命館大学
4	〃	柴 田 将希	国際武道大学
5	〃	歳 川 幹大	中央大学
6	捕 手	沢 村 洋	福岡大学
7	〃	鈴 木 隆弘	関西大学大学
8	内 野 手	岡 龍太郎	国士舘大学
9	〃	川 上 卓也	早稲田大学
10	〃	実 松 悠仁	福岡大学

11	〃	島 田 真尋	城西大学
12	〃	吉 永 文太	環太平洋大学
13	外 野 手	綾 戸 康祐	福岡大学
14	〃	瓦 口 昂弥	九州産業大学
15	〃	菊 川 智己	中京大学

No.	役 職	氏 名	所 属
1	チームリーダー	久保田豊司	大阪国際大学
2	ヘッドコーチ	柳 田 信也	東京理科大学
3	アシスタントコーチ	吉 田 智行	神戸学院大学
4	マネージャー	森 田 啓之	兵庫教育大学
5	トレーナー	田 岡 幸一	Body Laboratory
6	通 訳	Siti Djulianh	



【遠征の概要】

昨年のアジア男子選手権大会の際に、インドネシア協会会長から岡本男子強化委員長に出場の打診があったMakassar open大会に全日本大学男子選抜として出場させていただいた。来るべきU-23アジアカップ、ワールドカップに向け、さらにはTOPへの選手輩出を目標とした海外強化合宿として大変有意義なものであった。

選手たちは、全日本大学選手権大会終了直後ということもあり、コンディション面で不安もあったが、大きなアクシデントもなく全日程を終了することができた。出発する前日（9月11日）に羽田空港近くのホテルに集合し、顔合わせを行うというタイトな条件ではあったものの、大田区協会

ご協力もあり、出発地である羽田空港至近のグラウンドを確保していただき、簡単な練習ができたことも極めて大きかったと考えている。

9月12日午前羽田空港を出発し、ジャカルタ経由でマカッサルに現地時間の午前2時過ぎに到着した。13日は昼まで回復時間とし、午後は練習をする予定であったが、急遽、マレーシアチームがフレンドリーマッチを組んでくれるという幸運にも恵まれ、調整を上手くこなしながら試合に臨むことができたと思われる。マレーシアチームは本来であればコールドゲームとなるところを、夕暮れの中、7イニング終了まで快くゲームを行っていただき、全選手が出場、戦力の確認を行うことができたため、感謝の念に堪えない。

インドネシアはもとより、マレーシアやタイ、シンガポールチームは昨年のアジア選手権大会で交流を持ったスタッフが残っており、その繋がりが大きく影響したと考えられ、国際交流の大切さを実感した次第である。

【大会結果】

◎予選リーグ

【第1戦】 VS LAKIDENDE 0-3 ●

盛大なオープニングセレモニー後のオープニングゲームで、満員の観客に見守られる素晴らしい環境での試合となった。結果はニュージーランド代表ニック・ヘイズ投手、元オーストラリア代表ジ

ノン・ウィンタース選手の強力バッテリーを要するチームに、2安打16三振と手も足も出ない敗戦であった。しかし、両選手からは若い選手がこのスコアで乗り切るのは大健闘だと称えられた。

【第2戦】 VS Chiang mai(タイ) 8-0 ○
移動の疲労もあったかとは思いますが、意識の低さ、日本代表としての自覚の欠如がみられる試合であった。チームリーダー、ヘッドコーチからの言葉と共に、選手のみでのミーティングを実施し、気持ちを新たに次のゲームに向かうこととなった。

【第3戦】 VS シンガポール代表 7-9 ●
立ち上がり、先発投手がシンガポール打線につかまり、交代した投手もその流れを止めることができずに大量失点を喫した。シンガポール代表の長身右腕、2投手は球速も120km前後、ライズ、ドロップを駆使する好投手であった。昨年に対戦したが、比べ物にならないほど成長していたことに驚いた。試合終盤に追い上げをみせたが、自チームのミスも目立ち、惜敗となった。

【第4戦】 VS PICCADILLY 6-1 ○
地元マカッサルのクラブチームではあるが、日本人が4名参加しており、特に三重県庁クラブの中心選手である河野投手、櫻庭選手がチームを引っ張っている印象であった。投打ともにチームワークが醸成されてきた感があり、安定したゲーム展開を示すことができた。

【第5戦】 VS PIRATES 33-0 ○
選手同士のコミュニケーションも深まり、素晴らしい展開で試合が進んだ。しかし、大量得点差になってもバントやパスボールによる進塁を行うことは国際的な感覚から逸脱している部分もあり、国際性の勉強としても意義深い試合となった。

【第6戦】 VS VARSITY(マレーシア) 15-0 ○
控えのことが多かった選手の活躍もみられ、完勝で予選リーグを終えることができた。

【予選リーグ結果】

4勝2敗 同率ながら、失点率で4位

【決勝トーナメント1回戦】

VS シンガポール代表 11-0 ○

予選で苦杯をなめたシンガポールに対し、長打で2点を先制し、その後は日本らしいバントや盗塁を絡めたスピーディーな戦術でビックイニングを

作り、5回コールドで予選の雪辱を果たした。

【決勝トーナメント2回戦】

VS LAKIDENDE 2-5 ●

先発の海邊が素晴らしい立ち上がりを見せ、序盤は落ち着いた展開であったが、ニュージーランド代表マキア選手、元オーストラリア代表ウィンタース選手ら世界一を経験しているメンバーに二回り目には捉えられ、失点をしてしまう。終盤に菊川のタイムリー、吉永のホームランで2点を返すものの、これまた世界一を経験している右腕ニック・ヘイズ投手を打ち崩すことはできず、敗戦となった。

【総括】

何よりも世界一の空気感を大学生が味わうことができたことが大きな財産となったと考えている。ニュージーランドやオーストラリアの選手たちは

何がすごいのか？何を考え、何を実践しているのか？このようなことを肌で感じる事ができた今回の遠征は収穫の大変大きなものであった。実際に選手たちもまたこの舞台に立ちたい、日の丸の重みとプライドをまた感じたいというような未来へ向けたポジティブな感想も得られている。また、試合の合間にはウィンタース選手とヘイズ投手がクリニックを開催してくださり、これもこの遠征の大きな収穫のひとつであったと考えられる。

強化策として、海外の選手から日本人の“正直さ”についてアドバイスをもらった。サインの出し方、ランナーやコーチからの声のかけ方など、国内のルールやマナーを超えた世界で彼らは戦いを挑んでくるため、真の国際化を図るのであれば国内の試合の在り方についても議論が必要かもしれない。

最後に、このような機会をいただいたことに対し、関係各位に深く感謝を申し上げます。

マカッサルオープン2019を終えて（選手の感想）

全日本大学男子選抜について

主将 関西大学3回生 鈴木 隆弘

大学という枠組みから選抜していただいた今チーム。来年のアジアカップ、再来年のワールドカップに向けての先駆けとなる遠征でした。柳田ヘッドコーチから自信をもって選んだという言葉いただいた15人は、とても心強いメンバーでした。結果は3位と心許ない成果に終わってしまいましたが、収穫は大いにあったと思っています。一戦一戦を戦うごとに即席のチームが徐々に一つのチームとなっていくことが感じられました。

このチームはこれで終わりとなってしまいますが、私たちの日本代表としての役目は今大会限りではないと思っています。むしろ各々の大学に選手たちが帰ってからこそが本当の役目だと考えています。世界一のピッチャーと対戦し、皆が何か経験を積みました。その経験を15人の中で留めておくのではなく、周りに拡散することが大事です。この遠征でスタッフさん達のソフトボールに対す

る思いを知り、やはりそれを実現するには当事者である選手達自身が変わらないといけません。世界をみた私達がチームメイトに広げ、大学ソフトボール界を成長させていくべきです。来年のアジア大会や再来年のワールドカップと大学ソフトボールチームに委ねられている事は重大なことであるとともに、期待もかなりのものであると感じています。マカッサルオープンは3位という不甲斐ない結果ではあったものの、1試合1試合チームとしての成長が感じられた今大会は、来年以降にも繋がる一歩目だったのではないかと思います。今遠征を大学という部門に任せていただいたことに感謝しています。今後も大学生に任していただけるよう、そして男子ソフトボールというものがもっと盛り上がっていけるよう私自身も行動していかなければならないと考えています。

全日本大学男子選抜チーム第1次海外強化合宿

早稲田大学4回生 川上卓也

私は今回、全日本大学男子選抜チームの一員として、インドネシアで開催された第4回マカッサルオープンに参加させて頂きました。私自身、昨年度も全日本大学男子選抜チームとしてアジア選手権大会に出場させて頂いた経験もあり、今回は昨年の経験も踏まえながらの遠征となりました。開催地であるインドネシアは日本とは文化も大きく異なり、慣れない環境ではありましたが、昨年も同様にインドネシアでの開催であったため、その経験から今回はコンディションも上手く調整しながら、良い形で大会期間を過ごせたと思っています。環境という面で大きく変わった部分としては、昨年からメンバーが大きく変わったことでした。初めて顔を合わせるメンバーも多く、一つのチームとして上手く機能するには時間がかかりそうだという不安もありましたが、集まった初日からメンバー同士でしっかりとコミュニケーションも図ることができ、良いスタートが切れました。

私は今大会を通して率直に国際大会で勝つことの難しさを感じることができたと思っています。昨年のアジア選手権大会とは異なり、ナショナルチームに加えクラブチームの参加もあり、その参加選手の中には世界のトッププレーヤーもいました。そういった中で、力の差を見せつけられ敗戦した試合などは、今回の遠征で一番印象深く、学ぶことが多くありました。初めて世界のトップレベルの選手と対戦し、世界で戦っていくためにはどれほどの技術や精神力が必要なのかを身に染みて感じることができました。

最後に、今回この遠征を通して、多くの貴重な経験をすることができました。それはソフトボールのことに限らず、異文化に触れること、他国の人々と交流すること様々にあります。今回学んだことを一つでも多く、今後の人生やソフトボール競技に活かすことに意味があると思っています。そして、この遠征に参加した私たちが学んできたことを発信し、日本のソフトボール界の発展に少しでも貢献したいと思います。

マカッサルオープンに出場して

国士舘大学4回生 岡 龍太郎

マカッサルオープンに出場して世界レベルを体

感することができました。見たことのない変化量のボールや軽く打っただけで飛んでいくボールを見てとても自分の力を改めて思い知らされました。大会中、とても多くの技術を教えて頂き、自分自身の手応え、そしてレベルアップをととてもしているなと感じました。

自分自身、海外遠征などしたことがなかったのに新しいソフトボールを知ることができよかったです。

また、男子ソフトボールはまだまだ知られていないことも再確認でき大学日本代表としてソフトボールの発展になんらかな形で関わっていかなくてはならないということも考えさせられた大会になりました。今はサッカーなどが人気でそれに勝つことはとても難しい話だとは思いますが、何事にも正しく努力をし続ければ結果は大きく変わると感じます。なので、私自身も男子ソフトボールをマイナー止まりで終わらせたくないです。自分が生きている間に男子ソフトボールが少しでもメジャーなスポーツになるよう貢献していきます。

この大会で技術的にも、スポーツのあり方の部分でもたくさん考えさせられ、とても良い経験になりました。しっかりと今後活かしていきたい世界に通用する選手になれるよう、男子ソフトボールの発展に貢献できるよう努力していきたいと考えます。

全日本大学男子選抜を経験して

福岡大学4回生 沢村 洋

幼いころから、日本代表として日の丸を背負い、世界のレベルを体感してみたいという夢が今回このような形で叶えられたことをとても嬉しく思います。代表選手が集結した際には、皆各チームの主軸であり、今まで敵同士で鎬を削ってきた選手たちと今度は一緒のチームという立場で戦えるという環境を誇りに感じました。そんな中で迎えた約10日間に及ぶマカッサルオープン。結果は3位という納得のいかない悔しい結果に終わりました。多くのチームと試合をする中で、自分の未熟さや短い期間の中で即席チームが一つのチームになる難しさ、日の丸を背負う責任感を感じました。また捕手として世界トップレベルの選手と対峙する

中で、打席の中で発すオーラを感じ、配球もことごとく読まれ、世界のレベルを肌で感じる事ができました。その中でも、一球に懸ける思いとその集中力は私たち日本人が真似をしなければいけないと思いました。

このマカッサルオープンを通して多くのことを学び、これからの課題も明確になりました。それらの課題を克服し、一人一人がソフトボールに対する意識を少しでも変えれば結果もついてくると思います。それが男子ソフトボールの発展につながり、皆が知っているメジャーなスポーツに近づくと思います。私も今回選ばれたメンバーとして、大会で学んだことをほかのメンバーに還元する責務があります。今まで関わってくださった方々に、そしてこれから関わってくださる方々に、何らかの形で伝え、ソフトボールの認知度が上がるようなことをしていきたいと思います。

最後に、このインドネシアへの遠征に関わってくださったすべての方々に感謝します。ありがとうございました。

マカッサルオープンを終えて

福岡大学4回生 綾戸 康祐

私は今回の遠征を通してとても貴重な経験ができたと思います。まずは、他国の選手との交流ができた事です。私は今まで日本人の選手の考え方やプレーばかりをインプットしていましたが、国境を越えてアドバイスを受けると外国の選手ならではの考え方があり、私自身の考え方の幅を広げることができました。また、日の丸を背負うことの重さを感じることもできました。予選でシンガポールに負け、スタッフの方々から「日本が他のアジアの国に負けることがあってはならない」と言われたことで、日の丸を背負っている以上簡単に負けることは許されないのだと感じました。大学生が日本代表として選出されていることはひと昔前までは考えられなかったことだと言われ、一人一人がもっと自覚を持ってプレーしなければならないと思いました。私は大学4年の為、来年度のアジアカップには出場できませんが、これから大学男子ソフトボールがもっと発展してほしいと強く思っています。私も今回の経験を活かして大

学男子ソフトボールの発展に貢献したいと思います。

最後になりましたが、今回のマカッサルオープンの運営等に関わって下さった皆様には本当に感謝しております。ありがとうございました。

全日本大学男子選抜海外遠征

九州産業大学4回生 瓦口 昂弥

今回の海外遠征のメンバーは大学選抜で、今現在大学のソフトボールをしている中でも優れた選手が集まったチームです。その中に私も選ばれていて、技術面や人間性など自分自身チームメイトに劣っている部分ばかりなのでとても不安でした。そんな中初めてインカレにて顔を合わせた時の皆のやる気に満ち溢れた顔つきに驚きました。このメンバーと一緒にソフトボールができると思うと次第に私も楽しみになっていました。

第4回マカッサルオープンに大学男子選抜は出場しました。今まで行ったことのないインドネシアのマカッサルについて真っ先に思ったことは日本に比べて空気や天候も悪く、ソフトボールをやりづらい環境だと思いました。遠征1日目はマレーシアとのテストマッチを行なった結果勝利することができました。そこで学んだことはマレーシアの投手は外国人特有の投げ方であり日本では経験できない貴重な体験をすることができたことによって外国人の投手はボールの握りを見られないようにするためにギリギリまでグラブで隠すようにしている投手がほとんどだったので日本とのソフトボールに対する考えかたから違うことを学ぶことができました。マカッサルの食事は口に合わないものばかりでしたが代わりに12日間で痩せることができました。マカッサルオープンは3位という結果で終わりましたが大会中やそれ以外のところでもサポートして下さったスタッフの方々や良いチームメイトに囲まれて良い経験になりました。

マカッサルオープンの振り返り

環太平洋大学3回生 吉永文太

今回の全日本大学男子選抜に選んでもらっているようなことを学ぶことができました。その中で私

が学んだことで3つほど大事だと思った事があります。1つ目は日の丸を背負った人のプライドです。日本の大学生の中で日の丸を背負えるという嬉しさと重圧というものを感じました。日本は今世界でもトップレベルのチームでアジアのチームに負けることは許されない中一度シンガポールに負けた事で日本はトップ以外そうでもないといわざる終えない状況を作ってしまったことにとても焦りを感じました。しかし決勝トーナメントでコールドで勝つことができたのはチームとしても日々成長していった結果がついた証拠だと思いました。しかし、一度負けたのでシンガポールの中では日本に勝てるという自信がついたことにとても焦りが私の中ではあります。次のアジア選手権で選んでもらったら絶対に全ての試合をコールドで終わらせて日本の強さをまた証明したいと強く思っています。そういったところでブランドと責任があると思いました。2つ目は、環境の変化と私生活の大事さです。やはり海外に行くと食べ物食べれなかったり体調を崩す人が出てきていました。世界選手権などになると時差があるので環境の変化そして私生活の過ごし方にすぐ慣れる能力が必要になると実感した遠征でした。3つ目は試合を楽しむということです。やはり日の丸を背負って戦う分プレッシャーなどは必ずしもありますがプレーヤーはそれを自信に変えることによって試合を楽しんで出来ると私は思いました。

その中で私が持っている全てのパフォーマンスを試合で発揮できたら勝ちに近づいてくるのではないかと思います。これらのことから私は日本代表を背負った人はプライドやプレッシャーそして責任があることを凄く感じた遠征になりました。この経験は今後のソフトボールをする上でとても役立つし、そして世界のソフトボールのレベルがわかるので、Top Japanに入るために必要なことが凄くわかったので大変いい経験になりました。

最後にヘッドコーチ、コーチ、スタッフ、団長にはとてもいい経験そして充実した環境を選手のために作っていただいてとても感謝しております。ありがとうございました。これを糧に大学ソフトボールをもっと盛り上げていきます。

インドネシア第一次強化合宿を終えて

中京大学3回生 菊川 智己

今回のインドネシア遠征を終えて本当に貴重な体験をさせていただくことができました。スタッフの皆様には感謝しています。この遠征で特に自分が成長できたと感じる点は3つあります。

1つ目は、世界最高峰である、ニュージーランドのピッチャーと対戦して感じたことです。今までは自分は打席でとにかくフルスイングでホームランを打つという考え方でどの場面も臨んでいました。しかし第1戦目の試合でニュージーランドのピッチャーと対戦して2打席連続三振し、このような球どうやって打てばいいかわからなくなるぐらいでした。2戦目は代打でタイムリーをあげることができ、自分の中で考え方をえど球がきてもセンター前に打つという意識で臨めた結果でした。これらの経験を生かして、世界のレベルで戦うには変化量に対応するバットコントロールが大切だということに今回の遠征で気がつくことができました。

2つ目は、どのような環境でもベストな状態を作るということがプレーヤーとして、アスリートとして大切だということです。今回初めて海外に行って、風邪をひいてしまったり体調が優れなかったり、怪我をしてしまったりと自己管理ができていませんでした。アスリートとして万全の状態試合に臨めるように準備や予防をすることの大切さを改めて感じました。

3つ目は、ソフトボールとは関係ないですが、言語が通じるという大切さです。英語力がこれからの時代さらに大切になってくると思います。もっと今回の遠征で英語が話せて聞き取れていれば学ぶものはもっとあったと思います。

今回の遠征では第3戦以降怪我で本来の自分力を出せませんでした。この悔しさをこの冬のモチベーションにしてまた来年も日の丸を背負えるように努力して行きたいと思います。また遠征で話されたスタッフの方々、特に柳田ヘッドコーチの男子ソフトボールに対する熱い思いを今回の選ばれたメンバーが各地区に散らばってまずは大学男子ソフトボールを全国に広め、日本リーグやTOP JAPANを知ってもらい、男子ソフトボールがメジャ

ースポーツになるようプライドを持ってソフトボールに取り組みたいと思います。

全日本大学男子選抜マカッサルオープン

中央大学3回生 歳川 幹大

この度、全日本大学男子選抜マカッサルオープン参加において、私は即席チームにおける方向性の決定の難しさ、言語の壁、世界レベルの能力と自分との能力の乖離などの問題に突き当たりました。

まず、即席チームにおける方向性は初日、2日目のLAKIDENDE戦CHIANG MAI戦ではまだ自分たちが何をすれば良いのか、チームとしてどのように振る舞えば良いのかが分からず自チームでの自分の振る舞いをしてしまっていた傾向があり、日本代表の名に恥じない振る舞いであったとはいえなかった。しかし、柳田ヘッドコーチ含め首脳陣の方のアドバイスにより、3日目のシンガポール戦では、少しずつ日本代表としての自分の立ち振る舞い、チームの方向性が定まってきたが、この試合は敗戦してしまったが、この敗戦が良い転機となり、4日目以降は皆が一段となり日本代表としての自覚も持ち合わせるにより良いチームに向かっていくのが肌で感じる事ができた。また、私たちは言語の壁に突き当たった。コンビニで商品を買うにしても、試合会場で声をかけられても中々相手の話している事が理解できず、また自分の意思を伝えることができないという問題がありました。私は、ニックヘイズにピッチャーとしての考えなど沢山聞きたいことがあったが英語に自信がなく、一步踏み出すことができなかったというのがとても心残りにあります。いつくるかわからないチャンスを掴むためにも、言語能力というのは必要不可欠であると感じました。最後に世界のレベルの高さについてです。2019年チェコで開催された世界選手権では、日本代表は2位という素晴らしい成績を残しました。今後私がトップの日本代表を目指す上では、LAKIDENDEに助っ人に来ていた、ニュージーランド、オーストラリアの選手達と対等に戦っていかなければならなく、私はその世界レベルのソフトボールを見て驚愕しました。実力の違い、ソフトボールに対しての考え

の違いを目の当たりにして私の至らなさを感じさせられました。

私は、このマカッサルオープンに参加ができたことによって、よりソフトボールという競技の奥深さが分かりました。今後このソフトボールが発展していくためにも、私たちが変わらなければいけなく、まずこの経験を持ち帰り、自チームから変え後々には東京リーグ、大学全体、日本全体とソフトボールというものがより良いものにしていくという考えが、この大学選抜において得たものです。

全日本大学男子選抜海外遠征に参加して

国際武道大学3回生 柴田 将希

今回の海外遠征に参加させていただいて沢山の経験が出来ました。私は初めて海外の選手と対戦しました。

海外の選手と対戦してみて外国人は体が大きく力があり特に印象的なのがニックヘイズのライズ、ドロップが今まで見てきた中でも次元が違うと思いました。そのニックヘイズからのピッチャー講習はとても参考になり私の今後のソフトボール人生にとって良い経験になりました。今回の海外遠征で得た経験を持ち帰り大学の自チームに伝えたいと思いました。

私は食事が日本の味付けと違いあまり合わないと思い体重が減る事を心配しましたが2、3日で慣れる事が出来て体重も落ちる事はなかったので良かったです。

田岡トレーナーのアップ、ダウン、ケアの指導のお陰で特にゲガもしなくて済みました。

初めてばかりの慣れない環境で何のストレスもなくソフトボールが出来たのは私達の事を色々考えてサポートしてくれたスタッフの方々のお陰です。ありがとうございました。陰ながら支えてくれた両親にも感謝の気持ちを伝えたいです。

全日本大学男子選抜第一次強化合宿

神戸学院大学3回生 奥田 拓海

今回は大学の日本代表選手として選んでいただき、とてもレベルの高いチームで世界の有名な選手たちと渡り合うことができ、とても貴重な体験

ができました。

初めての日本代表としてとても緊張やプレッシャーを感じていて、不安がありましたが、いざチームのメンバーと合流をすると、それを感じさせず吹き飛ばすほどのメンバーでとても安心でき、また素晴らしいプレーの数々を目の当たりにして、落ち着いた状況で試合に臨むことができました。大会が終わり結果は3位でしたが、今回のチームはとても恵まれたいいチームだったと感じました。

このマカッサルオープンで経験できたことを自分に活かして、さらに上のレベルを目指すとともに、自チームにしっかりと伝えてチーム力の向上にも役立たせたいと思います。

そして今回の海外遠征に携わっていただいた日本ソフトボール協会ははじめ全日本大学ソフトボール連盟、帯同していただきましたスタッフの皆様、関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

マカッサルオープンを終えて

福岡大学3回生 実松 悠仁

今大会マカッサルオープンを通してとても良い経験をすることができました。私は海外に行くのもこのような大学選抜チームに選出されることも初めてで今回選出されたことがとても嬉しく多くの事をこの大会を通して吸収しようと思いこの大会に臨みました。全8試合全てに出場させてもらい世界と戦う難しさ日の丸を背負う責任感などソフトボールをしてきてこれまでとは違う感覚、環境で戸惑いも多くありましたが、試合を重ねていくごとに自分の中で楽しみこのチームで勝ちたいという気持ちも強まっていきました。3位という悔しい結果に終わってしまいましたが、海外の選手と渡り合えたこと、他大学の素晴らしい選手たちとプレーできたことは自分にとってかけがえない思い出となり、かつ力ともなりました。私はあと1年大学でプレーをするので、まずこの大会で学んだことをチームに持ち帰り伝え、次はライバルとして会う今大会のメンバーたちの上をインカレで勝てるように努力していきたいと思います。

そして、これからソフトボールをもっと普及していけるように自分で考え行動に移していきたい

と思います。大会期間中にサポートしてくださった方々には感謝しかありません。ありがとうございました。

全日本大学男子選抜海外遠征を経験して

城西大学2回生 島田 真尋

今回の海外遠征で様々な経験を得ることができました。まずは海外特有の環境・気候に慣れることです。必ずしも国際大会というものは日本で行われるわけではないので、海外の環境などに対応していくことも代表選手に求められていくのだと感じました。プレー以前の問題で悩まされるとは思っていませんでした。こういった経験をできることができて、自分自身とてもプラスになりました。

次に外国人のライズボール・ドロップに苦しめられたことです。日本の選手とはドロップの落ち方やライズボールの上がり方が多少違ったことに驚きました。少し曲がりながら落ちるドロップボールや大きく上がるライズボールに対応しきれなかったことがこれからの自分の課題であると感じました。すぐに対応し、チームに貢献することが求められてくると思います。そういった中で常にフルスイングではなく、自分がやらなければならない仕事はどういったことなのか、冷静に場面を理解し分析していくことも大事だということがわかりました。即席のチームだからという所はどの国も一緒なのでそういったところの対応力、チーム力も大事だと思いました。

さらに、周りのサポートをしてくださる方々に感謝の気持ちを忘れないことです。今回の遠征も協会の協力、ヘッドコーチやアシスタントコーチ、トレーナー、通訳、現地の案内人といった方々のサポートあったからこそその遠征だと思います。12日間という長い遠征の中で自分たちに尽くしてもらいとても感謝しています。サポートあつての自分たちはプレーしているのでその気持ちを忘れずに国際大会の限らず感謝しながらプレーしていきたいと感じました。

また、男子ソフトボールをもっと広げていきたいと思いました。まだメジャーなスポーツにはなっていないので、男子ソフトボールの良さを身近

な人に伝え男子ソフトボール人口が多くなる
 と思いました。

マカッサルオープンを振り返って

福岡大学2回生 海邊 和也

二週間という短い間でしたが、柳田ヘッド
 コーチを始めとするスタッフの方々、日本ソフト
 ボール協会の方々にはサポートをしていただき
 ありがとうございました。

今回、大学代表としてインドネシアのマカ
 サルオープンに参加してみて、多くの経験を得
 ることができ自分にとってとてもプラスにな
 りました。自分は選ばれたピッチャーの中
 でも一番多く登板させていただき、気持ち
 の持ちようや、コンディショニングにつ
 いてなど考え直さなければならぬ事など
 が明確になり、貴重な経験になったと
 感じました。

初戦のラキデンデ戦、シンガポール戦で
 先発登板をして、どちらも初回に失点をして
 しまい自分の立ち上がりの弱さが目立っ
 てしまいました。初戦では緩急を使っても
 リーチを使い前で捉えられていたので、
 国内との違いを痛感しました。また、失
 投が多く高さがうまく使えなかった事が
 失点に繋がってしまい、この負けが予選
 の4位通過に繋がり、チームに迷惑を
 かけてしまったと反省しています。

そして、2回目のラキデンデ戦では立ち
 上がりを意識して投球していき、初回は
 しっかりコースに投げる事ができました。
 三回の失点してしまったシーンは今ま
 ではきっちりアウトコースに投げ込んで
 いたところを、勝負球にインコースを選
 択してそれをレフト前に運ばれてしま
 いました。自分の悪い所である、1点取
 られたイニングに簡単に2点、3点と
 簡単に取られてしまい、悪い流れを作
 ってしまいました。あの場面では2点
 で抑えるメンタル面などが必要だと
 感じました。

今回のピッチングを全体的に振り返
 ってみて、今の自分には外国人バッテ
 ーに力で勝負しにいくほどの実力が
 全然ないと感じ、球速アップが必要

だと感じました。また、球速が上がる
 ことで、緩急も使いやすくなり、イン
 コースにも自信を持って投げられる
 と思います。

今まで国内大会では緩急が多く、そ
 れに頼りすぎていたので、今後の具
 体的な課題として球速を5キロ速く
 することを目標にこれから取り組んで
 いきたいと思いました。

そして、この大会に参加するにあ
 たって、スタッフの方々や、様々な関
 係者の方々のサポートがあり試合が
 できたこと改めて感じました。柳田
 ヘッドコーチの話にもあった様に、
 一度日の丸を背負った以上は大学ソフト
 ボールの模範として行動から変えてい
 かなければいけないと思いました。自
 分達がソフトボールを盛り上げてい
 けるように、いろいろな大学での活
 動を行い、国内大会などから頑張り
 たいと思います。また、このような舞
 台にもう一度参加できるチャンスが
 あれば今回のような悔しい結果にな
 らないように頑張ります。

マカッサルオープンを振り返って

立命館大学2回生 佐藤 夏己

今回、全日本大学男子選抜として海
 外遠征に参加させて頂き、とても良い
 経験を得ることが出来ました。相手チ
 ムには世界選手権での優勝を経験し
 ている選手や世界トップレベルの選
 手もあり、非常に貴重な機会となり
 ました。

普段はライバルである強豪大学の選
 手たちとひとつチームになり、プレー
 したことで自分のソフトボールにお
 ける視野、考え方が広がりました。
 この遠征で培ったものをチームに持
 ち帰り、さらに良いものにしてけれ
 ばと思います。また、チームだけ
 ではなく、所属する関西リーグの選
 手たちにも良い刺激を与えられる選
 手を目指していこうと思います。

最後に、私たちがプレーに集中でき
 るように最高のサポートをしてくだ
 さったスタッフやソフトボール協会
 の方々への感謝を忘れずに来年、再
 来年の大会に向けて精進していきます。

文部科学大臣杯第54回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：令和元年9月5日(木)～9月8日(日)

会場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

大会概要

日体大 貫禄の3連覇!!

大会記録長：芦澤 忠

本大会は、(公財)日本ソフトボール協会・富山県ソフトボール協会創立70周年記念、また「拠点化事業」として富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で「5年間」開催されることとなった。

開会式は前年度優勝・日本体育大、準優勝早稲田大をはじめ、全国の予選を勝ち抜いた合計32チームが富山市民球場（アルペンスタジアム）に集い、福井大・鈴木将矢主将の選手宣誓によって一気に盛り上がりを見せた。

また、開会式終了後は大学生で唯一「男子TOP日本代表」に選出され、「世界男子選手権準優勝」に貢献した日本体育大・小山玲央投手に全日本大学ソフトボール連盟・中野会長より表彰状が授与された。

大会は最終日まで「猛暑」が続いたが、チーム・関係者・観客が一体となって会場を盛り上げ、接戦を展開。会場の4球場の内2球場には「スタンド席」設けられ、その2球場の1回戦から決勝戦まで「全17試合」が動画で「LIVE配信」される等、開催地が様々な形で大会のPRに務めていた。

準決勝戦には昨年の覇者・日本体育大、準優勝の早稲田大が順当に勝ち上がり、虎視眈々端と王座を狙う福岡大と環太平洋大も名乗りを上げた。しかし、西の両校は一步及ばず、決勝戦は昨年と同じ、東の両雄の対決となった。結果、日本体育大は、2番倉見の2点本塁打などで3点を挙げ、投げては投手小山が自らのワイルドピッチで1点を失ったものの、10奪三振で完投勝利を収め、堂々の「3連覇」を成し遂げた。

なお特筆すべき記録としては、畠尚吾(大阪大)、上田郁也(日本体育大)、澤優輝(早稲田大)の各選手が「満塁本塁打」を記録した。

大会講評

令和の初代王者は3連覇の日本体育大学

北信越地区常任理事：岩間 英明

今年は大学ソフトボール聖地化の初年度でもあり、同時に、『令和』新時代の幕開けでもあった。全国各地を勝ち抜いた32チームの熱戦が繰り上げられる大学男子ソフトボールの聖地に選ばれたのは、立山連峰を望む富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール場である。男子規格の4面を備え、今年は観客席も新設されたインカレ会場に相応しい環境の中で、栄冠を勝ち得たのは日本体育大学であった。3連覇を果たした日本体育大学は層の厚い投手力、安定した守備力、勝負強い攻撃力をいかんなく発揮し、決勝までの5試合を28得点、失点はわずか2と、昨年度全日本総合選手権優勝のまさに王者と呼ぶに相応しい戦いぶりであった。

準優勝は地区大会から覇権を競ってきた早稲田大学であった。決勝戦は最終回に1点を奪う粘りを見せたものの、昨年に引き続き日本体育大学のまえに屈する結果となった。また、個人賞には「最優秀選手賞：上田郁也（日本体育大学）」「優秀投手賞：小山玲央（日本体育大学）」「優秀打撃賞：川上卓也（早稲田大学）」がそれぞれ選ばれた。

他にも早稲田大学を土壇場まで追い詰めた福岡大学。日本体育大学と互角の勝負を展開した環太平洋大学。防御率第2位の高橋直暉投手を中心にベスト8に進出した大阪大学。初陣を飾った広島国際大学、諏訪東京理科大学、東京国際大学のフレッシュな戦いぶりなども目を引いた。

インターネットを使った試合のLIVE配信や、SNSによる試合経過の報告など、新しい試みに挑戦した大会でもあり、これからの5年間、富山で男子ソフトボールのさらなる盛り上げを期待させる大会であった。

文部科学大臣杯第53回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

	9月6日(金)	9月7日(土)	9月8日(日)	
1. 日本体育大学(54)	4	10		
2. 立命館大学(37)	0	8		
3. 中央大学(30)	5	0	3	
4. 大阪府立大学(4)	0			
5. 東京学芸大学(9)	0	0	1	
6. 中京大学(49)	10	11		
7. 日本福祉大学(8)	3	2		
8. 高知工科大学(7)	2	8		
9. 環太平洋大学(13)	14	3	0	3
10. 仙台大学(28)	2	5		
11. 九州産業大学(16)	1	0		
12. 京都産業大学(41)	5	0		
13. 中京学院大学(16)	1	0		
14. 国際武道大学(25)	12	2		
15. 大阪大学(2)	11	1		
16. 福井大学(2)	1	16		
17. 福岡大学(44)	5	4		
18. 国士舘大学(54)	0	9		
19. 九州共立大学(6)	6	3		
20. 北海道大学(5)	5	10		
21. 広島国際学院大学(初)	5	1		
22. 龍谷大学(7)	4	6		
23. 岡山大学(11)	2	0		
24. 城西大学(24)	5	9		
25. 関西大学(43)	7	6		
26. 諏訪東京理科大学(初)	0	0		
27. 熊本学園大学(31)	9	0		
28. 東京国際大学(初)	0	5		
29. 岐阜聖徳学園大学(11)	8	0		
30. 東海大学(45)	7	9		
31. 神戸学院大学(29)	1	12		
32. 早稲田大学(54)	6			

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼1回戦（9月6日）

日本体育大学 0 1 1 0 0 0 2 : 4
立命館大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[日] ○小山 玲央ー上田 郁也

(三)倉見 育瑠・京谷 優吾

(二)調 和政・上田 郁也

[立] ●佐藤 夏己ー成房 龍樹

【評】日本体育大学 連覇に向け好発進

日本体育大は2回表に濱田の右前適時打で1点を先制した。続く3回には右中間三塁打で出塁した倉見を主砲上田が左前に弾き返して迎え入れ2点目を挙げた。回も詰まった7回表には上田の右越え二塁打を足掛かりに主将京谷の三塁打などでダメ押しの2点を加えた。投げては主戦小山が散発2安打11奪三振で完封した。

敗れた立命館大は終盤6回にこの回先頭の山本が安打で出塁し、内野ゴロの間に二塁に進み反撃を試みたが牽制死となり好機をつぶした。

大阪府立大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
中央大学 0 0 2 0 3 0 x : 5

[大] ●濱口 巧ー松井 孝太

[中] ○歳川 幹大ー大川 智

(三)石田 直己・道祖土拓真

(二)西村 健佑・大川 智

【評】中央大学歳川投手が2安打完封

中央大学は3回裏、9番西村が二塁横を破る二塁打で無死二三塁とし、大川の右翼線に適時二塁打で2点を先制した。中盤5回には3番道祖土の右中間を破る2点適時三塁打などで3点を加えた。投げては主戦歳川が2安打8奪三振と好投し、大阪府立大学を完封した。

一方敗れた大阪府立大学は、2点を追う4回表に2安打と失策で二死満塁の好機を掴んだが、後続が倒れ追いつくことができなかった。

中京大学 3 2 0 0 5 : 10
東京学芸大学 0 0 0 0 0 : 0

[中] ○久本 廉ー湯浅彰一郎

(三)菊川 智己・清水 公貴

(二)久本 廉

[東] ●鈴木 智也・伊東 航平ー木村 優斗

(三)龍尾二千翔

【評】中京大学 投打に圧倒コールド勝ち

中京大学は制球の定まらない相手投手を攻め、菊川の左越え三塁打と3四球2暴投などで3点を先取した。続く2回に8番清水が左中間三塁打で出塁したが内野ゴロで本塁憤死し追加点の好機をつぶしたかに見えたが、石川が内野安打で続き二死二三塁の好機に久本が右中間を破る適時二塁打を放ち2点を追加した。5回にも3安打3四球で5点を加え圧勝した。

敗れた東京学芸大学は3回裏にこの回先頭の8番龍尾が右中間に三塁打するも後続が続かなかった。

高知工科大学 2 0 0 0 0 0 0 : 2
日本福祉大学 1 0 1 0 0 1 x : 3

[高] ●大上 涼ー三原 康之

(本)大上 涼

(三)西 大貴

(二)宮崎 翔大

[日] ○藤原 智徳ー寺地 宏平

(三)森 勇垂

【評】日本福祉大学 逆転で初戦突破

日本福祉大学は同点で迎えた6回裏に、死球と安打の二死一二塁から重盗を仕掛け、これが捕手の三塁への悪送球を誘い貴重な1点を挙げ勝ち越した。投げては大上投手が走者を出すものの粘り強い投球で逃げ切った。

一方敗れた高知工科大学は、1回裏に主砲大上の中越え本塁打で2点を先制し、4回には9番西が右翼線に三塁打放ち好機を掴んだが、後続が打ち取られ勝ち越すことができなかった。

環太平洋大学 2 4 3 5 : 14
仙 台 大 学 1 1 0 0 : 2

[環] ○糸数昌太郎・上田 悠生ー長谷川敬広・

宮平 大空

(本)小原 孝太・吉井 佑樹・三澤 孝平

[仙] 大西将太郎・●森川慎太郎・原田 隆成－
佐藤 聖将・佐藤 翔

(二)佐々木一樹

【評】環太平洋大学 毎回得点で仙台大学を圧倒

環太平洋大学は、一回二死三塁で4番小原の右超2点本塁打で先制、2回と3回にも得点を重ね7点差で迎えた4回にも、共に代打の吉井と平盛の2点本塁打などで加点し試合を決めた。2番手投手の上田が、仙台大学の打線を0点に抑えた。

仙台大学は、毎回先頭打者が出塁するが、後続が打ち取られ2点を奪うに留まり涙をのんだ。

九州産業大学0100000 : 1

京都産業大学103100x : 5

[九] ●瓦口 昂弥・池上 紘生－吉田 尚史

(本)吉田 尚史

[京] ○北村 優斗・山根 一起－永田 佳己

(二)八木 理基・若林 峻太

【評】京都産業大学 中盤に突き放す

京都産業大学は、同点で迎えた3回二死一二塁で八木が左超の適時二塁打で2点先行、さらに1点を追加し試合の主導権握る。投げて先発の北村は、4番の吉田に本塁打を浴びるがその後は継投の山根と共に打線をよく抑え勝利した。

九州産業大学は、4回以降は、最少失点に抑え味方の援護を待ったが、京都産業大学両投手の好投に反撃の糸口が見いだせず苦杯をなめることになった。

国際武道大学400215 : 12

中京学院大学100000 : 1

[国] ○柴田 将希・羽鳥淳之介－西浦 龍

(本)西浦 龍

(三)鈴木 涼太・中瀬 将輝

(二)重川 葵・蔵野 亘

[中] 建沼 理久・●寶田 優斗・星出 和哉－

森 紀世彦

(本)池端 謙太

(三)松本 三汰

【評】国際武道大学 2桁安打2桁得点で圧勝

国際武道大学は、1回5番鈴木の2点適時三塁打などで4点先制。4回5回の好機にもそつなく攻め3点追加、更に6回にも8番西浦の2点本塁打などで一挙5点を奪い試合を決めた。投げて柴田・羽鳥が1回の1失点に抑え勝利に貢献した。

中京学院大学は、1回1番池淵の中超本塁打で反撃の狼煙を上げたかに見えたが、後続が抑え込まれ残念ながら勝利に手が届かなかった。

福井大学0001 : 1

大阪大学821x : 11

[福] ●坂倉 響・飯田 晶哉－谷口 稜弥

[大] ○高橋 直暉・家永 凌牙－畠 尚吾

(本)近藤 輝一・畠 尚吾

(三)松村 崇之

【評】大阪大学 満塁本塁打を含む打者一巡の猛攻で圧勝

大阪大学は、4番近藤の2点本塁打で先制、制球に苦しむ高橋から1番の畑が満塁本塁打を放ちこの回一挙8点で主導権を握る、更に2回、3回にも合わせて3点を追加し圧倒的な力の差を見せつけ勝利した。

福井大学は、4回に1点を還したものの2安打に抑え込まれ追加点には至らなかった。

福岡大学3110000 : 5

国士舘大学0000000 : 0

[福] ○海邊 和也－沢村 洋

(本)綾戸 康祐

[国] ●揚村 大誠－星 直輝

【評】福岡大学 序盤のリードを守り快勝

福岡大学は、1回二死から守備の乱れを誘い1点先取、更に二三塁に走者を置いて堀内の適時打で2点追加し試合の流れを引き寄せた。2回と3回にも2点加点した。海邊投手は、4安打8奪三振で完封し勝利へと導いた。

国士舘大学は、4回に亀田と星の安打で好機を作ったがあと1本が出なかった。

北海道大学3000002 : 5

九州共立大学0010104 : 6

〔北〕佐藤雄太郎・樋口 宏介・●佐藤雄太郎－
今野 貴大

(本)河合 諒也②

(三)佐藤雄太郎

〔九〕○中野 拓人－藤野 莉希也

(二)平田 隼暉

【評】九州共立大学は接戦を制し2回戦進出

九州共立大学は、1回に3点先制されるも3回と5回に1点ずつを返し1点差で迎えた6回先頭の平田の二塁打を皮切りに妙見の中前2点適時打などで4点を奪い逆転した。7回の反撃をしのぎ、逃げ切った。

北海道大学は、1回4番河合の3点本塁打で主導権を掴んだに見えたが、逆転を許してしまった。7回4番河合のこの日2本目の本塁打で2点を返し1点差に詰め寄るが、あと1歩及ばなかった。

広島国際学院大学20020001:5

龍谷大学10102000:4

〔広〕○権東 航太－西本健太郎・賀見 優太

(三)三原 知樹

(二)折出 蓮

〔龍〕●山田 大樹－原野 智矢

芝 聖

(三)寺田 拓矢

(二)平迫 奎吾

【評】広島国際学院大学延長戦を制する

広島国際学院大学は、日没の為照明設備のある球場へ移動し仕切りなおした延長の8回二死後5番大江の三遊間を抜ける適時打で決勝の1点を挙げ、裏の攻撃を好守で退け勝利した。

龍谷大学は、2度も先行されたが、しぶとく追いつき延長に持ち込んだが、スクイズを阻まれ得点を挙げる事が出来ず涙をのんだ。

城西大学1021100:5

岡山大学0002000:2

〔城〕○高橋 陸－小林 凌也

〔岡〕●青江 悠太－中村 亮太

【評】城西大学 着実に加点し1回戦突破

城西大学は1回二死から4番原の適時打で先制、島田と渡辺の適時打で2点追加、4回と5回にも1点づつを追加し、勝利を手にする。投手の高橋は、13奪三振で2失点に抑え2回戦進出を決めた。

岡山大学は、4回二死から7番平山の左横を抜く2点適時打で2点を返し反撃開始と思われたが後続を城西大学の高橋投手に押さえ込まれ勝利には届かなかった。

諏訪東京理科大学000000:0

関西大学023101x:7

〔諏〕●中島 龍希－小松 優貴

(二)小松 優貴

〔関〕○杉本 優太－鈴木 隆弘

(本)高濱 友裕

(二)中岸 健登

【評】関西大学 6回コールドゲームで2回戦へ

関西大学は、2回に2点を先制し続く2回には5番高濱の3点本塁打で加点、4回と6回にも加点し勝利を手に入れた。杉本投手は4安打に抑え完封した。

諏訪東京理科大学は、2回に4番小松の中越二塁打を足掛りに掴んだ無死一二塁の好機に後続を絶たれ無得点、攻撃の波に乗ることができず、初出場初勝利を逃した。

東京国際大学00000:0

熊本学園大学0540x:9

〔東〕●浅野 宏幸・松林 純平－佃 将太郎

〔熊〕○松永 総司・廣瀬 慶大－村上 隆生

(二)小橋 海斗・山田 祥也

【評】熊本学園大学 5回コールドゲームで1回戦突破

熊本学園大学は、2回表6番房田の死球を足掛りに一死満塁の好機をつかみ、迎えた1番廣瀬の中堅への犠飛で先制、その後制球に苦しむ浅野から5点を加え試合の流れを決定付けた。

一方、東京国際大学は毎回のようには走者を出すものの、後続が絶たれ得点に結びつけることができなかったが、ベンチからの大きな声援は、幾度

となくピンチを迎えたナインを元気づけていた。

岐阜聖徳学園大学 1 6 0 0 0 1 0 : 8
東海大学 0 0 0 4 3 0 0 : 7

[岐] ○山河 洋平－菊野 大輔

(三)松本 健汰

(二)奥村 康平②・松本 健汰

[東] ●三本杉知輝・妻木 聡汰－吉江 元希

(本)小藤 涼

(三)五十子祿晃

(二)五十子祿晃・吉江 元希

【評】岐阜聖徳学園大学 接戦を制し2回戦進出

岐阜聖徳学園大学は、先頭の奥村の三塁打などで2回までに7点をリードしたが、5回に同点とされた。6回一死後8番奥村の適時二塁打で勝越し点を挙げ勝利に手をかけた。

東海大学は7点を追う4回8番小藤の3点本塁等で4点還す、5回にも五十子の適時三塁打と良江の適時打で同点に追いつくが、勝ち越すことはできなかった。7回にも二死二塁と攻めるが後が続かず勝利に手が届かなかった。

神戸学院大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1
早稲田大学 0 0 0 4 0 2 x : 6

[神] ●奥田 拓海・内海 慈音－久田 莉也

(本)大垣竜一朗

[早] ○山内 壮起－澤 優輝

(本)川上 卓也・石井 智尋

(三)澤 優輝

(二)石井 智尋

【評】早稲田大学 中盤見事な集中打で順当勝ち

早稲田大学は、4回3番川上の2点本塁打で待望の先制点、続く4番石井の本塁打と8番澤の適時三塁打で2点追加し、主導権を掴む。6回にもダメ押しとなる2点を奪い勝利を決定付けた。山内投手は1失点を喫するものの2安打9奪三振と押さえ込み圧勝となった。

神戸学院大学は、大垣の本塁打で一矢を報いるが、好投手山内攻略の糸口が見つけられず涙を飲んだ。

▼2回戦（9月7日）

中央大学 0 0 0 0 0 0 : 0
日本体育大学 0 0 0 5 0 5x : 10

[中] ●歳川 幹大－大川 智

[日] ○豊本 翔貴・福地 廉－上田 郁也

(本)上田 郁也

(二)上田 郁也・田中 亨昂・調 和政・

小山 玲央

【評】日本体育大学、上田の満塁本塁打でコールド勝ち

日本体育大学は、4回上田の内野安打を皮切りに調・小山の連続二塁打さらに犠飛と安打でたたみかけ、この回5点を奪い主導権を掴む。6回にも着実に加点し4番上田の2点本塁打でとどめを刺し完勝した。豊本・福地の両投手は10奪三振で完封リレーを演じた。

中央大学は、3回までを無失点に抑え熱投する歳川投手を打撃陣が援護することができず、孤軍奮闘させることになった。

日本福祉大学 0 0 0 1 1 0 : 4
中京大学 0 0 0 0 0 : 0

[日] ○藤原 智徳－戸梶 椋太

(本)松山 和貴

(三)吉川 泰史・井上 弥

(二)戸梶 椋太

[中] ●守屋ダニエル・久本 廉－湯浅彰一郎

【評】日本福祉大学 終盤5回に打者一巡で大勝

日本福祉大学は、5回連続安打で掴んだ無死一三塁の好機に1番松山が高めの球を強振し右越3点本塁打を放ち猛攻の口火を切った。以後も着実に加点し、2番井上が三塁打を放ち勝利を決定付けた。投げては藤原が無安打に抑え完封した。

中京大学は、ダニエルが抑えている間に得点することができず、試合の流れを掴むことができず敗戦となった。

環太平洋大学 2 0 0 2 0 0 4 : 8
京都産業大学 0 0 0 1 0 0 4 : 5

[環] ○萩原僚太郎・井上裕太郎－長谷川敬広

(本)吉永 文太

(三)桑村 晃輔

(二)小原 孝太②・島尻三志郎・黒岩 陽斗
[京] ●北村 優斗・山根 一起ー永田 佳己

(二)若林 峻太

【評】環太平洋大学 終盤に貴重な追加点

環太平洋大学は、1回表主軸の適時打で2点を先制。4回には桑村の左翼越の三塁打で2点追加、7回にも吉永の3点本塁打と小原の二塁打で4点を加点しダメ押しとした。

京都産業大学は、4回裏松浦の投手への痛烈な強襲安打で1点を還す。7回には田中の右翼への飛球の方向が良く適時二塁打となった。その後相手守備の乱れを誘い3点差まで詰め寄ったが届かなかった。

国際武道大学00000000:0

大阪大学000101x:2

[国] 柴田 将希・●羽鳥淳之介ー西浦 龍

(二)菅 守継

[大] ○高橋 直暉一畠 尚吾

(三)近藤 輝一

【評】大阪大学 高橋投手4安打完封

大阪大学は、4回裏二死満塁の好機にDP阪路が四球を選び先制した。6回には5番近藤が中堅越三塁打で出塁すると松村の左前適時打で追加点を挙げ試合を引き寄せた。

国際武道大学は再三の好機に決定打が出ず惜敗。

福岡大学505321:16

九州共立大学023040:9

[福] 廣藤 健徳・○坂本 智椰・海邊 和也ー
沢村 洋

(本)綾戸 康祐・牛島 康介・堀内 章吾

(三)牛島 康介・高尾 浩輔・綾戸 康祐・
本田 敦也

(二)沢村 洋

[九] ●田中 太理・中野 拓人ー妙見 拓海・
藤野 莉希也

(二)栗田 龍馬

【評】九州勢対決 福岡大学に軍配

福岡大学は1回表綾戸の先頭打者本塁打、5番牛島の三塁打などで一挙5点を先制、さらに本塁打2本と三塁打3本などの猛攻により、勝利を決定付けた。

九州共立大学も反撃をするものの福岡大学の長打力に圧倒され敗退した。

城西大学0200503:10

広島国際学院大学2000010:3

[城] ○工藤 駿ー小林 凌也

(本)原 圭汰

(三)萩原 捷仁

(二)渡辺 暢

[広] ●権東 航太ー西本健太郎

(三)大谷 俊介

【評】城西大学 中盤の猛攻で一気に逆転勝利

2点を先制された城西大は、直後の2回表に一死二三塁から7番DP後藤の適時二塁打で追いつき、5回には5番萩原の2点適時三塁打など打者一巡の猛攻で5点をリードした。7回にも4番原の3点本塁打でダメを押して快勝した。

一方、広島国際学院大は先制し6本の長単打を放つも3併殺でチャンスを有効に生かせず、1点を返したのみで敗れ去った。

熊本学園大学00000000:0

関西大学300111x:6

[熊] ●松永 総司・廣瀬 慶大・松永 総司ー
村上 隆生

(二)小橋 海斗

[関] ○辰巳 大樹・杉本 優太ー鈴木 隆弘

(三)吉野 翔太

(二)鈴木 隆弘

【評】関西大学 投打がかみ合い完封勝利

関西大学は、1回裏DP吉野の適時二塁打と尾崎の適時打などで3点先取。4回以降も着実に得点を重ね準々決勝戦へ駒を進めた。

熊本学園大学は辰巳・杉本の両投手に散発3安打に抑えられて三塁を踏めず、完封された。

早稲田大学 04143 : 12
岐阜聖徳学園大学 00000 : 0

[早] 山内 壮起・○松下 直矢一澤 優輝

(本)澤 優輝②

(二)澤 優輝・石井 智尋

[岐] ●山河 洋平・菊野 大輔

(二)松本 健汰

【評】早稲田大学 澤の満塁本塁打などの猛攻で
準々決勝進出！

早稲田大学は、2回表8番澤の満塁本塁打で流れを引き込み、以降猛打で毎回得点し圧勝した。澤は3打数3安打5打点2本塁打と大暴れし勝利に大きく貢献した。投げても山内・松下散発2安打に抑える完封リレーを披露した。

岐阜聖徳学園大学は、1番松本が2安打と孤軍奮闘するが後続が続かず完敗となった。

▼準々決勝戦（9月7日）

日本福祉大学 100000 : 1
日本体育大学 100025x : 8

[福] ●佐々本開斗・藤原 智徳・ 佐々本開斗
一寺地 宏平・戸梶 椋太

[体] ○岡部 樹滉・酒井 匠一上田 郁也

(三)田中 亨昂

(二)関 亘・濱田 慎・京谷 優吾

【評】日本体育大学 終盤に大量点でコールド
勝ち

日本体育大学は、1回に4番上田の技ありの同点打で追いつき、5回裏には二塁打の9番関を続々田中が右翼フェンス直撃の三塁打で迎え入れ均衡を破る。6回にも大量5点を奪い大勝した。

一方日本福祉大学は、3番寺地の適時打で1点先制するも、その後は日体大投手陣に押さえ込まれ追加点が奪えず苦杯をなめることになった。

環太平洋大学 0000120 : 3
大阪大学 0000000 : 0

[環] ○萩原僚太郎・糸数昌太郎一宮平 大空

(本)昆野 智之

(三)轉法輪侑孝

[大] ●高橋 直暉一畠 尚吾

【評】環太平洋大学 完封リレーで準決勝進出

環太平洋大学は、5回表一死一塁で9番轉法輪の三塁打で待望の先取点を挙げる。6回には今野が中堅手の上を大きく越える2点本塁打で試合を決めた。

大阪大学は、6奪三振と粘りの投球をみせる高橋投手を打撃陣が援護することができず惜敗した。

城西大学 0000100 : 1
福岡大学 200002x : 4

[城] ●高橋 陸一小林 凌也

(本)原 圭汰

[福] ○海邊 和也一沢村 洋

(本)実松 悠仁・堀内 章吾

【評】福岡大学 本塁打2本で準決勝進出

福岡大学は、1回裏4番実松の右中間への2点本塁打で先制する。6回にもD P堀内の左越2点本塁打でダメ押し、投げては海邊が1失点するものの10奪三振と好投し勝利を掴んだ。

城西大学は、5回表4番原が中越本塁打で1点を還すが反撃はここまで、海邊投手を打ち崩すことは出来なかった。

双方に好守備があり見応えのある戦いだった。

関西大学 3011100 : 6
早稲田大学 202032x : 9

[関] 辰巳 大樹・●杉本 優太・辰巳 大樹一
鈴木 隆弘

(二)高濱 友裕

[早] ○山内 壮起・松下 直矢一澤 優輝

(本)川上 卓也

(三)川上 卓也

(二)石井 智尋

【評】早稲田大学 終盤に逆転し準決勝進出

早稲田大学は、2点差を追う5回裏3本の適時打で勝ち越すと6回にも今日4安打の川上の三塁打を皮切りに2点を加点し勝利を決定付けた。

関西大学は、1回表1番栗井の出塁を足掛りに鈴木、高濱の適時打で3点を先制、同点に追いつかれるとすぐに逆転するなど真っ向から打撃戦を

演じたが6回から登板の松下に抑えられ再逆転が
かなわず涙を飲んだ。

▼準決勝戦（9月8日）

日本体育大学 2 0 0 1 0 0 0 : 1
環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[日] ○豊本 翔貴・岡部 樹晃ー上田 郁也
(三)濱田 慎
(二)上田 郁也

[環] ●萩原僚太郎・井上裕太郎ー宮平 大空

【評】日本体育大学 完封リレーで決勝へ

日本体育大学は、1回表相手投手の立ち上がりの
乱れに乘じ一死一二塁で4番上田が右中間へ弾
き返し2点を先制。4回にも8番濱田の適時三塁
打で加点し試合を決めた。

環太平洋大学は、1回裏一死一三塁と絶好の好
機を掴むも、後続を絶たれ得点できず、3年ぶり
となる決勝進出を逃がした。

福岡大学 0 0 0 0 2 2 0 : 4
早稲田大学 3 0 0 1 0 0 1 x : 5

[福] ●海邊 和也ー沢村 洋
[早] 山内 壮起・松下 直矢・○山内 壮起ー
澤 優輝
(本)澤 優輝・川上 卓也
(三)織部 雅之

【評】早稲田大学 サヨナラホームランで決勝
へ！

早稲田大学は、1回裏1番吉原のバント安打か
らの3連打で3点を奪い有利に試合を進めたが、
6回までに同点に追いつかれた。7回裏この回先
頭の3番川上が右中間を超える本塁打を放ちサヨ
ナラ勝ち。

福岡大学は、6回までに4点差を追いつくがも
う一步及ばず決勝進出を逃した。

▼決勝戦（9月8日）

早稲田大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
日本体育大学 0 0 0 2 1 0 x : 3

[早] ●山内 壮起・松下 直矢ー澤 優輝

[日] ○小山 玲央ー上田 郁也
(本)倉見 育瑠

【評】日本体育大学 小山の好投で3連覇

日本体育大学は、山内投手の好投に無得点で進
んだ4回裏、2番倉見の中堅越2点本塁打で待望
の先取点を奪う。5回にも京谷の適時打で1点追
加し試合を決めた。小山投手は、7回に1点を献
上したものの、10奪三振と力投しチームの優勝に
貢献した。

早稲田大学は、6回まで相手投手攻略の糸口を
見いだせず得点することができなかった、7回表
高橋・梶谷が連続安打で出塁し、小山投手の暴投
で1点をもらうが後続が絶たれ優勝に手が届かな
かった。

小山・山内両投手の投手戦は見応えがあった。

個人表彰 最優秀選手賞：上田 郁也（日本体育大学）
優秀投手賞：小山 玲央（日本体育大学）
優秀打撃賞：川上 卓也（早稲田大学）

日 本 一 を 目 指 し て

日本体育大学男子ソフトボール部主将 京 谷 優 吾

新チームの始まりは、まとまりがなく、とてもインカレ三連覇を果たせるようなチームではありませんでした。昨年のインカレ連覇、全日本総合優勝を成し遂げたメンバーから4年生が抜け、ほとんど白紙の状態からチームが始動しました。まとまりがなかったのは、昨年のチームのように強くないと、という焦りからきた空回りが原因だったのだとそのときを振り返ると思います。このままではインカレ三連覇はもちろん、全日本総合連覇など到底不可能だと感じた私は、どのようなチームにするのか、どうすれば勝てるのか、チームがまとまるのかを話し合いを重ねました。まずは、今年のチームの強みは豊富な投手陣です。小山を筆頭に安定した投球が持ち味の豊本、スピードのある酒井、左打者に強い岡部の四人の投手から3点以上取られることがあまりないので、常に想定外のプレーを想定し、簡単には得点させない攻撃的な守備を徹底しました。攻撃面では、送りバントをはじめエンドラン、スクイズ、盗塁といった脚を絡めたり、確実に得点圏でのチャンスを得点につなげることを意識しました。

また、春から監督が変わり新体制になることからチーム力の向上を例年以上に徹底してきました。今年のチームカラーを全面に出し、ワンプレーを大切にし、試合に出られないメンバー、支えてく

れる同級生やマネージャーの為にという思いを大切にし、チーム全体で取り組むことで私たちなりの強いチームを作り昨年とは違った新しい強いチームを目指した結果、新チーム当初にあった空回りがなくなりました。

辛い冬をチームで乗り越え、一つにまとまり掴んだインカレ三連覇という景色は、昨年見た日本一の景色とはまた違った最高なものでした。

応援して下さい方や周りの方からの、インカレ三連覇できるであろうという期待の声が大きなプレッシャーになり苦しいときもありましたが、インカレ三連覇を成した瞬間、全てが報われた気がしました。

こうして私たちがインカレ三連覇を果たすことができたのも、全日本大学連盟の方々をはじめ、富山県ソフトボール協会の方々、ボランティアとして大会の運営をして下さった方々の協力があったからこそなのだと思います。

また、監督コーチをはじめ、支援、応援して下さいOBや保護者の皆様、携わって下さった全ての方々に恩返しができたと思うと強く思います。

私は引退をしてしまいましたが、今年の成果を糧に、来年インカレ四連覇と全日本総合の奪還を後輩に託したいと思います。



男子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

順位	選 手 名	大 学 名	打 席	打 数	安 打	得 点	打 点	犠 打	犠 飛	四 球	死 球	三 振	盗 塁	残 塁	打 妨	出 塁	本 塁 打	三 塁 打	二 塁 打	打 撃 率	試 合 数
1	川上 卓也	早 稲 田	17	17	10	9	8	0	0	0	0	2	1	3	0	10	3	1	0	0.588	5
2	沢村 洋	福 岡	15	12	7	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	10	0	0	1	0.583	4
3	澤 優輝	早 稲 田	16	15	8	4	10	0	0	1	0	3	0	0	0	9	3	1	1	0.533	5
4	倉見 育瑠	日本体育	19	14	7	4	4	2	1	2	0	2	0	5	0	9	1	1	0	0.500	5
4	日高 慶明	福 岡	13	12	6	2	4	0	0	1	0	0	0	4	0	7	0	0	0	0.500	4
6	上田 郁也	日本体育	20	17	8	3	8	0	0	1	2	2	0	2	0	11	1	0	3	0.471	5
7	調 和政	日本体育	18	13	6	1	1	0	0	1	4	1	0	9	0	11	0	0	2	0.462	5
7	綾戸 康祐	福 岡	16	13	6	2	4	0	0	3	0	2	0	6	0	9	2	1	1	0.462	4
9	小原 孝太	環太平洋	14	14	6	3	5	0	0	0	0	0	1	1	0	6	1	0	2	0.429	4
10	牛島 康介	福 岡	14	12	5	3	4	1	0	1	0	2	0	4	0	6	1	1	0	0.417	4

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投数	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	小山 玲央	日本体育	14	50	46	6	1	1	3	1	2	21	0	2	0	171	0.50	2	0	2
2	高橋 直暉	大阪	16	61	56	12	3	3	1	4	0	18	1	0	0	240	1.31	2	1	3
3	海邊 和也	福岡	21	83	78	17	6	6	0	4	1	28	3	1	0	322	2.00	2	1	4
4	萩原僚太郎	環太平洋	13	59	49	12	4	4	2	6	2	15	0	0	0	251	2.15	2	1	3
5	藤原 智徳	日本福祉	13	55	47	12	7	5	4	3	1	9	1	0	0	216	2.69	2	0	3
6	山内 壮起	早稲田	25 2/3	122	106	31	12	11	2	9	5	21	2	4	0	458	5.00	3	1	5
7	高橋 陸	城西	13	53	49	9	6	6	0	4	0	18	2	2	0	216	3.23	1	1	2
8	権東 航太	広島国際	15	73	66	21	14	12	2	2	3	6	1	2	0	256	5.60	1	1	2
9	歳川 幹大	中央	12 1/3	56	48	14	10	10	2	5	1	12	1	0	0	212	5.68	1	1	2
10	山河 洋平	岐阜聖徳	12	66	60	23	19	17	2	4	0	8	3	0	0	230	9.92	1	1	2

全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	3	1	5	4	1	関西大学		1	6
国士舘大学	4		8	7		国際武道大学		1	1
早稲田大学	4		5	7		都留文科大学		1	
中京大学	3		6	7	1	広島修道大学			4
東海大学	2		5	6		九州東海大学			2
立命館大学	2		2	3	1	茨城大学			1
沖縄国際大学	2			2		愛媛大学			1
京都産業大学	1		4	5		愛知大学			1
中京学院大学	1		1	2		大阪体育大学			1
環太平洋大学	1		1	1		山梨学院大学			1
琉球大学	1					龍谷大学			1
福岡大学			4	8	1	九州産業大学			1
高崎経済大学			3	1		熊本学園大学			1
同志社大学			3	1		九州共立大学			1
学習院大学			1	2		高知工科大学			1
神戸学院大学			1	6		城西大学			1

※54回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大

文部科学大臣杯第54回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：令和元年8月29日(木)～9月2(月)

会場：愛知県安城市／総合運動公園ソフトボール場・野球場

大会講評

日本体育大 総合力で連覇!!

大会記録長：本部 亨

1950年の第5回国民体育大会で初めてソフトボール競技が採用された際、開催地となった愛知県安城市。その「歴史」と「伝統」を育んだその安城市を舞台に、本大会は開催された。

全日本大学女子選手権大会は今年度から「5年間継続」して安城市で開催されることが決定されており、地元民の関心・期待も大きく、連日たくさんのソフトボールファンが観戦に訪れた。

開会式では地元・安城学園高校吹奏楽部の演奏に合わせ、同校ダンス部が若さ溢れる躍動した演技を披露。大会の開幕を大いに盛り上げてくれた。

試合に目を向けると開催県・愛知の星城大が1回戦で強豪・東京女子体育大を撃破する等、数多くの熱戦が繰り広げられ、準決勝戦には日本体育大、昨年の雪辱を誓う園田学園女子大、2年ぶりの優勝をめざす環太平洋大、初の栄冠へ燃える金沢学院大の4チームが進出した。

準決勝・日本体育大×環太平洋大戦は、日本体育大が初回に1点を先制し、6回には5連打で大量4点を追加、守っては長谷川・浅井の完封リレーで環太平洋打線を散髪3安打に抑えて「連覇」に「王手」を掛けた。また、同・金沢学院大×園田学園女子大戦は、園田が息詰まる投手戦を先発・秋豆の「二塁を踏ませぬ力投」で昨年に続き決勝へコマを進めた。

決勝戦は昨年と同じ顔合わせとなったが、先手を取ったのは園田。しかし、日体は3回に1点を返して反撃を開始、4回には一死満塁から相手守備の乱れに乗じて3点を挙げて逆転した。群を抜く「選手層の厚さ」を強みに、「総合力」で2年連続20回目の栄冠をつかんだ。

大会概要

女子ソフトの聖地誕生 安城インカレ

東海地区常任理事：二瓶 雄樹

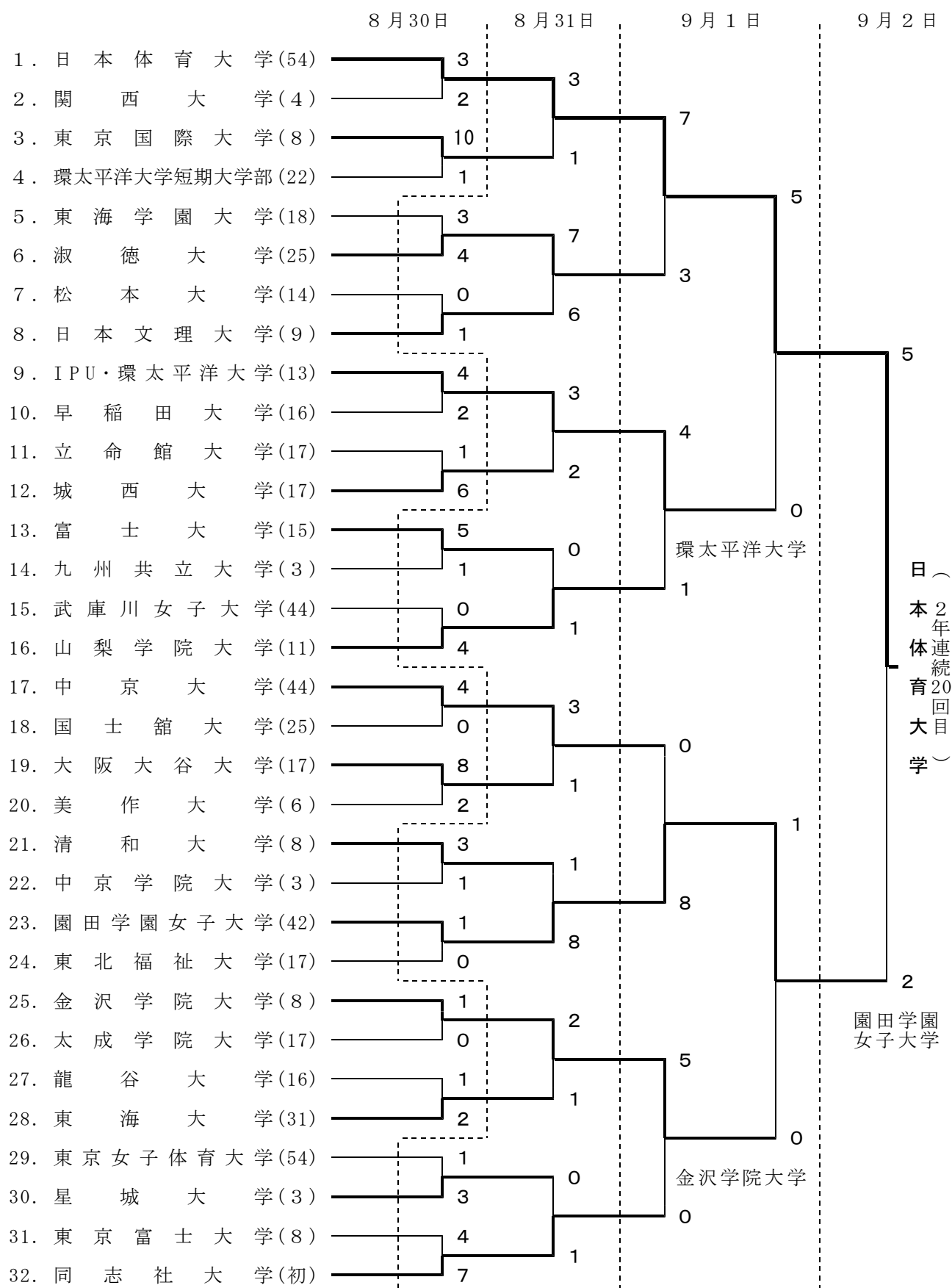
「歴史」と「伝統」を有する安城市において、全日本大学女子ソフトボール選手権大会の聖地化が実現できたことに心から感謝の意を表します。また国内トップレベルのソフトボール場を有した素晴らしい環境のもと、さらに関係各位の御尽力を受け、過去にない感動的な演出の中で選手たちがプレーできたことは、彼女たちの人生のハイライトとなったことに違いありません。

この聖地化事業は、2014年から全日本大学連の強化部会内で認知された、インカレ改革部会で考案された事業の中の一つです。大学女子ソフトボール選手の多くが、この全日本大学選手権を目標に努力し、また最上級生にとってはこの大会をもって現役を引退する、正に集大成となる大会です。その大学女子ソフトボール選手の集大成となる場所に相応しい環境で持続的に全日本選手権を開催することがこの聖地化事業の使命として掲げられました。加えて、その晴れの舞台を多くの人々に見ていただき、ソフトボールの魅力、大学生の渾身とした姿、それらを含めた大学スポーツの面白さを生成することがこの事業のビジョンでした。これらのビジョンと使命を達成するための、最初の一步が無事成功裏に終えたことに関係者の一人として大変嬉しく思います。

「インカレを目指す」から「安城を目指す」となった大学女子ソフトボールが「見るスポーツ」としても確立されるようこれからも多くの方々の支援のもと、より発展させていければと思います。

最後に安城市長の神谷様はじめ、市役所の皆様、そして愛知県と安城市のソフトボール協会の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

文部科学大臣杯第54回全日本大学女子ソフトボール選手権大会



※（ ）内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼1回戦（8月30・31日）

関西大学01001000：2
日本体育大学00001101x：3

〔関〕佐保 知里・●萩森ちひろー日吉 里香

〔日〕中山日菜子・○長谷川鈴夏ー安川 裕美

【評】日本体育大学が8回タイブレーカーでサヨナラ勝ちで初戦突破

日本体育大学は、2点ビハインドの5回裏に、6番安川の安打と7番阿部の死球で得点機を作り9番宮本の安打で1点を返し、さらに6回裏、四球と2本の安打で同点としてタイブレーカーに持ち込んだ。8回裏、タイブレーカーの走者を犠牲バントで進め、続いて投手前スクイズバントにて逆転、サヨナラ勝ちをした。

関西大学は、2回表に3安打で1点を先取。5回表にも1点を入れリードしたが、このリードを守りきれず逆転されて惜しくも敗退した。

環太平洋大学短期大学部00100：1
東京国際大学1054x：10

〔環〕●阿部 優香・浅井 夏海・久保 和咲ー下田 若菜

(二)村岡 香菜

〔東〕尾田 海音・○高鷹秋桜音・上村 夏音ー横山 蒼

(三)中津 日和

(二)中津 日和・仲村 れな・大國 結華

【評】東京国際大学の打撃爆発 コールド勝ち

東京国際大学は、同点に追いつかれた3回裏に2本の二塁打を含む5安打など、打者11人の猛攻で5点を挙げ、さらに4回裏 先頭打者の三塁打を足掛かりに3安打などで4点を追加し、試合を決めた。

環太平洋大学短期大学部は、3回表に 一死二塁から村岡の二塁打で一旦は同点としたが、その後は相手投手に後続を断たれ敗退した。

淑徳大学00010021：4
東海学園大学00101000：3

〔淑〕朝倉 莉奈・○島村 翠ー小澤 陽

(二)衣笠 結芽

〔東〕山田 玲菜・●藤本 恵未ー手島京都美

(二)伊藤梨里花

【評】淑徳大学が接戦を制し、2回戦へ進んだ。

淑徳大学は、2点ビハインドの7回表に、打者8人、二塁打を含む4安打を集中し、2点を入れ同点に追いつき、8回表タイブレーカーの走者を9番馬場の内野安打で返し、勝利を決めた。

東海学園大学は、3回裏に1点を先制しさらに5回裏には2点を追加して優位に試合を進めていたと思われたが、惜しくも逃げ切れなかった。

松本大学00000000：0
日本文理大学000100x：1

〔松〕●水野 愛海・和田 楓花ー寺田 優花・勝井 そら

〔日〕○今村みなみー坂本 彩音

【評】日本文理大学が接戦を制し、二回戦に進出。

日本文理大学は、4回裏安打と犠打で得点機を作り、6番藤田の左前安打で先制した。守っては投手今村が相手打線を散発2安打に抑え、勝利した。

松本大学は、安打と犠打で得点機を2度作ったが、得点するまでには至らず、敗退した。

IPU・環太平洋大学0300001：4
早稲田大学0002000：2

〔環〕○上村 紗輝・後藤明日香ー女鹿田千紘

(二)女鹿田千紘

〔早〕●伊藤貴世美ー川崎 楽舞

(二)廣瀬 夏季

【評】IPU・環太平洋大学 安打数同本も好機を活かして接戦を制す。

IPU・環太平洋大学は2回表、土井が遊撃横の安打で出塁すると、齋藤の連続安打、女鹿田の左越え適時二塁打で2点を先制。試合を優位に進め、7回にも西野の中前安打等から居内の中前適時安打でダメ押し点を得て勝利した。

一方、早稲田大学は4回廣瀬、丹野の連続安打から満塁とし、岡田、古川の適時打にて2点を得

たがその後はあと1本が出ず、好機を逸し涙をのんだ。

城西大学0000303:6
立命館大学0000010:1

〔城〕○松崎 美南・遠藤 光姫・柄澤 里香－
小嶋 楓

(三) 菌部 花実

(二) 黒田 菜那・永野川 彩

〔立〕●本田 明梨－日吉野乃子

【評】城西大学が長打攻勢で快勝した。

城西大学は、4回まで相手投手の前に凡打の山を築いていたが、5回表 藤原の安打を足掛かりに、黒田の左越え二塁打で先制し、さらに連打で2点を追加。7回にも代打永野川の右中間二塁打、菌部の右中間三塁打が出て、勝利を確信する3点を挙げ逃げ切った。

一方の立命館大学は、6回裏、一死二三塁から内野ゴロで1点を得て完封を免れたが、5回、7回と得点圏に走者を進めるも、後1本が出ず敗退となった。

九州共立大学0000010:1
富士大学101003x:5

〔九〕●古賀 千晴・牧元ななみ・古賀 千晴－
寺田 彩香

〔富〕○苅込 千波・上野 寛菜－佐々木夏蓮・
中西 茉季

(二) 根本 歩・宮本明日香・佐々木夏蓮

【評】富士大学が長打を活かし、勝ち進んだ。

富士大学は1回裏、四球の走者を根本の左中間適時二塁打で生還させ先制点を挙げると、3回裏に宮本の右中間二塁打を根本の安打などで追加点を挙げ、試合を優位に進め、6回裏には相手守備の乱れから3点を加点し、試合を決めた。

一方、九州共立大学は、5回まで相手投手の前に凡打の山で、3回表の好機を逃し、6回表安打の走者を何とか還し完封を免れた。

山梨学院大学0040000:4
武庫川女子大学0000000:0

〔山〕○信田 沙南－菊池 朋美

(三) 小林美沙紀

(二) 久保田莉依

〔武〕●久保田菜々香・脇山 朱音－橋本 菜央

【評】山梨学院大学がワンチャンスを活かし快勝。

山梨学院大学は、3回表先頭打者諏訪の左前安打、半田の二塁への内野安打が出て一二塁。一死後小林の右越え三塁打が出て2点を先取しこの回、都合4点を得た。守っても相手の反撃も2安打に抑え逃げ切った。

一方、武庫川女子大学は5回まで安打無く二塁も踏めず。6回裏に橋本、中村(み)の2本の安打で好機を作るも、後続が凡退し完敗。1回戦で涙をのんだ。

国士舘大学0000000:0
中京大学100003x:4

〔国〕●丸山 桃花・穴久保美緒・小島 亜夢－
柴 佑季

〔中〕○丹羽 萌・村田 未幸－安山 涼香

【評】中京大学、6回裏の猛攻で試合を決める。

中京大学は、1回裏に川口、杉本の連続安打にて1点を先制し、6回裏にも走者一二塁から高瀬が左前に安打を放ち、一挙2点を加えそのまま勝利した。

一方、敗れた国士舘大学は塁上を賑わすものの、得点することが出来なかった。

大阪大谷大学1200140:8
美作大学0001010:2

〔大〕○湯川いずみ・兵頭 彩－殿井 綾

(三) 殿井 綾

(二) 森山 春奈

【評】大阪大谷大学がそつなく加点して勝利する。

大阪大谷大学は1回表、2番打者、3番打者の連続安打で出塁し、4番の適時打で1点先制。2回表には、二死から2者が際どい投球を見極め走者一・二塁。続く1番打者の森山が中越えの適時二塁打で2点追加。5回表にも1点。6回表には6番打者の殿井が右翼線への三塁打を筆頭に4安

打などで4点を挙げ勝利した。

美作大学は4回裏に2安打で1点。6回裏にも相手守備の乱れを逃さず、1点を返したが及ばなかった

中京学院大学0000001:1
清和大学020001x:3

[中] ●藤田 朱莉ー小栗茉由子

[清] ○栗屋はづきー初芝満里奈

【評】清和大学 好機を逃さず得点して勝利

清和大学は2回裏、安打と四球の走者を阿蘇の安打と杉山の好走塁で2点先制。6回裏にも安打の鈴木を還して1点を挙げ勝利した。

中京学院大学は、序盤・中盤と相手投手に抑えられていたが、7回表二死から太田の適時打で1点を挙げ、完封を免れるのが精一杯であった。

東北福祉大学00000000:0
園田学園女子大学00000001x:1

[東] ●平田 美誓ー大平 麗

[園] ○秋豆 朱音ー服部 洋代

(二)山口 涼香

【評】園田学園女子大学、延長8回サヨナラ勝ち

両チームとも得点出来ず7回を終了してタイブレーカーに突入。

園田学園女子大学は8回裏、二死から代打山口の左中間への適時二塁打で、タイブレーカーの走者を還して息詰まる投手戦を制した。

東北福祉大学は3回表、二死一三塁の好機を活かせず、その後も好機を得られず惜敗した。

太成学院大学0000000:0
金沢学院大学0000001x:1

[太] ●岡 真里流ー金橋 郁美

[金] ○福田 莉花ー氏丸 陽南

(二)氏丸 陽南

【評】金沢大学が接戦をサヨナラで制して2回戦へ進出。

金沢学院大学は0対0で迎えた7回裏、一死後4番打者の氏丸が中堅への二塁打を放ち、絶好の好機を作り、二死から打者として再出場の長谷部

(光咲)が投手への強襲打、これが適時打となり、サヨナラ勝ちを収めた。

一方、大成学院大学は、1回表二三塁の好機に後続が断たれ、結局2安打完封負けを喫した。

東海大学0100100:2
龍谷大学0001000:1

[東] 是末 清菜・○千葉 仁美・伊東 彩ー

齊藤 結心

(二)澤田 百穂②・横尾 渚

【評】東海大学が接戦を制し、1回戦突破

東海大学は2回表、2本の二塁打で1点を先取、同点で迎えた5回には先頭打者の1番田村の四球と盗塁を足掛かりに、一死三塁から3番最上のスクイズバントで貴重な追加点を挙げ、勝利した。

一方、龍谷大学は相手チーム3人の投手の前に3安打に抑えられ、敗退した。

星城大学0021000:3
東京女子体育大学0000100:1

[星] ○横地 栞一榊原 桜

(二)大塚 初菜

[東] ●久本 美波・佐々木さくらー比護奈保子

(本)古谷 祐花

【評】星城大学 地元で金星!!

星城大学は、3回表4本の安打と犠打などを絡ませ そつなく2点を挙げて試合の主導権を握った。4回表には9番大塚の左中間への二塁打で追加点を入れ 突き放した。

一方、連続54回の出場を誇る東京女子体育大学は、8安打を放つも古谷の本塁打での1点のみで敗退となった。

同志社大学0000700:7
東京富士大学0110101:4

[同] 富岡 奈々・○大須賀まどか・立迫 由樹

ー吉岡 七海・山口 未葵

(二)岩本 成未

[東] ●黒木 美紀・永田 華子ー西山しずく

(二)西山しずく

【評】同志社大学が集中打で逆転勝利、二回戦へ。

同志社大学は、2点を追う5回表一死満塁の好機でのスクイズバントが相手の失策を誘い同点とした。その後も岩本の二塁打や藤井の安打などで大量5点を追加し、逆転勝利。

一方、東京富士大学は、小刻みに得点を重ねて追撃したが、及ばなかった。

▼2回戦（8月31日）

東京国際大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
日本体育大学 0 2 1 0 0 0 x : 3

[東] ●尾田 海音・高鷹秋桜音ー横山 蒼

(二)菊地 香乃

[日] ○長谷川鈴夏・浅井 茉琳ー安川 裕美

(本)安川 裕美

(二)木原菜々子

【評】日本体育大学 有効な長打で勝ち上り

日本体育大学は、2回裏4番木原の右中間への二塁打で出塁すると、6番安川の中越え2点本塁打で先取点を奪った。3回裏にも貴重な1点を加点して勝利した。

東京国際大学も、最終7回表二死一塁の走者を6番菊地の左越え二塁打で還し、反撃を試みたが追いつく事が出来なかった。

日本文理大学 4 1 0 0 0 0 1 : 6

淑徳大学 0 0 0 3 4 0 x : 7

[日] ●吉田 未歩・今村みなみー原口明日香・

坂本 彩音

(二)堀口 佳乃

[淑] 朝倉 莉奈・○島村 翠ー小澤 陽

(二)具路まどか②・椿原 瑠実

【評】淑徳大学が大逆転で勝ち上り

淑徳大学は、4回裏の先頭打者2番都筑の右前安打から6番紺野の適時打、7番代打で打席に立った田中の犠飛などで3点、5回裏にも4本の長短打で4点を挙げ、逆転に成功し逃げ切った。

日本文理大学は、初回の立ち上がりを利用して4点、2回表にも1点を加点し試合を優位に進め、逆転されてからの反撃でも川畑、分藤の安打で1点差まで追いつけたが、わずかに及ばず惜敗した。

城西大学 0 0 0 0 0 0 0 1 1 : 2
IPU・環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 1 2x : 3

[城] ●松崎 美南ー小嶋 楓

[環] ○後藤明日香ー女鹿田千紘

(二)桃原 祐里

【評】環太平洋大学が、9回に逆転サヨナラ勝ち

環太平洋大学は、2回裏に桃原の二塁打、土井の安打などで一死二三塁の好機を迎えたが、あと一歩が及ばず得点が奪えないまま試合は延長のタイブレーカーへ。9回裏、2回に二塁打を放っていた桃原が、左前適時打でタイブレーカー走者を還すと、さらに6番土井、7番小山、8番女鹿田の連続安打でサヨナラ勝ちした。

城西大学も、延長回ではタイブレーカーの走者を確実に還して先行するも相手投手の好投に阻まれ打線が繋がらず、惜しくも敗れた。

富士大学 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 : 0
山梨学院大学 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1x : 1

[富] 井上あやめ・●荻込 千波ー佐々木夏蓮

[山] ○信田 沙南ー菊池 朋美

(二)菊池 朋美

【評】山梨学院大学 延長11回でのサヨナラ勝ちで3回戦進出へ。

両大学共に打線を抑えられ、得点無く勝敗の付かないまま運んだ延長11回裏、一死一二塁で、この回で5回目の打席に立った菊池の放った打球は中堅手を越える二塁打で、これが決勝打となり、ベスト8進出を決めた。

富士大学も 9回表に二死満塁、11回表にも二死一三塁と好機を作ったが、決定打が出ず惜敗した。

中京大学 0 0 0 0 3 0 0 : 3
大阪大谷大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1

[中] 宇野あかね・○村田 未幸ー安山 涼香

[大] ●湯川いずみ・兵頭 彩ー殿井 綾

(二)鈴木友美恵

【評】中京大学ワンチャンスを活かして勝ち上り

中京大学は5回表、二死から8番彦坂が四球を選び、9番安山が二塁手への内野安打。走者一二

選び、9番安山が二塁手への内野安打。走者一二塁から1番佐藤が中前への打球が後逸となり一挙3点を挙げ逆転勝利した。

大阪大谷大学は4回裏、3番山根から3連続安打で先制するものの、その後立ち直った相手投手陣に抑えられた。

清 和 大 学 1 0 0 0 0 : 1
園田学園女子大学 4 0 0 4 x : 8

〔清〕●栗屋はづき・乙川 茉由一初芝満里奈・志賀 彩音

〔園〕三原 千空・〇横谷 瑞希・石田 紅葉一服部 洋代

【評】園田学園女子大学が猛打でコールド勝ち

園田学園女子大学は1回裏、2番下村が左前への安打を足掛かりとし4連続安打し7番横谷の中前安打で一挙4点。4回裏には打者一巡の猛攻で4点を加えコールドにて勝利した。

清和大学は1回表、3安打で1点を先制したが、2人目の相手投手に抑えられ敗退した

東 海 大 学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
金沢学院大学 0 0 1 0 1 0 x : 2

〔東〕●千葉 仁美一齊藤 結心

〔金〕〇田畑 七海・原 茂那・田畑 七海一氏丸 陽南

(三)氏丸 陽南

【評】金沢学院大学、1点差で逃げ切り勝利

金沢学院大学は3回裏、遠藤の安打を足掛かりに一死満塁と攻め、押し出し四球で先制点を挙げた。5回裏にも氏丸の三塁打を足掛かりに1点を追加して勝利した。

一方、東海大学は最終となる7回表に3連打で1点差まで追い上げ、なおも二死満塁としたがあと一步及ばず惜敗した。

同志社大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1
星 城 大 学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔同〕〇前田 優希・富岡 奈々・大須賀まどか一吉岡 七海・塩川満里奈・山口 未葵

(二)岩本 成未

〔星〕●横地 葉一榊原 桜

【評】同志社大学が接戦を制して勝ち上り

同志社大学は6回表、二死一塁から3番岩本の中堅手への打球で一塁走者が一気に本塁を踏み得点。これが決勝点となった。

一方、星城大学は最終となる7回裏に二死一二塁としたが、後続が断たれ敗退した。

▼準々決勝戦（9月1日）

日本体育大学 4 2 0 0 0 0 1 : 7
淑 徳 大 学 0 0 1 0 0 0 2 : 3

〔日〕中山日菜子・〇浅井 茉琳・鎌田 玲菜一安川 裕美

〔環〕●朝倉 莉奈・島村 翠・寺田 愛友・植村 華一小澤 陽

(二)菅原 菜月・小澤 陽

【評】日本体育大学先制攻撃で主導権を握り快勝

日本体育大学は、角野の適時打などで1回表に4点、2回表に2点得点し、試合を有利に進め、7回表にも追加点を挙げ勝利した。

一方、淑徳大学は3回裏にこの回先頭の小澤の二塁打含む3安打で1点。7回裏にも2点を挙げ追い掛けるが勢いは届かず敗退となった

IPU・環太平洋大学 0 2 0 2 0 0 0 : 4
山 梨 学 院 大 学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

〔環〕〇上村 紗輝・後藤明日香一女鹿田千紘

(三)居内 佑加

〔山〕●勝田日菜子・信田 沙南・豊田 彩乃一菊池 朋美

【評】環太平洋大学がそつなく加点し準決勝戦へ

環太平洋大学は2回の表、居内の三塁打を絡め2点を先制した。4回表にも4安打などから2点を追加し、試合の流れをつかみ勝利した。

一方、山梨学院大学は6回裏、これまで攻めあぐねていたが2本の安打を足掛かりに1点を入れて反撃に転ずるが力及ばず敗退となった。

中 京 大 学 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 5 0 3 0 x : 8

〔中〕●西川 沙希・宇野あかね・村田 未幸一

安山 涼香

(二)安山 涼香

[園] ○秋豆 朱音ー服部 洋代

【評】園田学園女子大学が猛打でコールド勝ち

園田学園女子大学は1回裏、無死満塁から下山の左越え本塁打で一挙4点。この回は打者一巡となり都合5点を挙げた。3回裏にも2本の二塁打含め、4安打などから3点を挙げるなどの猛打で攻めて勝利した。

一方、中京大学は、終盤に守山が二塁打を放つも相手投手の前に散発4安打と抑えられ、得点するには至らず苦杯をなめた。

同志社大学00000000:0

金沢学院大学12101x0:5

[同] ●大須賀まどか・富岡 奈々・立迫 由樹
ー吉岡 七海

[金] ○福田 莉花・田畑 七海ー氏丸 陽南

(三)遠藤 滯・加藤 紋奈

(二)浜上 幸

【評】金沢学院大学が小刻みに得点し、準決勝へ

金沢学院大学は1回裏、先頭打者の遠藤の三塁打を犠飛で還し先制。2回裏には加藤の三塁打、3回裏には浜上の二塁打などが得点につながり、得点した回は共に先頭打者を本塁に迎え入れ快勝した。

同志社大学は、走者は出すものの 得点圏に走者を進める事も出来ず敗退した。

▼準決勝戦（9月1日）

日本体育大学1000040:5

環太平洋大学00000000:0

[日] ○長谷川鈴夏・浅井 茉琳ー安川 裕美

(三)須藤麻里子

[金] ●後藤明日香・遠藤 杏樺ー女鹿田千紘

【評】日本体育大学 後半一気の攻めで決勝進出

日本体育大学は1回表に1点先制し、6回表に1番亀田からの5連打と7番須藤の三塁打で一挙に4点を追加し試合を決めた。

一方、環太平洋大学は、1回裏、2回裏と先頭

打者が安打で出塁するも、後続を断たれ敗れた。

金沢学院大学00000000:0

園田学園女子大学000010x:1

[金] ●福田 莉花ー氏丸 陽南

[園] ○秋豆 朱音ー服部 洋代

(二)白石 望美

【評】園田学園女子大学が接戦を制して決勝戦へ

園田学園女子大学は5回裏、代打竹内の安打を足がかりに 二死二三塁の好機に3番加藤が三遊間を抜く適時打を放ち、貴重な1点を挙げ秋豆投手の力投で逃げ切った。

一方、金沢学院大学は 1安打に抑えられて勝機を見い込まずに敗れた。

▼決勝戦（9月2日）

園田学園女子大学11000000:2

日本体育大学001310x:5

[園] ●秋豆 朱音ー服部 洋代

(二)下山 絵理

[日] ○長谷川鈴夏・浅井 茉琳ー安川 裕美

(二)木原菜々子・安川 裕美

【評】日本体育大学 逆転で2年連続20回目の優勝

昨年と同じ組み合わせになった決勝戦。先手を取ったのは先攻の園田。初回、1番下村が左前安打で出塁し、犠打で二進。二死後、4番下山の左翼線への適時二塁打で一気に本塁へ還り、1点を先取すると、2回表にもこの回先頭の山口が中前安打で出塁。次打者の5球目に盗塁を仕掛け、これに敵失が絡んで無死三塁とすると、7番服部の中前適時打で2点目を追加した。

しかし、日体も3回裏に二死二塁から4番木原の左越適時二塁打で1点を返し、反撃開始。4回裏には四死球、内野安打等で一死満塁と攻め立て、ここから三つの敵失で3点を挙げ、逆転に成功。リードを奪った日体は5回裏にも相手守備の乱れに乗じて重い5点目を加え、そのまま5ー2で勝利した。群を抜いた「選手層」の暑さを強みに、「総合力」で2年連続20回目の栄冠をつかんだ。

繋ぐ 家族のようなチーム

日本体育大学女子ソフトボール部主将 安 川 裕 美

文部科学大臣杯第54回全日本大学ソフトボール選手権大会におきまして、2年連続20回目の優勝をすることが出来ました。また、1980年・1981年以来となる2年連続アベック優勝をすることが出来ました。このような結果を得ることが出来たのは、大会を運営して下さった皆様をはじめ、ご支援ご声援して下さいる関係者の皆様のお陰です。今大会からUNIVASによるライブ配信があり、更に多くの方々に注目され、ソフトボールの魅力を知っていただく大変有意義な大会となりました。記憶に残る大会にさせていただき、ありがとうございました。

この夏、私たちは繋がる事が出来ました。沢山の方々の想いが繋がって、最高の景色を見ることが出来ました。

新チーム発足時は『お互い思い合えているのか？チームを心から愛することが出来ているのか？そして、心が繋がっているのか？』と問われると自信を持って返事をする事が出来なかったと思います。昨年も優勝させて頂きましたが、今年のチームで優勝した訳ではなかったのも、このチームで優勝する為にはどうすればいいのか、という事を考える毎日でした。

まず初めに大切にしたい事はソフトボール以外の所でした。挨拶や礼儀、私生活での姿など、当たり前の事を当たり前にするといった誰にでも出来ることです。日本一を目指す前に、私たちは大学生です。大学を卒業すれば社会の一員となり、更に多くの方々と共に過ごしていくと思います。そ

のような環境の中、ソフトボールで日本一になったということが果たして賢い事なのか。日本一になったから社長になれるのか。それより大切な何かがあるのではないかと思います。だからこそ日本一になる前に、人としての成長が必要不可欠な事だと全員で考えました。そう思っていたとしても、時には失敗をします。人を傷つけることもあるかもしれません。しかし、一つの失敗をどのようにして自分の糧にしていけるか。1人の失敗をチームの失敗として捉え、チーム全員が改善しようとしていく事が大切だと思いました。

また、このような結果を得ることが出来たのは私たちだけの力ではありません。家族の支えがあるからこそ今の私たちが居ます。また、日体大のOBやOGの方々の支えや期待が私たちを強くして下さいました。そして監督やコーチ、スタッフ陣のお陰です。日頃から厳しさの中に深い愛情がありました。どんな時でも私たちを信じて下さいました。この優しさに、計り知れない程の愛情に、どれだけ心を救われたか分かりません。沢山の方々に愛と感謝でいっぱいです。

そして、私たちは勝ちよりも大切な価値を見つけました。ただ優勝することによって見つけ出せるものではないと思います。1つの物事に真摯に取り組み、心で向き合う事。それが大切ではないかと思います。

最後に、ソフトボールを通じて出逢った仲間や培った経験を、今後の人生に繋げていきます。

皆様、本当にありがとうございました。

女子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

順位	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犠 犠 四 死 三 盗 残 打 出 本 三 二 塁 塁 塁 塁																打 撃 率	試 合 数	
			席 数	打 点	点	バ	飛	球	球	振	塁	塁	妨	塁	打	打	打				
1	岡田 莉歩	環太平洋	15	14	7	1	1	0	0	1	0	2	0	5	0	8	0	0	0	0.500	4
2	都筑 美有	淑 徳	12	9	4	1	1	1	0	1	1	0	0	2	0	6	0	0	0	0.444	3
3	安川 裕美	日本体育	15	12	5	4	4	0	1	2	0	3	0	0	0	7	1	0	1	0.417	5
3	土井 彩香	環太平洋	12	12	5	0	0	0	0	0	0	1	2	4	0	5	0	0	0	0.417	4
3	居内 佑加	環太平洋	14	12	5	2	2	0	0	1	1	1	0	3	0	7	0	1	0	0.417	4
6	中川 唯	園田学園	15	13	5	1	1	0	0	1	0	2	1	4	0	6	0	0	0	0.385	5
7	長谷部陽香	日本体育	17	14	5	1	1	0	0	3	0	0	0	4	0	8	0	0	0	0.357	5
8	角野 杏	日本体育	16	15	5	5	5	0	0	0	0	0	2	3	0	5	0	0	0	0.333	5
8	西野 希美	環太平洋	15	15	5	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	5	0	0	0	0.333	4
8	下山 絵理	園田学園	15	12	4	5	5	0	0	2	1	1	0	3	0	7	1	0	1	0.333	5
8	前 まりの	金沢学院	13	12	4	1	1	0	1	0	0	1	0	3	0	4	0	0	0	0.333	4

女子大会投手成績ベスト9（規定投球イニング数11以上）

順位	選 手 名	大 学 名	投球回	打者数	被打点	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被暴投	不正投	投球数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数	
1	福田 莉花	金沢学院	18	66	63	13	1	0	1	2	0	10	0	0	245	0.00	2	1	3
2	秋豆 朱音	園田学園	26	97	90	13	5	1	1	2	4	12	0	1	341	0.27	3	1	4
3	横地 栞	星 城	14	55	54	12	2	1	1	0	0	5	1	0	207	0.50	1	1	2
4	長谷川鈴夏	日本体育	22 1/3	80	71	11	3	2	6	2	1	17	0	0	281	0.63	4	0	4
4	信田 沙南	山梨学院	22 1/3	82	72	13	2	2	5	4	1	15	0	0	273	0.83	2	0	3
6	松崎 美南	城 西	14 2/3	58	52	16	4	2	3	2	1	4	0	0	193	0.95	1	1	2
7	島村 翠	淑 徳	11 1/3	47	41	11	2	2	1	3	2	4	0	0	163	1.24	2	0	3
8	上村 紗輝	環太平洋	11	49	47	14	3	2	0	1	1	4	0	0	182	1.27	2	0	2
9	後藤明日香	環太平洋	11	64	59	10	6	4	0	0	2	4	0	0	222	1.65	1	1	4

全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	2	0	1	3	7	1			
東京女子体育大学	1	5	1	5	9				
園田学園女子大学	6		7	9					
東北福祉大学	3			3					
日本女子体育大学	1		5	8					
大阪成蹊女子短大	1		4	5					
中京大学	1			1	2	1			
淑徳大学	1			2					
大阪大谷大学	1			2					
中京女子大学	1			1					
早稲田大学	1			1					
環太平洋大学	1			2					
東京国際大学	1								
武庫川女子大学		2		6					
大阪国際大学		2		2					
大阪体育大学		1		1					
					東海学園大学		1	1	1
					東海女子大学		1	1	
					鈴鹿国際大学		1	1	
					九州女子大学			2	
					仙台大学			2	
					東京富士大学			1	1
					関西外国語大学			1	
					神戸親和女子大学			1	
					龍谷大学			1	
					愛媛女子短期大学			1	
					龍谷大学			1	
					清和大学			1	
					福岡大学			1	
					立命館大学			1	
					金沢学院大学			1	

※旧校名分を含む ※第39回の優勝は2校 ※第50回は入賞4校 ※54回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

第34回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：令和元年7月6日(土)～8日(月)

会場：長野県伊那市／伊那スタジアム 他

	7月6日	7月7日	7月8日	
1. 日本体育大学		2		
2. 仙台大学	0	5	1	
3. 山梨学院大学	15		2	
4. 城西大学	6	3	0	
5. 東京富士大学	3	4		
6. 金沢学院大学		6	2	
7. 東京国際大学		3	1	
8. 日本女子体育大学		8	0	
9. 東京女子体育大学	8	3	0	
10. 順天堂大学	1	4		
11. 東北福祉大学		0	2	
12. 城西国際大学		1	3	
13. 松本大学	8	4		
14. 中央大学	1	0	1	
15. 東京学芸大学		2	7	
16. 清和大学		4	1	
17. 淑徳大学		0	2	
18. 富士大学	18	4		
19. 桜美林大学	0	1		
20. 国士舘大学	2	5		
21. 東海大学	9			
22. 早稲田大学				

優勝
山梨学院大学
(6年ぶり2回目)

試合結果

▼1回戦（7月6日）

仙 台 大 学 0 0 0 : 0
山梨学院大学 3 8 4x : 15

[仙] ●坪井亜由美・平塚 るい・小野 陽香一
赤井 希羽

[山] ○勝田 日菜子・菊池 朋美
(三)田波里緒子
(二)田波里緒子

城 西 大 学 0 0 2 1 2 0 1 : 6
東京富士大学 0 0 1 1 0 1 0 : 3

[城] ○柄澤 里香・松崎 美南・小嶋 楓

(本)小暮 沙希
(三)岩佐 美歩

[東] ●黒木 美紀・西山しずく
(本)松島 加奈
(二)西山 しずく

中央大学 0 0 0 0 1 0 : 1
松本大学 2 0 2 1 9 3x : 8

[中] ●山澄 響・檜崎 涼
(三)檜崎 涼

[松] 水野 愛海・○高須 涼音・和田 楓花
一寺田 優花 勝井 そら

(三)小山 未紗
(二)寺井 七瀬・草場 夏実

桜美林大学 0 0 0 : 0
富 士 大 学 14 4 x : 18

[桜] ●山口あかね・山口 紗桜・原田 夏果

[富] ○上野 寛菜・甲斐 美音・中西 茉季・
佐々木夏蓮

(本)中西 茉季・木嶋 瑠菜・佐藤 真衣
(三)根本 歩
(二)根本 歩

国士舘大学 2 0 0 0 0 : 2
東 海 大 学 0 1 7 0 1x : 9

[国] ●丸山 桃花・二之宮凜佳・小島 亜夢
・穴久保美緒・柴 佑季

(本)丸山 桃花

[東] 千葉 仁美・○是末 清菜・齊藤 結心

(三)野崎 杏郁・田村ひかり

(二)辨野 咲月・島田 彩那

▼2回戦（7月6日）

日本体育大学 1 0 0 0 1 0 0 : 2
山梨学院大学 4 0 1 0 0 0 x : 5

[日] ●浅井 茉琳・清水 慎子・安川 裕美
(本)須藤麻里子

[山] 勝田日菜子・○信田 沙南・菊池 朋美
(二)半田 由佳・田波里緒子

城 西 大 学 1 0 0 0 0 0 2 : 3
金沢学院大学 0 0 0 4 0 0 x : 4

[城] ●小嶋雛乃・柄澤 里香・小嶋 楓

[金] ○福田莉花・田畑 七海・氏丸 陽南
(二)原 茂那・氏丸 陽南

東 京 国 際 大 学 1 2 1 0 1 1 0 : 6
日本女子体育大学 0 0 0 1 0 0 2 : 3

[東] ○尾田 海音・高鷹秋桜音・横山 蒼
(本)齋藤 乃々

(二)橋爪ひかり・横山 蒼

[日] 笠井 珠実・●山本 優花・久保かえで

東 京 国 際 大 学 1 3 0 0 0 0 0 : 4
東京女子体育大学 1 0 0 1 0 0 1 : 3

[福] ○平田 美誓・大平 麗

(二)森田 杏梨・細谷 日和

[女] ●久本美波・佐々木さくら・比護奈保子
(二)須田 真琴

城西国際大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
松 本 大 学 0 0 0 1 0 0 x : 1

[城] ●小野塚菜奈・鉾田亜沙美

(三)山口 優実

[松] ○水野 愛海・和田 楓花・勝井 そら・
寺田 優花

(三)望月 安奈

清 和 大 学 0 1 0 3 0 0 0 : 4
東京学芸大学 1 0 0 0 0 1 0 : 2

[清] ○栗屋はづきー初芝満里奈

(二)梅澤 未来

[東] ●鍵山 皐月・村上 瑞希ー五十嵐 叶

(三)浅尾真梨花②

富士大学 0 2 2 0 0 0 0 : 4
淑徳大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[富] ○苅込 千波ー佐々木夏蓮

(本)渡辺 翠

(三)柏原千風悠

(二)宮本明日香

[淑] ●朝倉 莉奈・寺田 愛友ー小澤 陽

早稲田大学 0 0 1 0 0 0 4 : 5
東 海 大 学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

[早] ○伊藤貴世美ー川崎 楽舞

(本)廣瀬 夏季

(三)増子 奈保

[東] 是末 清菜・犬塚 未鈴・●千葉 仁美ー

齊藤 結心

(二)弓 穂香

▼準々決勝戦（7月7日）

金沢学院大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
山梨学院大学 1 0 0 0 0 0 0 x : 1

[金] ●福田 莉花ー氏丸 陽南

[山] ○勝田日菜子ー菊池 朋美

(二)田波里緒子

東北福祉大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
東京国際大学 0 0 0 1 1 0 x : 2

[福] ●平田 美誓ー大平 麗

(二)関谷 里菜

[国] ○尾田 海音ー横山 蒼

(三)菊地 香乃

松本大学 0 0 0 0 1 0 1 0 : 2
清和大学 0 0 0 0 0 2 0 1 x : 3

[松] 水野 愛海・●和田 楓花ー勝井 そら・

寺田 優花

[清] 乙川 茉由・○栗屋はづきー山形 聖奈・

初芝満里奈

富 士 大 学 0 0 5 1 0 1 0 : 7
早稲田大学 0 0 0 0 0 2 0 : 2

[富] ○苅込 千波・上野 寛菜・井上あやめー

佐々木夏蓮

(本)佐々木夏蓮②

(三)木村 友奏

(二)佐々木夏蓮・宮本明日香・加藤 花澄

[早] ●伊藤貴世美・廣瀬 夏季・増田 侑希ー

川崎 楽舞

▼準決勝戦（7月7日）

東京国際大学 0 0 0 0 0 0 0 0 1 : 1
山梨学院大学 0 0 0 0 0 0 0 0 2 x : 2

[東] ●川上 あいー横山 蒼

[山] ○信田 沙南ー小井沼美月

富士大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1
清和大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[富] ○苅込 千波ー佐々木夏蓮

[清] ●栗屋はづきー初芝満里奈

山梨学院大学 0 0 0 3 0 3 0 : 6
富 士 大 学 0 0 0 0 0 0 1 : 1

[山] ○勝田日菜子ー菊池 朋美

(本)松元 彩紀・岡寄 晴

(三)久保田莉依

[富] ●苅込 千波・上野 寛菜ー佐々木夏蓮・

中西 茉季

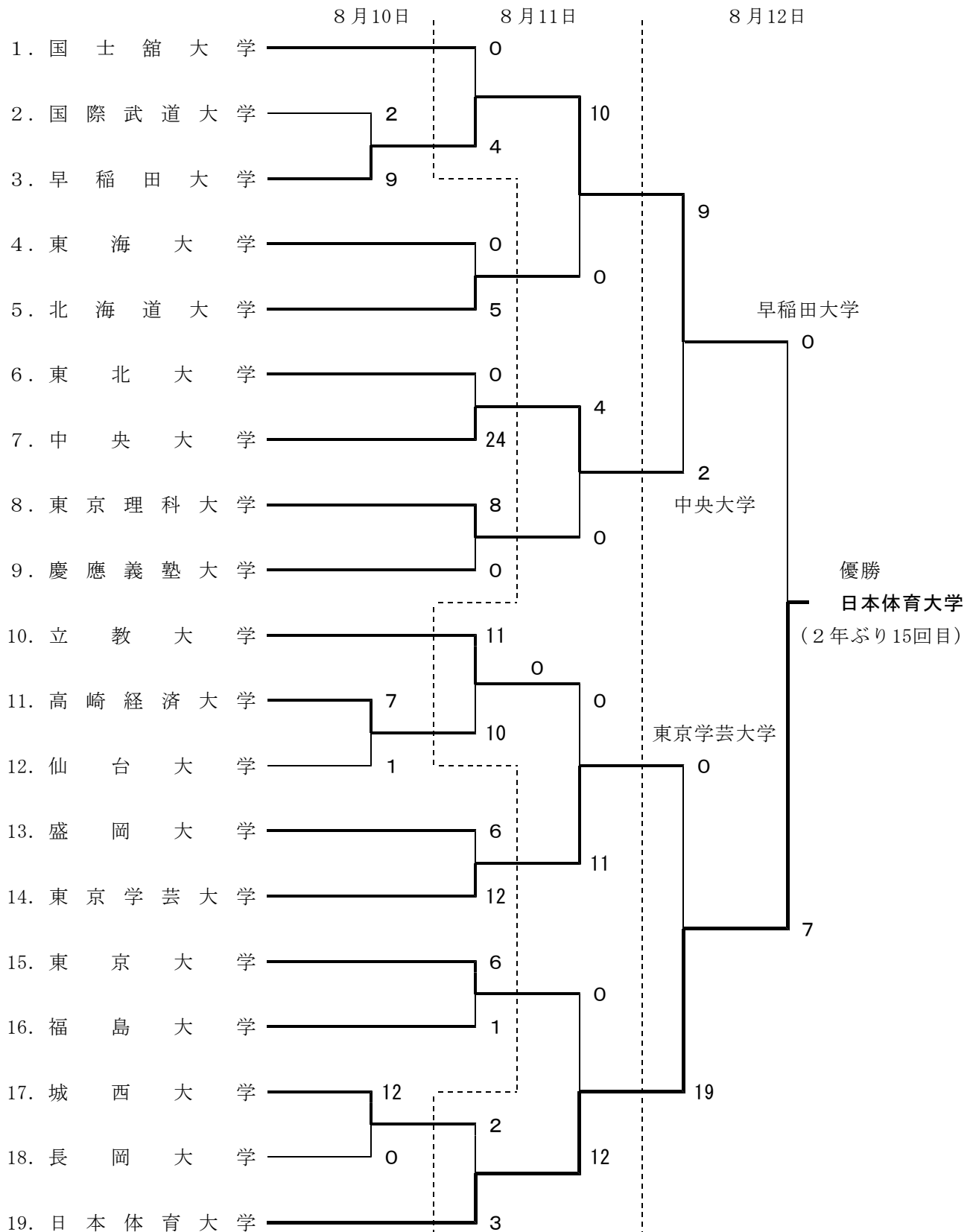
(本)木村 友奏

(二)加藤 花澄

第34回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：令和元年8月10日(土)～12日(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園



試合結果

▼1回戦（8月10日）

早稲田大学0041112 : 3
国際武道大学0002000 : 2

[早] ○○山内 壮起・松下 直矢一澤 優輝
(本)丹野 太郎・澤 優輝・石井 智尋
(二)澤 優輝
[国] ●田中 裕海・柴田 将希一西浦 龍
(二)安藤 武生・鈴木 涼太

高崎経済大学0004003 : 7
仙 台 大 学0010000 : 1

[高] ○佐藤 陸一下坂 聡・丸山 岳
(二)近内 敦史
[仙] ●大西将太郎・森川慎太郎一佐藤 聖将

城西大学10020 : 12
長岡大学0000 : 15

[城] ○工藤 駿・後藤 真誓・町田 幸正一
小林 凌也・佐藤 青鷹
(二)小林 凌也
[長] ●田川 喜浩一佐藤 将貴

▼2回戦（8月10日）

早稲田大学0004000 : 4
国士舘大学0000000 : 0

[早] ○山内 壮起一澤 優輝
(二)丹野 太郎
[国] ●井上 悠生・揚村 大誠一星 直輝

北海道大学0020300 : 5
東 海 大 学0000000 : 0

[北] ○佐藤雄太郎・樋口 宏介一今野 貴大
(本)河合 諒也
(二)佐藤雄太郎・北村 優
[東] ●三本杉知輝・妻木 聡汰一吉江 元希

中央大学13110 : 24
東北大学000 : 0

[中] 歳川 幹大・門馬 邦治・○橋本 新太一
大川 智・三木 勇侍
(本)大川

(二)道祖土拓真②・西村 健佑・歳川 幹大
[東] ●滝田 景偲・門叶 康平・佐藤 巧・
吉田 遼平一四釜 巧基

慶應義塾大学00000 : 0
東京理科大学30032x : 8

[慶] ●●笠井俊史郎一豊島 健史
[東] ○菅原 侑・安齋 颯良一塩谷 陸
(本)城川 樹生・西村 圭悟
(二)西村 圭悟

▼2回戦（8月11日）

高崎経済大学3302110 : 10
立 教 院 大 学2610101x : 11

[高] 青木翔太郎・●宮澤 貴希一下坂 聡・
丸山 岳
(三)塚田 大智・福田 耕大・近内 敦史
(二)山田 裕斗
(本)メンス・ジェーレン秀吉・濱田 慎②
[立] 坪井 敦志・豊島 海憧・星 光太郎
○坪井 敦志一関口 駿
(三)玉岡 稔基・田村 啓輔・皆川 直輝・
長谷川 勉久②
(二)檜木 諒・馬場 勇太

東 海 大 学0010000 : 1
慶應義塾大学000005x : 5

[東] ●佐藤 拓矢一吉江 元希
(本)福田 耕大・丸山 岳
[慶] ○笠井 亮之介一古川 雄一
(本)日下 秀太 (三)澤畑 海斗
(二)萬代 悦正

盛 岡 大 学0100050 : 6
東京学芸大学430005x : 12

[盛] ●澤屋敷 海一佐久間 敬
(三)工藤 雄喜
(二)佐久間 敬・近藤 隼人
[東] ○鈴木 智也一小泉 朋大
(三)吉積 宏太
(二)久保田凱斗

福島大学 0001000 : 1
東京大学 301101x : 6

[福] ●水上 武斗・渡部 大輝ー谷口 貴洋
(三)谷口 貴洋
[東] ○大久保 峻ー久次米康太
(本) 大久保 峻
(三) 楠本 龍

城西大学 0000101 : 2
日本体育大学 030000x : 3

[城] 工藤 駿・●高橋 陸ー小林 凌也
(本) 斉藤 壮馬
[日] 小山 玲央・○岡部 樹滉ー上田 郁也
(本) 斉藤 壮馬

▼準々決勝戦 (8月11日)

北海道大学 0000 : 0
早稲田大学 0541x : 10

[北] ●佐藤雄太郎・樋口 宏介・佐藤雄太郎ー
今野 貴大
[早] ○山内 壮起・松下 直矢ー澤 優輝・
井口 聡
(本) 澤 優輝
(二) 高橋 尚希

中央大学 0003001 : 4
東京理科大学 0000000 : 0

[中] ○歳川 幹大ー大川 智
(本) 道祖土拓真
[東] ●菅原 侑・安齋 颯良ー塩谷 陸

東京学芸大学 22007 : 11
立教大学 00000 : 0

[東] ○鈴木 智也ー小泉 朋大・木村 優斗
(本) 松井 聡汰
(二) 吉積 宏太
[立] ●豊島 海憧・坪井 敦志・星 光太郎ー
関口 駿
(二) 豊島 海憧

東京大学 0000 : 0
日本体育大学 7282x : 12

[東] ●大久保 峻・楠本 龍ー久次米 康太
(二) 関 亘・矢野口 功司
[日] ○酒井 匠・板垣 翔斐・豊本 翔貴ー
調 和政・蓮沼 陸
(二) 調 和政

▼準決勝戦 (8月12日)

中央大学 00110 : 2
早稲田大学 0342x : 9

[中] ●歳川 幹大ー大川 智
(本) 大原 悠斗
(二) 大川 智・道祖土拓真
[早] ○山内 壮起・松下 直矢ー澤 優輝
(本) 金子 太・石井 智尋

東京学芸大学 000 : 0
日本体育大学 136x : 19

[東] ●梶原 基史・飯野 克起ー小泉 朋大
[日] ○豊本 翔貴・三浦 大和ー上田 郁也・
濱渦 悠作
(本) 細川 涼磨
(二) 倉見 育瑠

▼決勝戦 (8月6日)

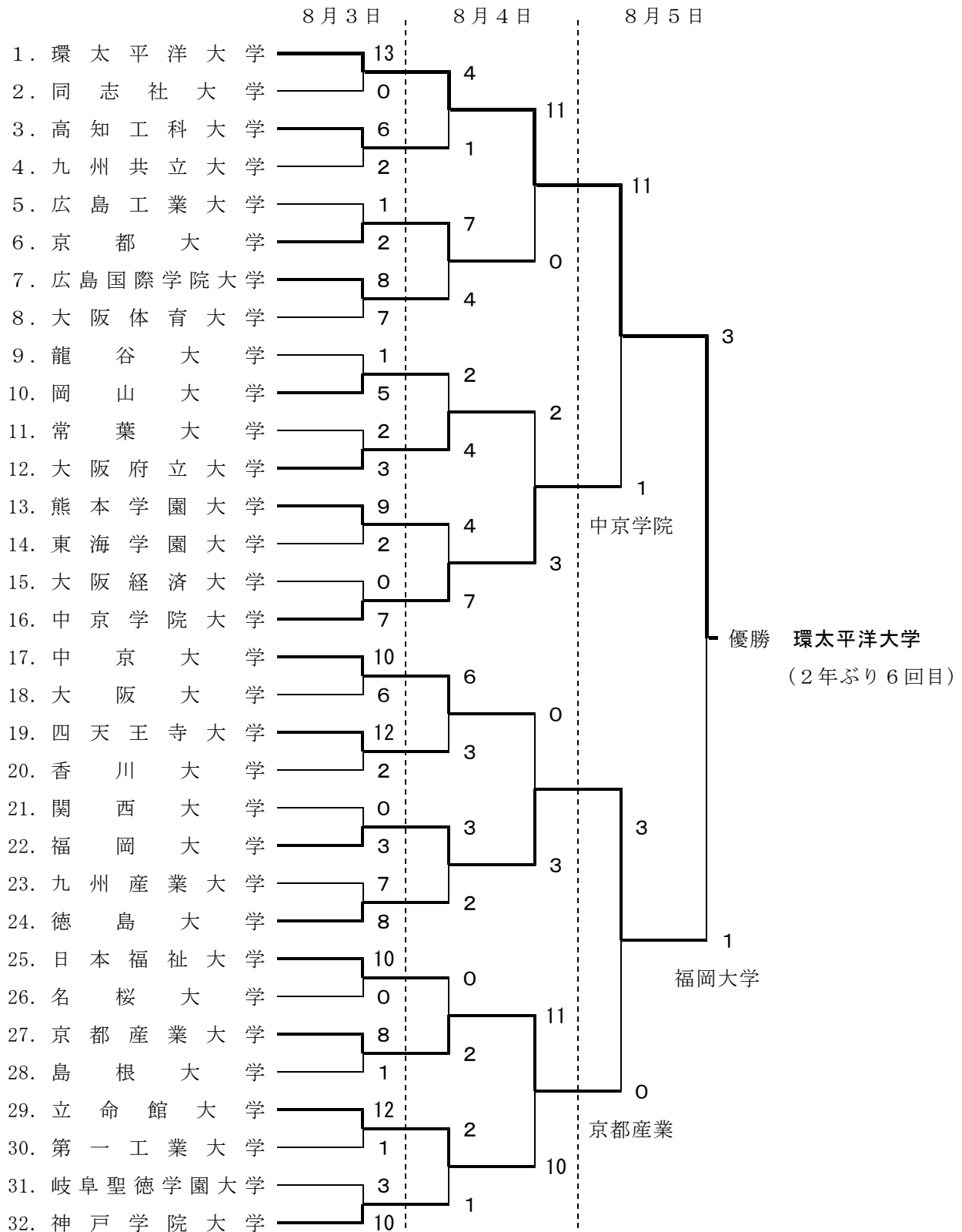
早稲田大学 00000 : 0
日本体育大学 0331x : 7

[早] ●山内 壮起・松下 直矢ー澤 優輝
[日] ○小山 玲央ー上田 郁也
(本) 田中 亨昂・上田 郁也
(三) 関 亘
(二) 田中 亨昂

第51回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：令和元年8月2日(金)～5日(月)

会場：広島県尾道市／御調ソフトボール球場



試合結果

▼1回戦（8月4日）

同志社大学0000 : 0
環太平洋大学346x : 13

[同] ●谷下 功祐・西山 諒一堀米 健人

[環] ○萩原僚太郎・片山 雅之一長谷川敬広

(本)吉永 文太②・小原 孝太・黒岩 陽斗
・島尻三志郎②

(二)黒岩 陽斗②・小原 孝太

九州共立大学0101000 : 2
高知工科大学001050x : 6

[九] ●中野 拓人・田中 太理一藤野莉希也

(本)武 慶輔

(三)栗田 龍馬

(二)平田 隼暉

[高] ○大上 涼一三原 康之

(本)大上 涼・橋田 隆助

(三)山中 紫音

(二)宮崎 翔大・笹岡 南斗

広島工業大学0000100 : 1
京都大学000002x : 2

[広] ●吉本 英哉一金子 慶起

(二)増田 勇気

[京] ○柴原 溪介一木 聡太

(本)御手洗孝祐

(三)御手洗孝祐

広島国際学院大学2400002 : 8
大阪体育大学6000010 : 7

[広] 糸谷 魁人・○権東 航太一賀見 優太

(本)鎌田 知晃・大江 勇生

[大] ●次郎萬和也

(本)西坂 和哉

(三)門間 淳紀

(二)大瀬 章裕②

龍谷大学0000100 : 1
岡山大学102011x : 5

[龍] ●山田 大樹一原野 智矢

(二)小山 拓海

[岡] ○青江 悠太一中村 亮太

(本)吉松健太郎

(二)平井 雅也

大阪府立大学0002010 : 3
常葉大学2000000 : 2

[大] ○濱口 巧一松井 孝太

(三)畑 裕貴

(二)松井 孝太・西野 純矢

[常] ●小林晃太郎・古館 拓真一山本 和

(三)鈴木 啓斗

熊本学園大学43101 : 9

東海学園大学00002 : 2

[熊] ○松永 総司・廣瀬 慶大・福田 力丸・

松永 総司一伊藤 礼人

(本)山田 祥也・村上 隆生

(三)平岡 滉英・柴田 龍一

(二)迫田 宇斗

[東] ●吉林 広樹・葛島 翔也

(三)平田 真正

(二)旦那寺健太・片山 翔太

大阪経済大学00000 : 0
中京学院大学0700x : 7

[大] ●中山 祐哉・中野 侑雅一中野 侑雅・

櫛野 和希

[中] 田上 順也・實田 優斗・○建沼 理久・

星出 和哉一

(本)南村 海斗・松本 三汰

中京大学2000251 : 10
大阪大学0003300 : 6

[中] ○久本 廉・守屋ダニエル・久本 廉一

湯浅彰一郎

(本)菊川 智己・長谷川裕人

(三)濱口 鯉来

(二)菊川 智己・濱口 鯉来

[大] ●高橋 直暉一畠 尚吾

(本)出井 大登

(三)近藤輝一・沼田 峻晟

(二)畠 尚吾

香川大学0002 : 2
四天王寺大学1704x : 12

[香] ●内 伸泰ー豊島 大智

(二)中原葉津樹

[四] ○古井 凌・加藤 慎ー中村 雄大

(本)岩本 貴寛・中村 雄大・古井 凌・
古賀 大祐②

(三)古井 凌

関西大学0000000 : 0
福岡大学000210x : 3

[関] ●辰巳 大樹ー鈴木 隆弘

(三)中岸 健登

[福] ○海邊 和也ー沢村 洋

(本)日高 慶明

(二)沢村 洋

九州産業大学00022021 : 7
徳島大学00105002x : 8

[九] 池上 紘生・●瓦口 昂弥ー竹森 望夢

(本)瓦口 昂弥

(三)黒木 竜太

(二)神野 隼人

[徳] ○井上 諒ー武市 純季

(本)岡 健太郎

名桜大学0000 : 0
日本福祉大学4033x : 10

[名] ●三浦 大志ー馬越 慧

(二)橋口 凜

[日] ○藤原 智徳ー寺地 宏平

(本)松山 和貴

(二)山口 優弥

島根大学00010 : 1
京都産業大学41102x : 8

[島] ●田本 康弘・増成 隼樹・田本 康弘ー

後藤 駿輔

[京] ○山根 一起ー永田 佳己

(二)國中 昂大・八木 理基・村野 想・
永田 佳己・若林 峻太

第一工業大学1000 : 1
立命館大学4602x : 12

[第] ●麻生 大雅・坪水 優馬ー渡口 竜大

[立] ○橋本 慎・高森威吹希・佐藤 夏己ー
成房 龍樹

(本)橋本 慎②・北原 匠・倉 隆史

(二)戸倉 隆史・林 功一朗

岐阜聖徳学園大学30000 : 3
神戸学院大学2017x : 10

[岐] ●山河 洋平ー菊野 大輔

(本)中宮 駿

(二)松本 健汰

[神] ○奥田 拓海・井上 匠ー久田 莉也・
檀上 芳希

(本)芦田 翔・大垣竜一朗

(二)山本 智紀・廣瀬 雄貴

▼2回戦(8月4日)

高知工科大学0000100 : 1
環太平洋大学000004x : 4

[高] ●大上 涼ー三原 康之

(本)宮崎 翔大

[環] ○萩原僚太郎・井上裕太郎ー長谷川敬広

(三)大城 直加

京都大学0000520 : 7
広島国際学院大学0130000 : 4

[京] ○有田 大輝ー柏木 聡太

(本)中小路一真・柴原 溪介

(二)上田 優作

[広] 糸谷 魁人・●佐々木裕希・権東 航太ー
西本健太郎

(本)鎌田 知晃

(二)石崎健一郎

大阪府立大学 0 2 1 1 0 0 0 : 4
岡山大学 0 0 0 2 0 0 0 : 2

[大] ○濱口 巧ー松井 孝太

(本)濱口 巧

(三)松井 泰良

(二)氏家 良介

[岡] ●青江 悠太ー中村 亮太

(二)藤本 弘希・吉松 健太郎

中京学院大学 4 0 0 0 0 0 0 3 : 7
熊本学園大学 0 1 0 0 0 1 2 0 : 4

[中] 田上 順也・實田 優斗・○建沼 理久一

森 紀世彦

(本)南村 海斗

(三)池端 謙太

(二)實田 優斗・森 紀世彦

[熊] 松永 総司・●廣瀬 慶大ー村上 隆生

(三)松永 総司

(二) 小橋 海斗・松永 総司・山田 祥也
・村上 隆生

四天王寺大学 0 0 0 0 0 1 2 : 3
中京大学 1 0 0 0 0 5 x : 6

[四] ●戸梶 敦也ー中村 雄大

(本)古井 凌

[中] 久本 廉・○湯浅彰一郎・守屋ダニエル

ー湯浅彰一郎・田辺 隼・湯浅彰一郎

(本)菊川 智己

(二)菊川 智己

福岡大学 1 0 0 0 0 0 2 : 3
徳島大学 0 0 0 0 0 0 2 : 2

[福] ○廣藤 健徳ー沢村 洋

(三)綾戸 康祐

(二)堀内 章吾・重乗 寛人

京都産業大学 0 0 1 0 1 0 0 : 2
日本福祉大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[京] ○山根 一起・北村 優斗ー永田 佳己

(本)田中 知樹

[日] ●藤原 智徳ー寺地 宏平

神戸学院大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1
立命館大学 0 0 0 0 0 2 x : 2

[神] ●奥田 拓海ー久田 莉也

(本)芦田 翔

[立] ○佐藤 夏己ー成房 龍樹

▼準々決勝戦(8月4日)

環太平洋大学 3 1 5 0 2 : 11
京都大学 0 0 0 0 0 : 0

[環] ○井上裕太郎・上田 悠生・糸数 昌太郎

・片山 雅之一長谷川敬広・宮平 大空

(本)小原 孝太

(二)島尻三志郎

[京] ●柴原 溪介ー柏木 聡太

(三)岡田 晟良

大阪府立大学 2 0 0 0 0 0 0 : 2
中京学院大学 0 1 1 1 0 0 x : 3

[大] 井下 祐人・●濱口 巧ー松井 孝太

(二)濱口 巧

[中] 田上 順也・○建沼 理久一

(本)南村 海斗

(二)池端謙太②

福岡大学 0 0 0 2 1 0 0 : 3
中京大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[福] ○海邊 和也ー沢村 洋

(本)沢村 洋

(三)沢村 洋

(二)堀内 章吾

[中] ●守屋ダニエルー湯浅彰一郎

立命館大学 4 1 0 0 0 0 2 2 1 0 : 10
京都産業大学 0 0 1 2 0 0 4 2 1 1 x : 11

[立] 高森威吹希・佐藤 夏己・●高森威吹希ー

成房 龍樹

(本)成房 龍樹・林 功一朗

(三)橋本 慎

[京] 北村 優斗・山根 一起・○北村 優斗ー

永田 佳己

(本)田中 知樹・小松 正弥

(二)小松 正弥・松浦 真人

▼準決勝戦(8月5日)

中京学院大学 0 0 1 0 : 1
環太平洋大学 1 0 1 0 x : 11

[中] 建沼 理久・●寶田 優斗・田上 順也ー
森 紀世彦

(三)池端 謙太

[環] ○萩原僚太郎・井上裕太郎ー長谷川敬広

(本)吉永 文太・小原 孝太

(三)谷口 美国・谷口 将隆

(二)平盛 正悟

福岡大学 0 0 0 1 1 1 0 : 3
京都産業大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[福] ○海邊 和也ー沢村 洋

(本)実松 悠仁

(三)日高 慶明

[京] ●北村 優斗・山根 一起ー永田 佳己

▼決勝戦(8月5日)

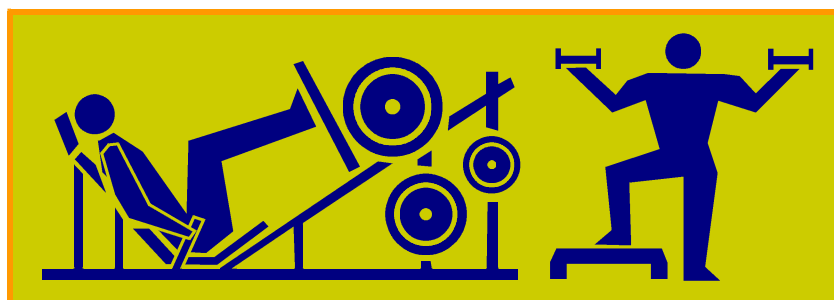
福岡大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
環太平洋大学 0 0 0 0 0 3 x : 3

[福] ●海邊 和也ー沢村 洋

(本)堀内 章吾

[環] ○萩原僚太郎ー長谷川敬広

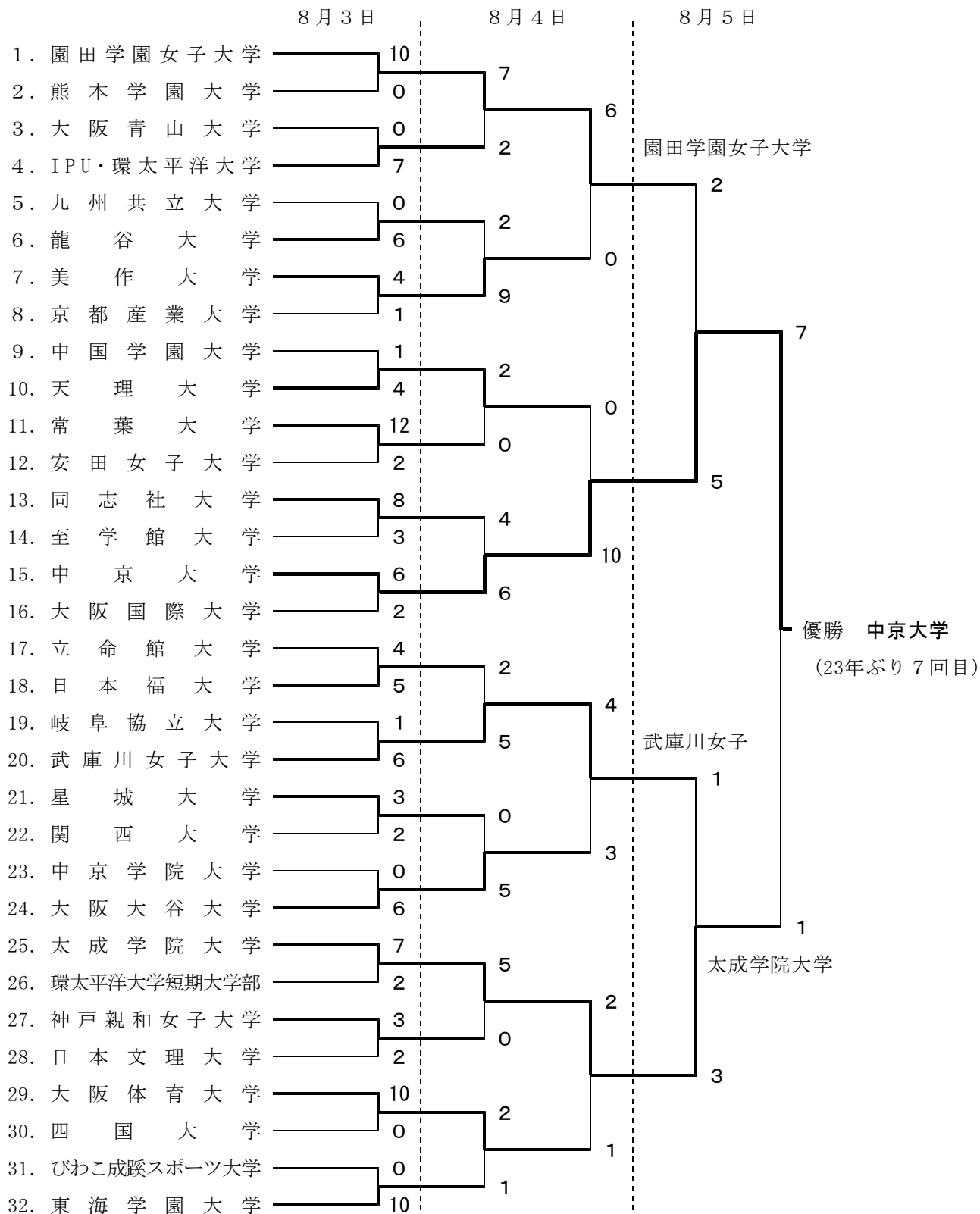
(二)島尻三志郎・玉城 陸



第51回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：令和元年8月2日(金)～5日(月)

会場：岡山県久米郡久米南町／町民運動公園・美咲町／中央運動公園 他



試合結果

▼1回戦(8月3日)

熊 本 学 園 大 学 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 4 4 0 2x : 10

[熊] ●鶴田 万誉・信重 陽菜一千代田和泉
[園] ○三原 千空・横谷 瑞希一服部 洋代
(本)藤森 捺未・下山 絵理
(三)藤森 捺未
(二)白石 望美・武井 麻優・片山 摩巳・
大谷 朋世

大 阪 青 山 大 学 0 0 0 0 0 0 : 0
IPU・環太平洋大学 0 0 0 2 0 5x : 7

[大] ●片山 亜南・安東 夏帆・米満 楓・
山田 麻衣・宮間 花帆・橋田 夏実・
片山 亜南一大谷 祐紀
[環] ○後藤明日香一女鹿田千紘
(三)岡田 望
(二)桃原 祐里・岡田 莉歩

龍 谷 大 学 0 0 1 0 2 0 3 : 6
九州共立大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[龍] 緒方 雛乃・○渡部 桜花・大津菜々映・
安井 愛・田原 奈愛一高根 葵
(二)村田 亜澄・峰 サアヤ
[九] ●古賀 千晴一寺田 彩香
(二)横尾 萌香

京都産業大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1
美 作 大 学 0 2 1 0 0 1 x : 4

[京] ●下村 真由一松村 普子
(二)松村 普子②
[美] ○溝田 玲奈・水戸川麻優一砂川帆乃香
(二)比嘉 智美

中国学園大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1
天 理 大 学 0 2 1 0 0 1 x : 4

[中] 片山 美鈴・●山口 愛実一山田 菜美
(三)成清 愛菜
[天] ○田口 明純・前川 夏海一北風 舞
(本)筒井 南帆

(二)北風 舞

安田女子大学 0 2 0 0 : 2
常 葉 大 学 5 1 1 5x : 12

[安] ●久保田亮子一熊野 恭華
(二)久保田亮子・吉田 絢音
[常] ○仲野 未姫一永田 愛夏
(三)赤堀 七菜・野中 風沙・栗田 季歩
(二)野中 風沙・永田 愛夏

至学館大学 1 0 1 0 0 0 1 : 3
同志社大学 1 1 0 0 3 3 x : 8

[至] ●山崎真梨音・山路 愛莉・伊東 奈穂・
北村 珠梨一佐々木瑠那
(二)藤井 杏奈・佐々木瑠那
[同] 立迫 由樹・○大須賀まどか・前田 優希
一山口 未葵・吉岡 七海
(三)富山 綾音・山口 未葵・弓納持あみ
(二)藤井 志織

中 京 大 学 0 0 5 0 0 0 1 : 6
大阪国際大学 0 0 0 0 2 0 0 : 2

[中] 丹羽 萌・村瀬なるみ・坪野 三咲・
○村田 未幸一安山 涼香・中山 侑紀
(二)森本 美由
[大] 石川 千尋・●前田 康江・曲谷七海帆・
石川 千尋一磯村 百夏・藤澤 優希・
丹羽愛里咲・磯村 百夏

立 命 館 大 学 0 1 3 0 0 0 0 0 : 4
日本福祉大学 0 0 0 0 2 2 0 1 : 5

[立] 本田 明梨・大家 陽菜・●本田 明梨
一日吉野乃子
(二)宮迫 南波・日吉野乃子・井口莉加子
[日] 高山智慧子・○尾崎 加奈一藤井 杏朱

武庫川女子大学 0 2 0 2 0 2 0 : 6
岐阜協立大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1

[武] 久保田菜々香・○脇山 朱音一橋本 菜央
(二)津田 純花②・中村 友香
[岐] ●山田 実空・山本 佳奈一白井はるか

(二)若山 愛奈

関西大学 000000011 : 2
星城大学 000000012x : 3

[関] 佐保 知里・●萩森ちひろー日吉 里香

[星] 横地 葉・○中村 梨杏ー榊原 桜

(二)愛葉 茉帆

大阪大谷大学 0330000 : 6
中京学院大学 0000000 : 0

[大] 湯川いずみ・○兵頭 彩・安田 玖美・

湯川いずみー殿井 綾

(二)樽谷 美結

[中] ●細川 優・藤田 朱莉ー瀬戸 裕菜・

小栗茉由子

IPU・短期大学 01100 : 2
太成学院大学 20111 : 7

[環] 浅井 夏海・●阿部 優香・浅井 夏海・

横山菜々子・久保 和咲ー下田 若菜

(二)村岡 香菜

[太] ○岡 真里流・小泉 夢乃ー金橋 郁美・

山内 純怜

(三)小溝 淑歌

日本文理大学 0000020 : 2
神戸親和女子大学 010010x : 3

[日] ●吉田 未歩・川下 真奈・今村みなみ

ー坂本 彩音

(二)安田 広夢

[神] 矢木 夏希・○平良 優花・矢木 夏希・

有元 茜ー山口 歩・東田 海愛

(二)山口 歩

四国大学 0000 : 0
大阪体育大学 208x : 10

[四] ●田中亜希帆ー大地 葵

[大] ○吉岡 美鈴・中妻 由依ー渋谷 愛佳

(三)芦田 歩実

(二)河野くるみ・柳瀬 瞳

びわこ成蹊スポーツ大学 0000 : 0
東海学園大学 0307x : 10

[び] ●荒川 花涼ー中尾 晴香

(二)平野 真央

[東] ○山田 玲菜ー手島京都美

(三)上村 奈実・澤田 望愛・昆野 藍加・

加藤 美稀

▼2回戦(8月4日)

IPU・環太平洋大学 0001100 : 2
園田学園女子大学 003040x : 7

[環] ●上村 紗輝・遠藤 杏樺ー女鹿田千紘

(二)徳嶺 法子・女鹿田千紘

[園] ○秋豆 朱音・三原 千空・石田 紅葉・

ー服部 洋代

(本)下山 絵理

龍谷大学 000200 : 2
美作大学 000405x : 9

[龍] 緒方 雛乃・●渡部 桜花・田原 奈愛・

大津菜々映・緒方 雛乃ー高根 葵

(二)峰 サアヤ

[美] ○水戸川麻優ー砂川帆乃香

(二)白岩 咲華

天理大学 0020000 : 2
常葉大学 0000000 : 0

[天] ○田口 明純ー北風 舞

[常] ●村野 亜樹ー永田 愛夏

中京大学 3010200 : 6
同志社大学 0002020 : 4

[中]) ○丹羽 萌・西川 沙希ー安山 涼香

(二)佐藤 友香

[同] ●大須賀まどか・立迫 由樹ー山口 未葵

・吉岡 七海・山口 未

(二)岩本 成未・藤井 志織

武庫川女子大学 00000203 : 5
日本福祉大学 00100100 : 2

[武] 脇山 朱音・○久保田菜々香ー橋本 菜央

(二)相本 真琴・西村 春香

[日] ●高山智慧子・尾崎 加奈ー藤井 杏朱
(本)鈴村二千花

大阪大谷大学0003020:5
星城大学0000000:0

[大] ○湯川いずみ・兵頭 彩ー殿井 綾
(三)森山 春奈
(二)東郷 佑実・山根 志帆
[星] ●横地 葉・中村 梨杏ー榊原 桜

神戸親和女子大学0000000:0
太成学院大学100103x:5

[神] ●矢木 夏希・碓氷 英里・平良 優花・
岡崎 紫乃ー山口 歩
[太] ○岡 真里流・小泉 夢乃ー金橋 郁美・
山内 純怜
(三)小泉 夢乃
(二)小泉 夢乃

東海学園大学0000001:1
大阪体育大学001001x:2

[東] ●田渕 朱理・藤本 恵未・山田 玲菜ー
手島京都美
(二)田渕 奈央
[大] ○中妻 由依・梅本くるみー渋谷 愛佳

▼準々決勝戦(8月4日)

美作大学0000000:0
園田学園女子大学300300x:6

[美] ●水戸川麻優・溝田 玲奈ー砂川帆乃香
[園] ○三原 千空・横谷 瑞希・森本なるかー
服部 洋代・千葉 遼
(本)下山 絵理
(三)白石 望美
(二)竹内みのり

天理大学0000 :0
中京大学2026x :10

[天] ●前川 夏海・田口 明純ー北風 舞
[中] ○村田 未幸ー安山 涼香
(二)杉本 梨緒・佐藤 友香

大阪大谷大学110000010:3
武庫川女子大学010010011x:4

[大] 湯川いずみ・●兵頭 彩ー殿井 綾
(本)東郷 佑実
[武] 久保田菜々香・脇山 朱音・○久保田菜々香
ー橋本 菜央
(二)奥田沙綾香・津田 純花・橋本 菜央・
深石 咲花・中村みなみ・山崎 彩

大阪体育大学001000000:1
太成学院大学000010001x:2

[大] 中妻 由依・●梅本くるみー渋谷 愛佳
[太] ○岡 真里流ー山内 純怜・金橋 郁美

▼準決勝戦(8月5日)

中京大学0201002:5
園田学園女子大学0001100:2

[中] ○村田 未幸ー安山 涼香
[園] ●三原 千空・秋豆 朱音ー服部 洋代
(本)竹内みのり
(二)藤森 捺未

太成学院大学1001010:3
武庫川女子大学0010000:1

[太] ○小泉 夢乃・岡 真里流ー山内 純怜
[武] 久保田菜々香・●脇山 朱音・久保田菜々香
ー橋本 菜央
(二)木本 果歩

▼決勝戦(8月6日)

中京大学0320020:7
太成学院大学0010000:1

[中] ○丹羽 萌・宇野あかね・丹羽 萌ー
安山 涼香・中山 侑紀・安山 涼香
(三)杉本 梨緒
(二)舟橋 花保・山元 綾乃
[太] ●小泉 夢乃ー山内 純怜・金橋 郁美
(二)吉良 聡乃

第18回 東海オープン女子インカレチャレンジ

会期：平成31年3月12日(火)・13日(水)・14日(木)

会場：愛知県安城市／安城総合運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦(第1・2日)

Aグループ	星 城	羽 衣	熊 学	清 和	勝	分	敗	失点率	順位
星 城		○ 7 - 0	○ 8 - 1	○ 9 - 5	3	0	0	-	1
羽衣国際	● 0 - 7		○ 7 - 3	● 4 - 5	1	0	2	-	3
熊本学園	● 1 - 8	● 3 - 7		● 2 - 6	0	0	3	-	4
清 和	● 5 - 9	○ 5 - 4	○ 6 - 2		2	0	1	-	2

Bグループ	日 福	国 際	至学館	鳥 取	勝	分	敗	失点率	順位
日本福祉		○ 11 - 1	○ 9 - 5	○ 2 - 1	3	0	0	-	1
大阪国際	● 1 - 11		● 2 - 6	○ 2 - 1	1	0	2	-	3
至 学 館	● 5 - 9	○ 6 - 2		○ 8 - 0	2	0	1	-	2
鳥 取	● 3 - 10	● 1 - 2	● 0 - 8		0	0	3	-	4

順位決定リーグ戦(第2・3日)

上位グループ	星 城	清 和	日 福	学 館	勝	分	敗	失点率	順位
星 城		○ 4 - 2	○ 5 - 4	● 1 - 2	2	0	1	3.50	優勝
清 和	● 2 - 4		● 7 - 14	○ 2 - 0	1	0	2	0.00	3位
日 本 福 祉	● 4 - 5	○ 14 - 7		○ 9 - 5	2	0	1	5.00	2位
至 学 館	○ 2 - 1	● 0 - 2	● 5 - 9		1	0	2	2.00	4位

下位グループ	羽 衣	熊 本	国 際	鳥 取	勝	分	敗	失点率	順位
羽衣国際		● 3 - 4	○ 10 - 7	○ 14 - 0	2	0	1	-	6位
熊本学園	○ 4 - 3		○ 5 - 2	○ 8 - 1	3	0	0	-	5位
大阪国際	● 7 - 10	● 2 - 5		○ 10 - 0	1	0	2	-	7位
鳥 取	● 0 - 14	● 1 - 8	● 0 - 10		0	0	3	-	8位

第18回 大学(男子)ソフトボール東海オープン

会期：平成31年 3月19(火)・20日(水)

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦（3月19日）

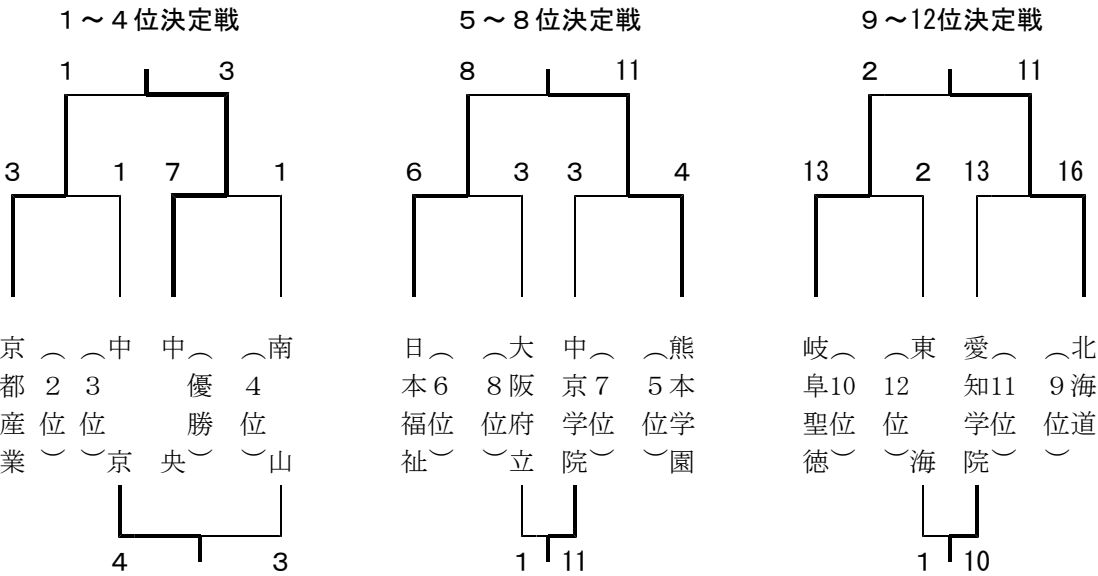
Aグループ	京 産	日 福	聖 徳	順位
京都産業		○ 6－2	○ 2－1	1
日本福祉	● 2－6		○ 8－5	2
岐阜聖徳	● 1－2	● 5－8		3

Bグループ	中 京	府 立	東 海	順位
中 京		○ 8－3	○ 5－3	1
大阪府立	● 3－8		○ 12－0	2
東 海	● 3－5	● 0－12		3

Cグループ	中 央	中 院	愛 院	順位
中 央		○ 5－0	△ 3－3	1
中京学院	● 0－5		○ 11－3	2
愛知学院	△ 3－3	● 3－11		3

Dグループ	熊 学	北海道	南 山	順位
熊本学園		○ 9－2	● 6－7	2
北 海 道	● 2－9		● 7－8	3
南 山	○ 7－6	○ 8－5		1

順位決定戦（3月20日）



第21回 千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会期：平成31年3月22日(金)・23日(土)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール場

【予選Aブロック】

東京学芸大学	7		
東北大学	4	7	
東京理科大学	4		東京学芸大学
立教大学	0	6	

3位決定戦

東北大学	9	
立教大学	9	

【予選Bブロック】

高崎経済大学	4		
学習院大学	8	1	
国士舘大学	19		国士舘
文教大学	8	15	

3位決定戦

高崎経済大学	25	
文教大学	2	

【予選Cブロック】

千葉大学	9		
慶應義塾大学	8	18	
東京大学	3		千葉大学
茨城大学	4	0	

3位決定戦

慶應義塾大学	13	
茨城大学	0	

【Ⅰ部決勝】

東京学芸大学	3		
東京理科大学	5	4	
国士舘大学	8		優勝国士舘大学
千葉大学	1	8	

3位決定戦

東京学芸大学	6	
千葉大学	8	千葉大学

【Ⅱ部決勝】

学習院大学	10		
茨城大学	0	2	
慶應義塾大学	6		高崎経済大学
高崎経済大学	12	11	

3位決定戦

茨城大学	5	
慶應義塾大学	8	慶應義塾大学

【Ⅲ部決勝】

東京大学	17		
立教大学	10	12	
東北大学	2		東京大学
文教大学	8	2	

3位決定戦

立教大学	5	
東北大学	6	東北大学

第20回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成31年4月20日(土)～21日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

【男子】

横川LEAG	城西B	千葉	信州	高経	順	碓氷LEAG	関学	都留文	関学	城西A	順
城西B		● 2-10	● 1-3	● 5-7	4	東海		△ 5-5	○ 5-4	● 4-10	2
千葉	○ 10-2		○ 13-2	● 7-12	2	関東学園	△ 5-5		● 3-16	● 3-10	4
信州	○ 3-1	● 2-13		○ 4-3	3	都留文科	● 4-5	○ 16-3		● 1-23	3
高崎経済	○ 7-5	○ 12-7	● 3-4		1	城西A	○ 10-4	○ 10-3	○ 23-1		1

※3～4位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：高崎経済大学4－8城西大学A

◇3～4位：千葉大学4－8城西大学A

◆5～6位：信州大学1－13都留文科大学

◆7～8位：城西大学B5－3関東学園大学

【女子】

久芳LEAG	松本	東福	富士	東海	白鷗	新島	勝	分	敗	勝点	順位
松本		● 2-6	● 2-15	● 1-6	○ 13-3	○ 12-1	2	0	3	6	4
東北福祉	○ 6-2		○ 7-1	△ 3-3	○ 10-0	○ 10-0	4	1	0	13	1
富士	○ 15-2	● 1-7		○ 6-4	○ 11-1	○ 6-3	4	0	1	12	2
東海	○ 6-1	△ 3-3	● 4-6		○ 5-4	○ 16-1	3	1	1	10	3
白鷗	● 3-13	● 0-10	● 1-11	● 4-5		● 2-9	0	0	5	0	6
新島短大	● 1-12	● 0-10	● 3-6	● 1-16	○ 9-2		1	0	4	3	5

【最終結果】（男子／女子）

優勝：城西大学A／東北福祉大学

第5位：都留文科大学／新島学園短大

準優勝：高崎経済大学／富士大学

第6位：信州大学／白鷗大学

第3位：東海大学／東海大学

第7位：城西大B／

第4位：千葉大学／松本大学

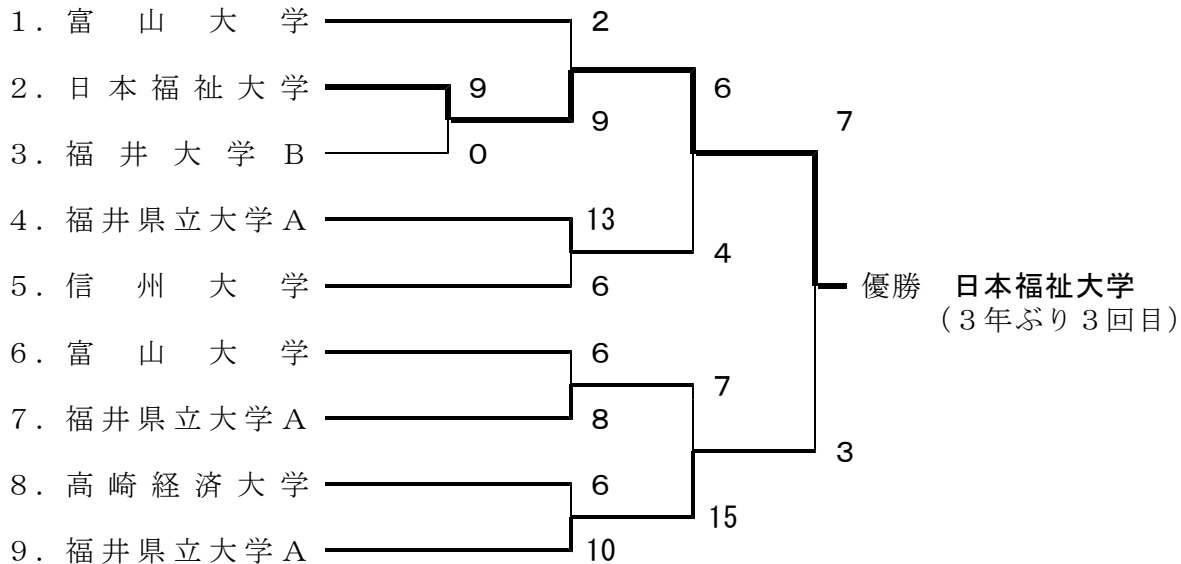
第8位：関東学園大学／

第16回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：令和元年7月13日(土)・14日(日)

会場：福井県福井市／きららパーク多目的グラウンド 他

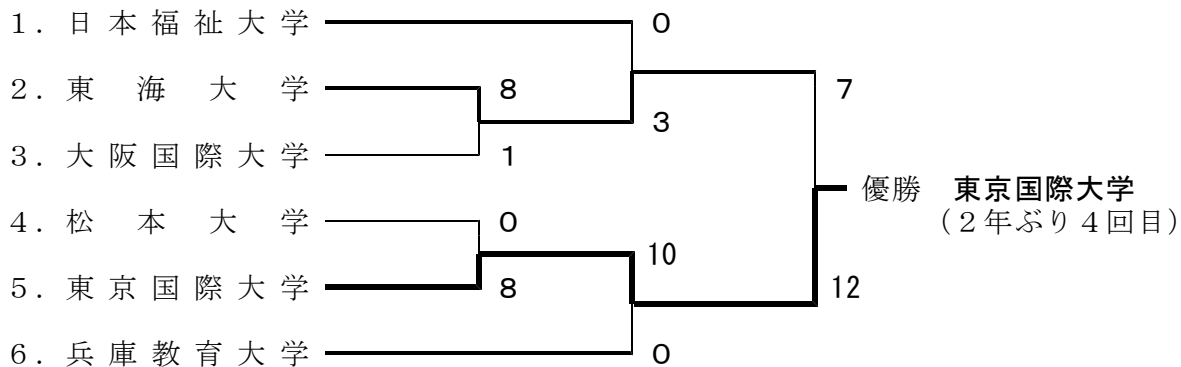
【男子】



3位決定戦：福井大学 A 9－2 福井県立大学 A

交流戦：福井大学 B 4－4 信州大学 高崎経済大学 5－4 富山大学 B
高崎経済大学 9－2 富山大学 A

【女子】



3位決定戦：日本福祉大学 10－0 兵庫教育大学

第11回 HAKUBA CUP大学女子ソフトボール大会

会期：令和元年 8 月 20 日（火）～22 日（水）

会場：長野県白馬村／村営北部 G、切久保第 2 G、大町市／平運動場

予選リーグ戦

岩岳リーグ	星 城	天 理	東京国際	東京学芸	大阪国際	至 学 館	勝	分	敗	点	失率	順
星 城		● 2-6		○ 3-1								
天 理	○ 6-2		● 0-4									
東京国際		○ 4-0			○ 1-0							
東京学芸	● 1-3					● 1-5						
大阪国際			● 0-1			○ 5-0						
至 学 館				○ 5-1	● 0-5							

五竜リーグ	金沢学院	日本福祉	淑 徳	大阪青山	中京学院	仙 台	勝	分	敗	点	失率	順
金沢学院		○ 1-0		○ 7-0								
日本福祉	● 0-1		● 1-5									
淑 徳		○ 5-1			○ 5-4							
大阪青山	● 0-7					△ 4-4						
中京学院			● 4-5			○ 13-3						
仙 台				△ 4-4	● 3-13							

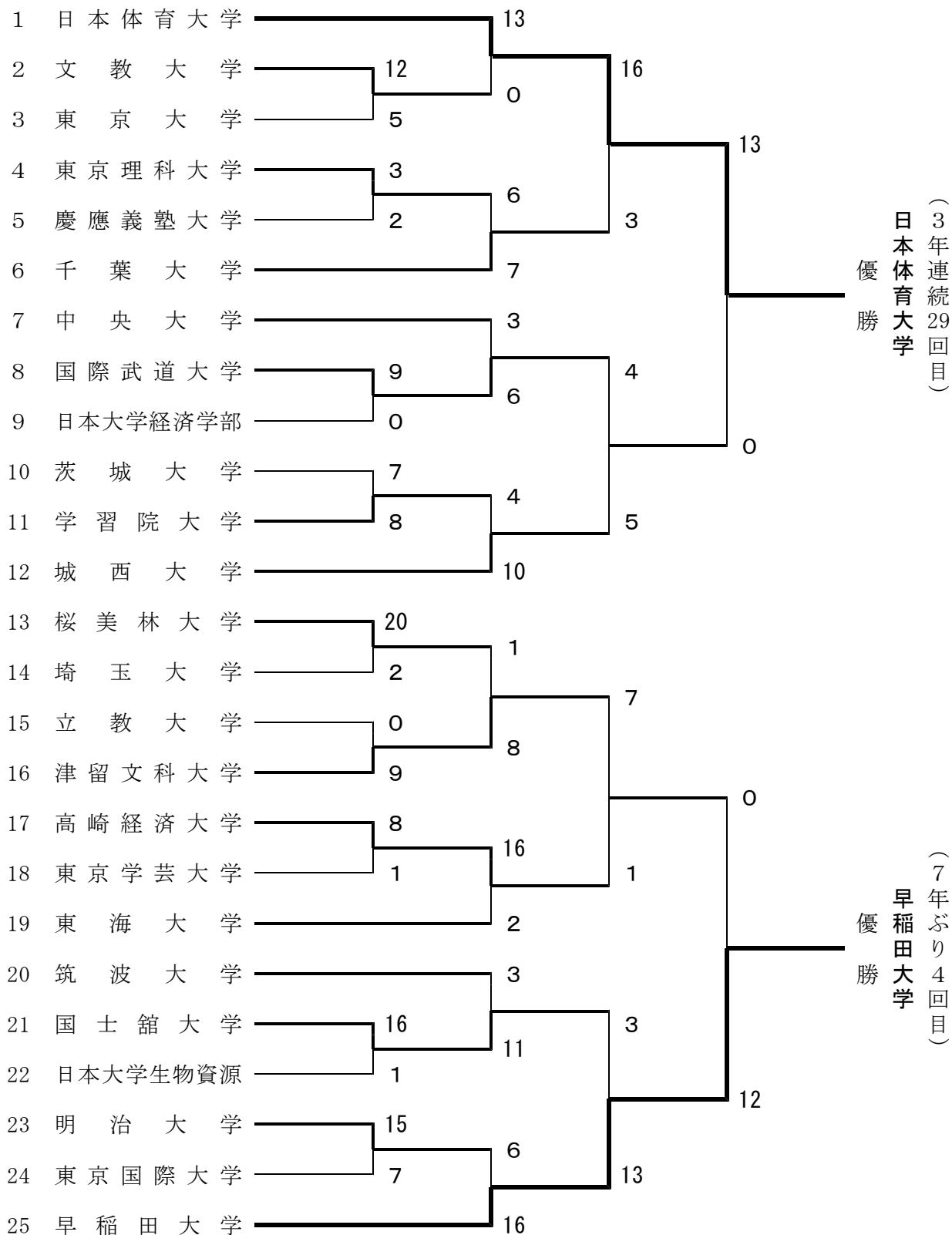
八方リーグ	東 海	大阪体育	美 作	岐阜協立	松 本	新島学園	勝	分	敗	点	失率	順
東 海		○ 9-2		○ 2-1								
大阪体育	● 2-9		● 0-8									
美 作		○ 8-0			△ 6-6							
岐阜協立	● 1-2					○ 6-1						
松 本			△ 6-6			○ 13-8						
新島学園				● 1-6	● 8-13							

※ 3 日間の大会期間中、2 日間が雨天のために試合ができず、順位決定はできませんでした。

第50回 関東大学ソフトボール選手権大会 男子の部

会期：令和元年10月27日(日)～29日(火)

会場：埼玉県鴻巣市／上谷総合運動公園野球場・多目的広場 他

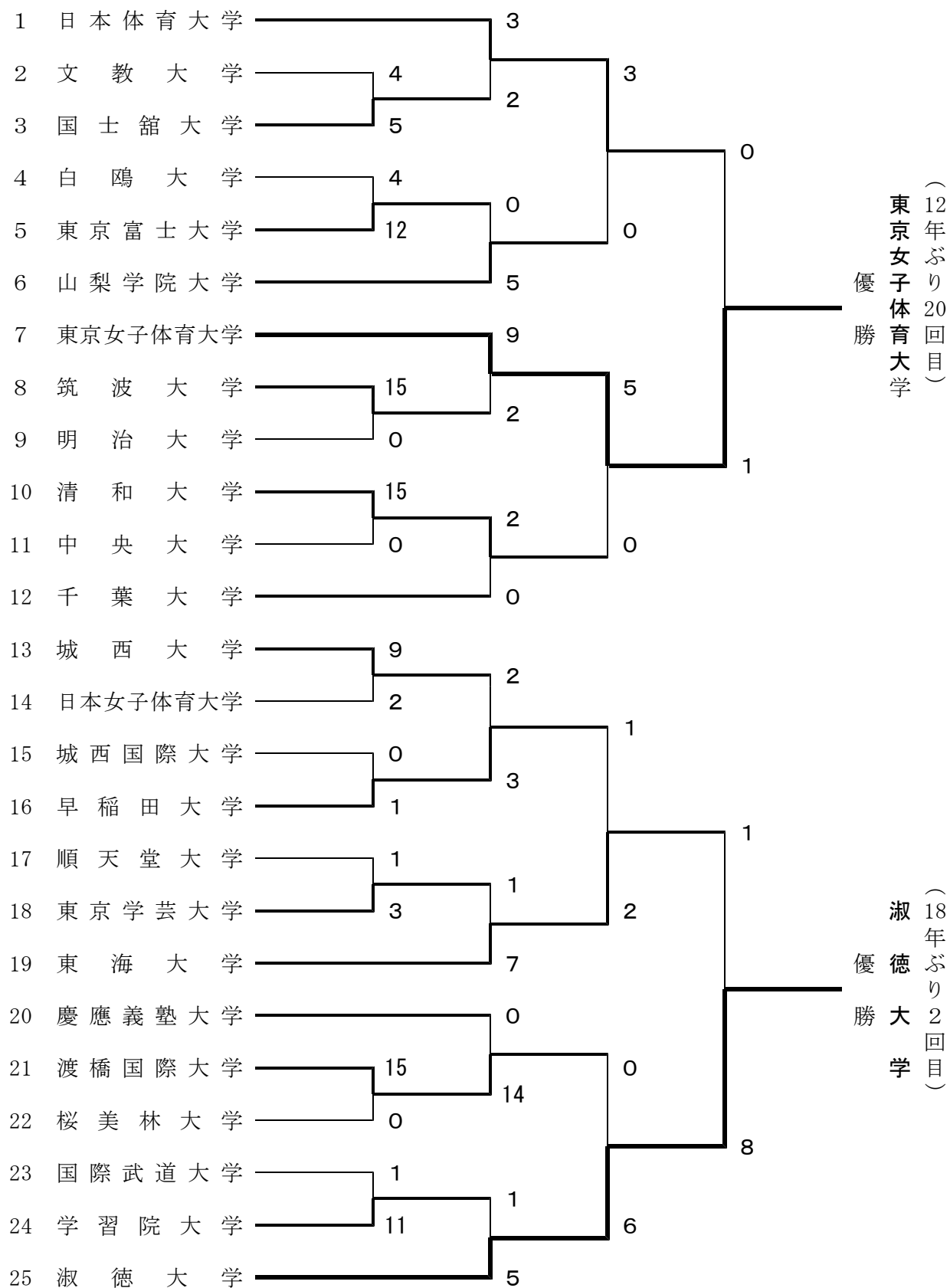


※天候不良で決勝戦が実施できず、2校優勝

第50回 関東大学ソフトボール選手権大会 女子の部

会期：令和元年10月27日(日)～29日(火)

会場：埼玉県鴻巣市／吹上総合運動場公園・川里中央公園



※天候不良で決勝戦が実施できず、2校優勝

会期：令和元年11月23・24日

(☆5～8位グループ戦)
※組み合わせ変更、順位付けず。

山梨学院大学 (初優勝)

(3.4位決定戦) NEC3-2金沢学院

2日目
1日目

1日目
2日目

神戸親和0-8環太平洋
(9～13位グループ戦)
※組み合わせ変更、順位付けず。

機関誌ウインドミルの原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

平成11年7月30日交付
はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆

原稿は以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

関西学生ソフトボール連盟50周年記念誌が、令和元年11月16日に発行されました。半世紀に及ぶ学連の活動が詳細に記録され、歴史の重みを感じられる冊子です。

本冊子に関するお問い合わせは、関西学生ソフトボール連盟森田啓之理事長（兵庫教育大学）<hmorita@hyogo-u.ac.jp>へお願いいたします。



平成30・31、令和元年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	中 野 元	熊本学園大学	—	
副 会 長	丸 山 悟	日本福祉大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
	住 吉 廣 行	松本大学	—	
顧 問	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授	水 野 信 義	W S M教育研究所
	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授
	中 野 紀 明	国土舘大学名誉教授	末 井 健 作	兵庫県立大学名誉教授
	武 藤 幸 政	城西大学名誉教授	小 嶋 高 良	八戸工業大学名誉教授
理 事 長	久保田 豊 司	大阪国際大学	—	
副理事長	岩 間 英 明	松本大学	清 水 正	山梨学院大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	舟 山 健 一	東北福祉大学	柳 田 信 也	東京理科大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	二 瓶 雄 樹	中京大学
	西 村 信 紀	環太平洋大学	伊 勢 幸 広	高知工科大学
	濱 貴 一	熊本学園大学	—	
理 事	大 塚 健 樹	盛岡大学	高 橋 知 美	富士大学
	長 澤 淑 恵	城西大学	高 橋 光 平	城西国際大学
	増 淵 まり子	淑徳大学	近 藤 弘 康	長岡大学
	筒 井 崇 護	日本体育大学	佐 藤 理 恵	東京女子体育大学
	松 井 慎 一	国土舘大学	川 崎 千 明	岐阜協立大学
	大 矢 隆 二	常葉大学	東 美 幸	東海学園大学

理 事	和 田 正 志	中京学院大学	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学
	鈴 木 正 明	四天王寺大学	児 玉 公 正	大阪大谷大学
	辻 井 美恵子	びわこ成蹊スポーツ大学	土 谷 文 乃	美作大学
	竹 下 俊 一	第一工業大学	吉 末 和 也	関西大学
	水 谷 博	至学館大学名誉教授	富 田 国 興	(広島修道大学)
評 議 員	森 英 寿	富士大学	金井塚 和 希	高崎経済大学
	田 浦 定 一	清和大学	多 田 邦 宏	金沢学院大学
	林 弓 美	日本体育大学	萱 野 貴 広	静岡大学
	宮 澤 千 尋	南山大学	古宇田 佳 愛	日本福祉大学
	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学	大 島 新 司	大阪工業大学
	服 部 イツ子	大阪青山大学	小 林 朝 子	羽衣国際大学
	河 内 満	広島修道大学	宮 尾 直 美	環太平洋短期大学
	山 中 卓	鹿児島国際大学	井 上 博 司	熊本学園大学
	長 澤 桂 子	日本文理大学	—	
監 事	細 田 きみ子	東京女子体育大学	平 野 義 明	関西大学
事 務 局	〒570-855 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学 kubota@oiu.ac.jp			
学 生 委 員 長	須 賀 祐 一	日本体育大学	※学生委員は2019年度のみ	
学 生 副 委 員 長	濱 口 眞	関西大学	-	-
学 生 委 員	荒 川 慶 人	東京大学	芳 賀 百合子	東京女子体育大学
	砂 山 里 菜	日本女子体育大学	澤 合 華 奈	中京学院大学
	栗 井 朋 弥	関西大学	野 瀬 くるみ	園田学園女子大学
	大 谷 朋 世	園田学園女子大学	片 山 雅 之	環太平洋大学
	藤 井 望 由	美作大学	-	-

令和元年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	8	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	17	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 城西大学 崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	7	金沢大学 信州大学 諏訪東京理科大学 富山大学 長岡大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	17	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	27	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都先端科学大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 和歌山大学	
中 国	11	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 島根大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学 高知大学	
九 州	16	大分大学 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 第一工業大学 長崎県立大学 西日本工業大学 長崎国際大学 福岡大学 福岡工業大学 佐賀大学 宮崎大学 名桜大学	

令和元年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	6	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学	
関 東	19	茨城大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学順 天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 中央学院大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 白鷗大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	6	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 新潟医療福祉大学 松本大学	
東 京	16	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 岐阜協立大学 岐阜聖徳学園大学 至学館大学 静岡大学 星城大学 中京大学 中京学院大学 中部学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学	
近 畿	25	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪教育大学 大阪経済法科大学 大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都先端科学大学 京都女子大学 京都産業大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良学園大学 兵庫教育大学 羽衣国際大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	7	環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学	
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	5	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学	
男 子 125大学 女 子 100大学 合 計 225大学			令和元年12月31日現在

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウィンドミル 第23号

2020年2月15日発行

発行者 全日本大学ソフトボール連盟会長 中野 元

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail : mztn@xd6.so-net.ne.jp

発行所 全日本大学ソフトボール連盟

〒570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学守口キャンパス

URL : <https://jcsf.jp/>

E-mail : kubota@oiu.ac.jp

印刷 西濃印刷(株)

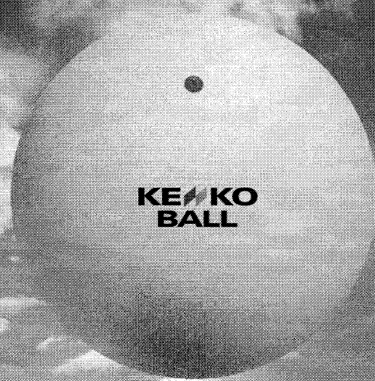
〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

進め、アシックスは
サムライ。応援する。



最新情報配信中



公式
ホームページ



公式
Twitter



侍ジャパンユニフォーム
コンセプト動画



ウインドミル NO. 23 (2019)

ISSN 1343-439 X